

病院事業概要

平成30年度版



真生会富山病院

目 次

1. 総括
2. 沿革
3. 外来別患者数
4. 入院患者数・平均在日数
5. リハビリ業務状況
6. 人間ドック利用状況・処方箋・注射手技
7. 内視鏡業務の実績
8. 検査科業務状況
9. 手術件数
10. 業績集（医師、看護部、医療安全管理室、緩和ケア内科、医事課、
PTS 推進室、臨床心理科、食膳栄養科、中央検査科、
薬剤科、視能訓練科）、第 7 3 回富山県医学会優秀賞獲得
11. 平成 3 0 年度法人事業計画 方針・行動計画
12. 平成 3 0 年度部署振り返りレポート
13. 平成 3 0 年度 1 0 大ニュース

美しい結集

院長 真鍋恭弘

平成という時代は、真生会設立と共に始まり、30年度という最後の年で幕を閉じます。大きな節目となったこの年に真生会はまた新たなスタートに向け、大きな変革を遂げることができました。4月の地域連携懇話会に始まり、5月南館増築完成、7月病棟機能入れ替え、9月30周年記念行事と大きなイベントを完遂すると共に、病院の重要な基盤制度である人事制度も構築しました。

真生会の強みはチーム力だと思っています。大きなプロジェクトは一人の力では、とても達成できず、多くの人の協力が必要です。上記のいずれのプロジェクトも、それぞれに関わったスタッフが同じ目標に向かって力を合わせた成果に他なりません。たいへんな苦労が必要だったと思いますが、苦労しただけのものを関わった人たちは手にされたはずです。それは、大きなプロジェクトだけに限らず、日々の業務でも同じです。すべての業務が自利利他の精神に基づいているからこそ、利他という素晴らしい幸せづくりが、そのまま自分の幸せとなっています。

令和の英訳 “Beautiful Harmony” のとおり、平成30年度に培ったみなさん一人一人のエネルギーを利他の実現に向けて美しく結集させて行きましょう。

医療法人 真生会 真生会富山病院 沿革

沿革		
S	63年 (1988年)	○真生会富山医院建設工事着工
	63年11月 (1988年)	○真生会富山医院竣工オープン(6室13床)(現:管理棟)
H	4年9月 (1992年)	○医療法人として発足
	6年8月 (1994年)	○クリニック棟工事着工(現:管理棟)、歯科棟建設工事着工
	7年1月 (1995年)	○クリニック棟竣工オープン(一般10室19床)(現:管理棟) 診療科(内科、小児科、眼科、胃腸科、循環器科、皮膚科、精神科)に加えて(神経内科、耳鼻科、整形、神経科、歯科)
	7年1月 (1995年)	○歯科棟竣工オープン
	10年10月 (1998年)	○託児施設『木の子ハウス』竣工オープン
	12年4月 (2000年)	○真生会富山病院竣工オープン (一般99床:さくら・わかば病棟オープン)(現:本館)
	14年7月 (2002年)	○DICOM画像システム稼動
	16年2月 (2004年)	○リハビリ棟竣工オープン
	16年3月 (2004年)	○本館MRI入れ替え (MRI MAGNETOM SYMPHONY 1.5T SIEMENS社製)
	16年5月 (2004年)	○広報誌『和顔愛語』発刊(創刊号)
	17年5月 (2005年)	○健診ステーション開設
	18年4月 (2006年)	○訪問看護ステーションこころ開設
	18年6月 (2006年)	○本館CT入れ替え (CT MDCT Aquilion16 東芝メディカル社製)
	18年12月 (2006年)	○人工透析室の開設
	19年4月 (2007年)	○内科専門外来開始
	19年5月 (2007年)	○電子カルテ稼動

医療法人 真生会 真生会富山病院 沿革

沿革		
H	19年10月 (2007年)	○血管形成術開始
	20年4月 (2008年)	○内科、小児科、消化器科、整形外科、外科、皮膚科、 泌尿器科、眼科、耳鼻科、心療内科、歯科 診療科が11科に増える
	20年4月 (2008年)	○病棟(わかば、さくら)に 入院患者専用のインターネット利用コーナー開設
	20年6月 (2008年)	○呼吸器内科開始、消化器科改め消化器内科に改名
	21年9月 (2009年)	○糖尿病・代謝内科、腎臓内科、血液内科開始
	21年9月 (2009年)	○南館竣工オープン(アイセンター・あやめ病棟オープン)
	21年10月 (2009年)	○心療内科リニューアルオープン
	21年11月 (2009年)	○消化器内科リニューアルオープン
	22年5月 (2010年)	○歯科棟リニューアルオープン
	22年5月 (2010年)	○地域医療連携室リニューアルオープン
	22年6月 (2010年)	○健診センターリニューアルオープン
	23年5月 (2011年)	○厨房リニューアル
	23年10月 (2011年)	○(財)日本医療機能評価機構が定める 病院機能評価の認定(Ver.6.0)を受審
	24年3月 (2012年)	○入院基本料7対1の取得
	24年3月 (2012年)	○眼科にiFS フェムトセカンドレーザー導入(AMO社製)
	24年6月 (2012年)	○第一回 健康セミナー開催「食べて出す健康法」「便秘に効くデルデル呼吸」
	24年8月 (2012年)	○広報誌『地域連携だより』発刊(創刊号)

医療法人 真生会 真生会富山病院 沿革

沿革		
H	24年11月 (2012年)	○夕方外来受付時間の変更(16:00～19:30 → 16:00～19:00)
	24年12月 (2012年)	○院内暴力対策訓練(第一回)
	25年9月 (2013年)	○第29回日本視機能看護学会学術総会(主管 真生会富山病院)
	26年4月 (2014年)	○緩和ケア内科 新設
	26年11月 (2014年)	○セカンドホームほのか(住宅型有料老人ホーム)竣工
	26年11月 (2014年)	○大連医科大学と医療技術交流スタート
	26年11月 (2014年)	○舘医師(大連医科大学)客員教授に任命
	26年12月 (2014年)	○真生会デンタルクリニックリニューアルオープン
	27年4月 (2015年)	○瀋陽市第四人民医院と協力(友好)関係協定調印
	27年4月 (2015年)	○舘医師(瀋陽市第四人民医院)客員教授に任命
	27年5月 (2015年)	○外国人医師研修指定病院に登録
	27年10月 (2015年)	○透析室リニューアルオープン
	27年10月 (2015年)	○地域包括ケア病棟 開設(さくら病棟)
	27年12月 (2015年)	○病院15周年記念講演会の開催
	28年10月 (2016年)	○(財)日本医療機能評価機構が定める病院機能評価の認定(一般病院1)を更新
	28年12月 (2016年)	○射水市消防本部と合同で初めての救急症例勉強会を開催
	28年12月 (2016年)	○公式テレビCM完成
	29年2月 (2017年)	○病院総合パンフレット発刊(初版)

医療法人 真生会 真生会富山病院 沿革

沿革		
	29年3月 (2017年)	○外国人患者の身元保証機関に登録
	29年5月 (2017年)	○消化器センター開設
	29年6月 (2017年)	○駐車場改修工事実施
	29年10月 (2017年)	○新人事制度導入
	30年3月 (2018年)	○真生会グループロゴ作成
	30年4月 (2018年)	○形成外科 新設
	30年4月 (2018年)	○第1回真生会地域連携懇話会開催
	30年5月 (2018年)	○南館増築工事竣工
	30年5月 (2018年)	○腎透析センター開設
	30年5月 (2018年)	○糖尿病センター開設
	30年7月 (2018年)	○病棟の入れ替え実施、地域包括ケア病棟 変更(わかば病棟)
	30年7月 (2018年)	○JMIPの認証取得
	30年8月 (2018年)	○本館CT入れ替え(CT SOMATOM Perspective SIEMENS 社製)
	30年8月 (2018年)	○何氏(かし)眼科病院との友好協定に調印
	30年9月 (2018年)	○創立30周年記念行事 感謝の集い開催

患者の状況

外来患者数(平成30年度)

(単位:人)

月	内科	消化器内科	外科	整形外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	緩和ケア内科	麻酔科	形成外科	心療内科	リハビリ科	歯科	人間ドック	企業健診等	時間外(昼)	時間外(夜)	計(月)
4	4,020	1,203	466	2,343	698	1,948	3,704	2,317	432	20	33	138	550	1,389	1,369	71	248	216	139	21,304
5	4,158	1,229	441	2,429	668	1,933	3,843	2,616	487	25	39	286	571	1,413	1,363	71	248	390	180	22,390
6	4,014	1,409	392	2,550	689	1,973	4,075	2,855	486	22	46	341	553	1,535	1,374	97	1,033	147	144	23,735
7	4,164	1,427	439	2,404	623	1,723	3,819	2,903	514	28	47	394	596	1,544	1,438	93	1,029	317	204	23,706
8	4,348	1,522	523	2,508	587	1,803	3,917	2,906	513	30	43	469	614	1,450	1,377	98	939	194	196	24,037
9	3,706	1,317	488	2,287	628	1,537	3,721	2,353	514	22	34	339	487	1,396	1,190	98	939	284	156	21,496
10	4,479	1,565	467	2,567	851	1,892	4,093	2,510	518	41	45	436	637	1,531	1,203	97	1,476	197	154	24,759
11	4,320	1,319	485	2,383	959	1,726	3,689	2,520	525	23	50	298	537	1,464	1,225	98	523	222	154	22,520
12	4,182	1,326	417	2,287	871	1,734	3,913	2,409	530	27	35	365	565	1,301	1,259	78	362	144	156	21,961
1	4,638	1,183	373	2,207	962	1,605	3,447	2,029	497	31	44	377	559	1,381	1,131	65	242	434	200	21,405
2	3,810	1,098	340	2,123	726	1,903	3,547	2,135	457	28	46	346	530	1,351	1,126	62	267	116	192	20,203
3	4,132	1,313	430	2,419	714	2,753	4,373	2,547	524	43	44	386	598	1,534	1,200	72	238	161	115	23,596
計	49,971	15,911	5,261	28,507	8,976	22,530	46,141	30,100	5,997	340	506	4,175	6,797	17,289	15,255	1,000	7,544	2,822	1,990	271,112

外来患者数(平成29年度)

月	内科	消化器内科	外科	整形外科	小児科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	緩和ケア内科	麻酔科	形成外科	心療内科	リハビリ科	歯科	人間ドック	企業健診等	時間外(昼)	時間外(夜)	計
計	49,077	16,101	6,737	28,292	9,286	21,317	43,919	31,196	5,995	330	486	0	6,752	16,649	16,746	1,003	7,165	3,251	2,308	266,610

患者の状況

入院患者平均在日数(平成30年度)

(単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	30年 (年間)	29年 (年間)
わかば	12.8	12.3	11.2	9.8	11.8	11.5	12.6	12.6	11.5	11.4	11.3	9.3	11.5	11.3
さくら	10.7	10.4	10.3	8.7	9.0	9.4	9.9	10.5	9.6	10.5	9.3	9.7	9.8	13.8
あやめ	3.6	3.7	3.6	3.3	3.3	3.6	3.6	3.5	3.7	3.5	3.2	3.9	3.5	3.6
全体	9.3	9.3	8.5	8.2	8.1	8.7	8.8	9.2	8.4	9.1	8.0	8.0	8.6	8.7

入退院患者数(平成30年度)

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	30年合計	29年合計
わかば	150	153	186	195	169	175	171	158	188	179	171	206	2,101	2,553
さくら	195	210	214	237	226	228	226	201	243	216	223	221	2,640	2,002
あやめ	308	307	325	344	345	285	335	321	320	300	323	311	3,824	3,800
合計	653	670	725	776	740	688	732	680	751	695	717	738	8,565	8,355

入院患者延数(平成30年度)

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	30年合計	29年合計
わかば	1,210	1,176	1,203	1,287	1,197	1,174	1,292	1,246	1,265	1,220	1,147	1,172	14,589	15,359
さくら	1,294	1,311	1,294	1,313	1,228	1,279	1,350	1,310	1,349	1,318	1,202	1,244	15,492	14,356
あやめ	571	603	611	599	584	534	624	596	605	561	548	631	7,067	6,937
合計	3,075	3,090	3,108	3,199	3,009	2,987	3,266	3,152	3,219	3,099	2,897	3,047	37,148	36,652

リハビリ業務の状況

(単価:人) (単価:人)

	30年(年間)	29年(年間)
脳血管疾患等リハビリテーション	1,815	2,596
廃用症候群リハビリテーション	3,375	3,158
運動器リハビリテーション	13,859	13,002
呼吸器リハビリテーション	2,238	2,042
がん患者リハビリテーション	1,480	1,173
計	22,767	21,971

人間ドック等の利用状況

(単価:人)

ドック		992
健康診断	会社	884
	一般(自費)	478
	生活習慣病予防健診	1,400
住民健診	健康診査	1,506
	胃がん検診	912
	大腸がん検診	1,045
	肺がん検診	948
	前立腺がん検診	219
	射水市肝炎ウイルス検診	60
富山県肝炎ウイルス検査		6
富山県風疹抗体検査		31
平成30年 合計		8,481
平成29年 合計		8,437

薬剤科業務の状況/処方箋の状況

(単価:枚)

処方箋枚数	入院	15,258
	外来(院内・院外)	167,501
	平成30年 合計	182,759
	平成29年 合計	179,231

注射手技の状況

(単価:件)

点滴		13,690
筋注		4,445
静脈		1,040
平成30年 合計		19,175
平成29年 合計		19,773

内視鏡業務の実績

(単価:件数)

	30年度
上部消化管内視鏡件数(治療73件)	4,529
下部消化管内視鏡件数(治療373件)	1,358
内視鏡的膵胆管造影件数(治療51件)	71
経皮経肝胆管ドレナージ術等	4
早期胃癌に対する粘膜下層剥離術	14
消化管ステント術	5
肝癌に対する肝動脈化学塞栓術	9
肝癌に対するラジオ波焼灼療法	4
胃瘻造設術	27
小腸カプセル内視鏡	6
大腸カプセル内視鏡	2
計	6,029

検査科業務集計 H30年度

	生化学	血液	尿・一般	生理	超音波	輸血	細菌	病理	細胞診	免疫	迅速検査キット	血液ガス
4月	3,045	3,273	1,951	1,379	413	10	262	117	29	742	333	41
5月	3,262	3,458	1,940	1,418	455	22	330	102	30	921	247	68
6月	3,557	3,796	2,609	1,727	525	49	296	134	38	949	157	44
7月	3,687	3,934	2,459	1,748	505	13	339	147	29	948	165	39
8月	3,696	3,995	2,280	1,728	499	19	347	137	27	896	158	52
9月	3,244	3,484	2,118	1,481	452	11	254	138	37	906	182	51
10月	3,683	3,934	2,661	1,753	496	12	268	151	28	1,029	206	48
11月	3,479	3,682	2,214	1,677	518	18	263	134	33	929	243	65
12月	3,446	3,715	2,012	1,762	499	21	241	125	24	913	455	38
1月	3,489	3,856	2,147	1,903	481	27	200	133	24	962	1,525	49
2月	3,369	3,631	2,183	1,925	457	14	222	155	29	999	722	29
3月	3,523	4,015	2,095	1,871	510	26	227	124	31	984	361	49
30年合計	41,480	44,773	26,669	20,372	5,810	242	3,249	1,597	359	11,178	4,754	573
29年合計	38,017	40,345	26,107	18,224	5,840	212	3,236	1,536	388	9,647	3,768	594

* 血液検査: 血液算定、血液凝固検査、全血簡易検査(トロップT、HFABB)

* 尿・一般: 尿定性、便潜血

* 生理検査: 心電図、超音波検査、脈波検査、肺活量、脳波、神経伝導

* 迅速検査キット: ウイルス検査(インフルエンザ、 β 溶連菌、マイコプラズマ、RSV、アデノV、肺炎球菌、ロタV、ノロV、プロカルシトシン、CD毒素)

* 感染症(TPHA、HBs、HCV)、免疫(TSH、FT3、FT4、CA19-9、CEA)

平成30年手術件数

皮膚科 手術、検査、美容手技件数(平成30年)		
内容	内訳	件数
手術	皮膚良性腫瘍摘出術	275
	ほくろなどの炭酸ガスレーザー治療	142
	陥入爪手術	28
	皮膚悪性腫瘍摘出術	2
検査	皮膚生検	58
	パッチテスト	13
検査	シミ、あざのレーザー治療	346
	イオン導入、超音波導入	108
平成30年合計		972
平成29年合計		978

形成外科手術件数(平成30年)	
手術内容	件数
皮膚・皮下良性腫瘍	308
皮膚悪性腫瘍(皮膚がん)	9
軟部腫瘍	9
陥入爪(巻き爪)	16
足壊疽	8
眼瞼下垂・内反症	5
瘢痕・ケロイド(キズあと)	4
腋臭症(わきが)	2
熱傷(やけど)	2
顔面骨折	2
その他の外傷(切り傷の縫合など)	22
その他(異物、白斑、耳垂裂、骨腫瘍など)	8
平成30年合計	395

平成30年手術件数

整形外科手術件数(平成30年)	
手術内容	件数
骨折観血の手術	105
脊椎手術	6
肩関節鏡視下手術	123
人工肩関節置換術	21
人工股関節置換術	27
人工膝関節置換術	12
膝関節鏡視下手術	2
関節形成術	4
人工骨頭挿入術	12
腫瘍摘出術	6
腱縫合術	10
神経縫合、剥離術	6
その他(骨切り、抜釘、腱鞘切開等)	20
平成30年合計	354
平成29年合計	333

整形外科 肩関節鏡手術件数(平成30年)	
手術内容	件数
肩腱板断裂	139
石灰沈着性腱板炎	4
反復性脱臼	5
肩関節拘縮	7
関節唇・SLAP損傷	7
人工関節(リバーズ)	21
平成30年合計	183
平成29年合計	182

平成30年手術件数

外科手術件数(平成30年)		
手術内容	内訳	件数
癌切除術(計31件)	胃癌(胃切除術,胃全摘術)	5
	大腸癌(結腸切除術,直腸切除術)	25
	胆嚢がん	1
大腸切除術		3
胃空腸吻合術		1
人工肛門造設術		4
人工肛門閉鎖術		1
腸管癒着症手術		5
骨盤内腫瘍摘出術		1
腹腔鏡下虫垂切除術		13
胆嚢摘出術(腹腔鏡・開腹)		38
胆管結石摘出術		2
試験開腹術		4
肛門手術		9
鼠径ヘルニア手術		19
その他ヘルニア手術		2
中心静脈ポート植込術		30
腹膜透析カテーテル挿入術		3
皮膚・皮下腫瘍摘出術		4
その他		2
平成30年合計		172
平成29年合計		192

平成30年手術件数

眼科手術件数(平成30年)	
手術内容	件数
増殖性硝子体網膜症手術、 黄斑下手術などを含む硝子体手術 (うち白内障手術、眼内レンズ挿入術との同時手術330件)	491
網膜復位術	3
白内障手術(超音波摘出術、囊外摘出術、囊内摘出術) 眼内レンズ挿入術	1,570
緑内障手術 (うち白内障手術、眼内レンズ挿入術との同時手術83件)	164
涙道手術	99
斜視手術	29
眼瞼手術	120
その他の観血手術(翼状片手術など)	203
エキシマレーザー	38
ICL	54
光線力学療法	9
後発白内障手術	468
網膜光凝固術	314
平成30年合計	3,562
平成29年合計	3,493

麻酔科手術件数(平成30年)	
麻酔内容	件数
全身麻酔	604
脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔)	12
その他	9
麻酔科管理症例(平成30年合計)	625
平成29年合計	598

平成30年手術件数

耳鼻科 手術件数(平成30年)		
手術内容	内訳	件数
耳領域 (計75件)	鼓室形成手術	34
	鼓膜形成術	6
	アブミ骨手術	3
	内耳窓閉鎖術	1
	内リンパ嚢開放術	1
	先天性耳瘻管摘出術	2
	鼓膜チューブ挿入術	24
	外耳道形成術	3
	外耳道腫瘍摘出術	1
鼻副鼻腔領域 (計111件)	鼻内副鼻腔手術	48
	粘膜下下鼻甲介骨切除術	16
	翼突管神経切除術	8
	鼻中隔矯正術	25
	鼻骨骨折整復術	6
	アデノイド切除	5
	眼窩骨折観血的手術	2
	頬骨骨折観血的整復術	1
咽喉頭頸部 領域(計54件)	口蓋扁桃手術(摘出)	17
	いびきに対する軟口蓋形成手術	5
	頸部郭清術	1
	頸部リンパ節切除術	2
	耳下腺腫瘍摘出術	2
	甲状腺悪性腫瘍手術	3
	甲状腺良性腫瘍手術	3
	口腔腫瘍摘出術	1
	喉頭腫瘍摘出術	1
	声帯ポリープ切除術	7
	喉頭形成手術	1
	頸嚢摘出術	2
	気管切開術	2
	唾石摘出術	4
	舌腫瘍摘出術	1
	輪状咽頭筋切断	1
	深頸部膿瘍切開排膿術	1
平成30年合計		240
平成29年合計		207

平成30年手術件数

泌尿器科手術件数(平成30年)	
手術内容	件数
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術	6
経皮的腎瘻造設術	1
経皮的膀胱瘻造設術	1
尿管ステント挿入術	2
精巣高位摘出術	1
尿道脱手術	1
前立腺生検	1
陰のう形成術	1
環状切除術	2
平成30年合計	16
平成29年合計	11

日帰り治療件数(平成30年)		
内容	内訳	件数
抗がん剤治療 (計585件)	内科(血液がん・肺がん)	328
	外科(大腸がん・胃がん・乳がん)	237
	消化器内科(膵臓がん・胆管がん)	37
レミケード (計79件)	整形外科	19
	皮膚科	12
	消化器内科	42
	眼科	6
	内科	0
アクテムラ		81
オレンシア		57
輸血		4
補液		160
平成30年合計		983

【平成30年医師業績集】

名前	刀塚 俊起（なたづか としき）	
発表業績(学会)	「DICIによって発見されたB型大動脈解離の一例」 第八十回日本血液学会学術集会(大阪国際会議場) 刀塚 俊起	平成30年10月13日
	「2016/2017シーズンの4価インフルエンザワクチン効果」 第92回日本感染症学会学術講演会in岡山 刀塚 俊起,新保 卓也	平成30年5月31日 ～平成30年6月2日

名前	二村 明広（ふたむら あきひろ）	
発表業績(学会)	「カルニチン欠乏を招いたてんかん治療の維持透析症例」 日本透析医学会 二村 明広,波部 孝弘,柳川 智恵,宮原 久美子,森田 茜,黒田 知代,楠 浩平,千葉 友広,野 逸郎,和泉 秀俊	平成30年6月10日

名前	平谷 和幸（ひらたに かずゆき）	
発表業績(学会)	「糖尿病性腎症2-4期患者へのLiraglutide投与による腎機能保護(蛋白尿改善効果)についての検討」 第61回日本糖尿病学会年次学術集会(東京) 平谷 和幸	平成30年5月25日

名前	佐々木 彰一（ささき あきひと）	
発表業績(学会)	「当院の25-(OH)-VitD採血患者に対する、ビタミンD欠乏者の割合の報告」 第235回日本内科学会北陸地方会 佐々木 彰一,小野地 雄貴,刀塚 俊起	平成30年6月17日

名前	横山 敏啓（よこやま としひろ）	
発表業績(学会)	「パセドウ病の治療前後の血糖変動をCGMで観察した1型糖尿病の1例」 第92回日本糖尿病学会中部地方会 横山 敏啓,清水 和彦,平谷 和幸	平成30年9月22日

名前	波部 孝弘（はべ たかひろ）	
発表業績(論文)	「Two Separate Layers of Liquid in the Stomach」 Intern Medicine. 2018 Aug 24 Habe T, Natazuka T.	平成30年
発表業績(学会)	「麻痺性イレウスを呈し被毒性腹膜硬化症との鑑別に苦慮した腹膜透析関連腹膜炎の一例」 第24回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 波部 孝弘,二村 明広,古谷 正晴,本多 正治	平成30年10月7日
	「症状緩和にステロイドが有効だった尿毒症性胸膜炎の1例」 第63回日本透析医学会学術集会・総会 波部 孝弘,二村 明広,北澤 勉	平成30年7月1日

名前	瀬川 莉恵子（せがわ りえこ）	
発表業績(学会)	「肝臓内巨大腫瘍の治療後に腫瘍出血を起こしたが寛解になったびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の一例」 第36回日本血液学会北陸地方会 瀬川 莉恵子,刀塚 俊起	平成30年7月28日

名前	田中 宏明（たなか ひろあき）	
発表業績(学会)	「重症呼吸不全で発症し、多剤併用免疫抑制療法で救命し得た抗EJ抗体陽性急速進行性間質性肺炎の1例」 第234回日本内科学会北陸地方学会 田中 宏明	平成30年3月

名前	平名 浩史（ひらな ひろふみ）	
発表業績(学会)	「非びらん性胃食道逆流症(non-erosive reflux disease:NERD)におけるHSP (Highly sensitive person)併存の実際とHSPの視点からの治療選択の検討」JDDW2018 平名 浩史,本藤 有智,真野 鋭志,河相 寛,松村 孝之	平成30年11月2日
	「消化器外来で漢方薬が有効であった症例の検討」 奥西消化管kampo講演会 平名 浩史	平成30年10月24日
	「機能性ディスペプシア(functional dyspepsia;FD)の診療にHSP(Highly sensitive person)の視点を導入する臨床的有用性についての検討」 第104回日本消化器病学会総会 平名 浩史,本藤 有智,真野 鋭志,河相 寛,松村 孝之	平成30年4月19日

【平成30年医師業績集】

名前	本藤 有智(もとふじ ゆうち)	
発表業績(学会)	「経皮内視鏡的胃瘻造設術後に発症した門脈ガス血症を伴う胃・腸管気腫症の1例」 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会 本藤 有智,梅原 真弓,片岡 恵理子,結川 美帆,前澤 貴子,伊藤 篤,秋濃 ゆか,田畑 佳孝,川崎 華子,田川 倫子, 江守 龍一郎,高橋 恵梨子,門野 瑠美,奥野 千晶,田島 和浩,真野 鋭志	平成31年2月14日
	「若年者の虚血性腸炎の特徴－当院における虚血性腸炎症例の検討－」 第26回日本消化器病学会週間 本藤 有智,小倉 由起子,平名 浩史,松村 孝之,河相 寛,真野 鋭志	平成30年11月1日
	「Aeromonas hydrophila感染と潰瘍性大腸炎増悪の鑑別に苦慮した一例」 第126回日本消化器病学会北陸支部例会 本藤 有智,小倉 由起子,平名 浩史,松村 孝之,河相 寛,真野 鋭志	平成30年6月10日
	「当院における高齢者出血性潰瘍の現状」 第104回日本消化器病学会総会 本藤 有智,小倉 由起子,平名 浩史,松村 孝之,河相 寛,真野 鋭志	平成30年4月20日

名前	太田 悟(おた さとる)	
発表業績(論文)	「腱板断裂に対するsuture-bridge法の治療成績－系使用例とテーブ材使用例の比較－」 肩関節 ;42 (2018) No.3 p. 686-689 太田 悟,駒井 理	平成30年
	「鏡視下授動術とARCRの同時手術例の成績」 JOSKAS (日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌) Vol43:No.3,637-642,2018 太田 悟	平成30年
発表業績(学会)	「シヤルコー肩関節に対するRSA後に、ステム周囲骨折をきたしrevisionを施行した1例」 第49回 日本人工関節学会 太田 悟	平成31年2月16日
	「腱板広範囲断裂に対するSCRとRSAの術後成績の比較検討」 第45回日本肩関節学会 太田 悟	平成30年10月20日
	「ARCR術後肩深部感覚と肩関節機能の関連性について」 第15回信越肩関節フォーラム (リハビリテーション科 高橋 武広),太田 悟	平成30年7月28日
	「広範囲腱板断裂に対するgraft augmentation法の成績-SCRとの比較」 第47回北陸リウマチ・関節研究会 太田 悟	平成30年7月22日
	「Examination of graft augmentation method for massive rotator cuff tear」 第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS 太田 悟	平成30年6月14日
発表業績(講演)	「関節リウマチにおけるバリシチニブの使用経験と肩関節治療」 能登JAKセミナー(特別演題) 太田 悟	平成31年3月15日
	「高齢者の関節リウマチ～肩の痛みから診断されたケース」 射水市『痛み』の市民公開講座 その痛み何が原因!? パート2 太田 悟	平成30年11月23日
	「関節リウマチの治療」 第2回リウマチを考える会in射水(特別講演) 太田 悟	平成30年11月8日
	「関節リウマチの病態と診断」 第1回リウマチを考える会in射水(特別講演) 太田 悟	平成30年10月25日
発表業績(その他)	「高齢者関節リウマチの治療」 呉西地区関節リウマチフォーラム 太田 悟	平成30年7月4日

名前	柳原 誠(やなぎはら まこと)	
発表業績(論文)	「Nerve alterations showing autophagy in 2 patients with lichen aureus.」 J Cutan Pathol. 2018 Jun;45(6):423-427 Yanagihara M, Makino T, Shimizu T, Mochizuki T.	平成30年
発表業績(学会)	「Arthroderma benhamiaeによる体部白癬の1例」 62回日本医真菌学会(東京) 柳原 誠,安澤 数史,牛上 敦,望月 隆	平成30年9月8日
	「Arthroderma benhamiae (Group II)による体部白癬の1例:SEM像を中心に」 北陸真菌懇話会(金沢) 柳原 誠,安沢 数史,花川 博義,梅原 康次,望月 隆	平成30年7月8日

【平成30年医師業績集】

名前	館 奈保子(たち なおこ)	
発表業績(論文)	「【これでわかる眼内レンズ度数決定のコツ】緑内障手術や硝子体手術からみたIOL度数計算のコツ(解説/特集)」 OCULISTA(2187-5855)63号 Page73-82(2018.06) 館 奈保子	平成30年6月
発表業績(学会)	「急性緑内障発作に対する白内障手術、隅角癒着解離術施行時の屈折予測」 第69回京大眼科同窓会学会、京都大学時計台講堂 館 奈保子, 植田 芳樹, 朝比奈 祐一, 小林 英則, 芳村 賀洋子, 橋本 義弘	平成30年10月21日
発表業績(講演)	「Diagnosis and Treatment of Pathological Myopia」 The 10th International Symposium of Sanmenxia Hospital of the Yellow River 館 奈保子	平成31年3月
	「気をつけよう目のケガ」 ありそドーム 館 奈保子	平成31年3月17日
	「身近な生活にひそむ危険一目のケガを予防する」 高山市民文化会館 館 奈保子	平成30年12月14日
	「加齢でおこる目の病気」 片口老人会 片口コミュニティセンター 館 奈保子	平成30年11月30日
	「Surgical management of diabetic macular edema」 He's Eye Hospital Clinical Conference 館 奈保子	平成30年11月
	「Diagnosis and Treatment of Diabetic Macular Edema」 The 9th International Symposium of Sanmenxia Hospital of the Yellow River 館 奈保子	平成30年11月
	「Surgical management of diabetic macular edema」 The Chinese University of Hong Kong, Grand Round 館 奈保子	平成30年11月
	「疲れ目はなぜおこる？」 高山市こくふ交流センター 館 奈保子	平成30年10月26日
	「飛蚊症のナゾをとく」 ありそドーム 館 奈保子	平成30年9月30日
	「PEA-IOL-Goniosynechialysis for Acute Angle Closure Glaucoma」 Shenyang No.4 People's Hospital International Symposium 館 奈保子	平成30年9月28日
	「術中OCTを活用した網膜硝子体手術」 東京大学眼科茶話会(学会館) 館 奈保子	平成30年9月22日
	「飛蚊症とは？」 高山市民文化会館 館 奈保子	平成30年9月7日
	「Accuracy of Intraocular Lens Power Estimation in Eyes Having Primary Phacoemulsification, Intraocular Lens Implantation and Goniosynechialysis for Acute Angle-Closure Glaucoma」 Asia Pacific Glaucoma Congress, Ulaanbaatar Mongol 館 奈保子	平成30年8月22日
	「老眼になったら？」 高山市民文化会館 館 奈保子	平成30年7月20日
	「泣くに泣けない涙のはなし」 高山市民文化会館 館 奈保子	平成30年6月22日
発表業績(著書)	「加齢でおこる目の病気」 ふたぐち地域振興会 ふたぐちコミュニティセンター 館 奈保子	平成30年6月17日
	「糖尿病による失明を防ぐには」 高山市こくふ交流センター 館 奈保子	平成30年5月25日
	「糖尿病網膜症微細構造に観る血糖コントロールの重要性 内科と眼科の連携による合併症予防」 第1回真生会地域連携懇話会 @第一イン新湊 館 奈保子	平成30年4月7日
発表業績(著書)	失明のリスク 1万年堂出版 館 奈保子	平成30年

【平成30年医師業績集】

名前	植田 芳樹(うえた よしき)	
発表業績(論文)	「リバスジル点眼使用患者へのトラベクトームを用いた線維柱帯切開術の効果の検討」 眼科手術Vol31:431-435, 2018 植田 芳樹, 舘 奈保子, 橋本 義弘, 芳村 賀洋子	平成30年
発表業績(学会)	「上斜筋麻痺・交代性上斜位に対する下斜筋前方移動術の手術成績」 第79回富山眼科集談会 植田 芳樹, 舘 奈保子, 橋本 義弘, 朝比奈 祐一, 小林 英則, 芳村 賀洋子	平成30年11月25日
	「外傷性涙小管断裂からヒントを得た重症ドライアイに対する涙小管偏位術」 フォーサム2018 植田 芳樹, 佐々木 次壽, 舘 奈保子, 橋本 義弘, 小林 英則, 芳村 賀洋子	平成30年7月16日
	「谷戸式フックを用いた線維柱帯切開術の成績」 第79回富山眼科集談会 植田 芳樹, 舘 奈保子, 橋本 義弘, 朝比奈 祐一, 小林 英則, 芳村 賀洋子	平成30年5月29日

名前	真鍋 恭弘(まなべ やすひろ)	
発表業績(論文)	「急性低音障害型感音難聴難治例に対する漢方薬の効果」 耳科学会 第28巻 3号 真鍋 恭弘, 徳永 貴広	平成30年
発表業績(学会)	「日本の医療事情、耳管開放症の最新治療」 河南省黄河病院友好調印式(招待・特別講演)(中国河南省三門峽市) 真鍋 恭弘	平成31年3月30日
	「真生会富山病院の理念について」 鄭大病院関連病院会議(招待・特別講演等)(中国河南省三門峽市) 真鍋 恭弘	平成31年3月29日
	「当科における耳硬化症手術の状況と高木法の追試について」 日本耳鼻富山県地方部会総会(富山) 真鍋 恭弘, 徳永 貴広	平成30年12月2日
	「看護師による良性発作性頭位めまい症に対する頭位治療補助の有効性について」 第77回日本めまい平衡医学会総会(山口) 真鍋 恭弘, 伏木 宏彰	平成30年11月29日
	「起立性調節障害の増悪に伴い聴力が変動する感音難聴の一例」 第28回日本耳科学会総会(大阪) 真鍋 恭弘, 徳永 貴広	平成30年10月5日
	「耳管開放症に対する外科的治療前後の聴力の検討」 第5回耳管開放症研究会(富山市) 真鍋 恭弘	平成30年7月5日
発表業績(講演)	「当科で経験した外リンパ瘻5症例の検討」 日本耳鼻咽喉科学会富山県地方部会一般講演(口演) 真鍋 恭弘	平成30年4月8日
発表業績(テレビ・新聞)	「外国人患者ウエルカム」 真生会富山病院が外国人患者受け入れ医療機関認証を取得した(NHK中部) 真鍋 恭弘	平成30年10月12日
	「外国人患者ウエルカム」 真生会富山病院が外国人患者受け入れ医療機関認証を取得した(NHK富山) 真鍋 恭弘	平成30年9月4日
	「中国遼寧省病院と友好提携」 真生会富山病院が中国遼寧省何氏眼科医院と友好提携をした(北日本新聞) 真鍋 恭弘	平成30年8月8日
	「外国人患者ウエルカム」 真生会富山病院が外国人患者受け入れ医療機関認証を取得した(北日本新聞) 真鍋 恭弘	平成30年7月31日
発表業績(その他)	「学会(研究会)の開催」 富山県呉西地区耳症例研究会(主催)(高岡) 真鍋 恭弘	平成30年9月13日

【平成30年医師業績集】

名前	徳永 貴広 (とくなが たかひろ)	
発表業績(論文)	「Combination therapy with montelukast and loratadine alleviates pharyngolaryngeal symptoms related to seasonal allergic rhinitis」 J Allergy Clin Immunol Pract. 7巻3号 p.1068-1070 Y.Imoto, T.Takabayashi, M.Sakashita, T.Tokunaga, T.Morikawa,T.Ninomiya, M.Okamoto, N.Narita, S.Fujieda	平成31年3月
	「Eotaxin-3 as a Plasma Biomarker for Mucosal Eosinophil Infiltration in Chronic Rhinosinusitis」 Front Immunol. 10巻 p.74 T.Yamada, Y.Miyabe, S.Ueki, S.Fujieda, T.Tokunaga, M.Sakashita, Y.Kato, T.Ninomiya, Y.Kawasaki, S.Suzuki, H.Saito	平成31年2月
	「Suppression of SESN1 reduces cisplatin and hyperthermia resistance through increasing reactive oxygen species (ROS) in human maxillary cancer cells」 Int J Hyperthermia. 35巻1号 p.269-278 N.Narita, Y.Ito, T.Takabayashi, M.Okamoto, Y.Imoto, K.Ogi, T.Tokunaga,H.Matsumoto, S.Fujieda	平成30年12月
	「Charcot-Leyden crystal formation is closely associated with eosinophil extracellular trap cell death」 Blood. 132巻20号 p.2183-2187 S.Ueki, T.Tokunaga, RCN.Melo, H.Saito, K.Honda, M.Fukuchi, Y.Konno, M.Takeda, Y.Yamamoto, M.Hirokawa, S.Fujieda, LA.Spencer, PF.Weller	平成30年11月
	「Expression and Functional Analysis of CST1 in Intractable Nasal Polyps」 Am J Respir Cell Mol Biol. 59巻4号 p.448-457 Y.Kato, T.Takabayashi, M.Sakashita, Y.Imoto, T.Tokunaga, T.Ninomiya, T.Morikawa, K.Yoshida, E.Noguchi, S.Fujieda	平成30年10月
	「Periostin as a novel biomarker for postoperative recurrence of chronic rhinosinitis with nasal polyps」 Sci Rep. 8巻1号 p.11450 T.Ninomiya, E.Noguchi, T.Haruna, M.Hasegawa, T.Yoshida, Y.Yamashita,M.Okano, N.Yoshida, S.Haruna, Y.Sakuma, S.Ohta, J.Ono, K.Izuhara, M.Okada,M.Kidoguchi, T.Tokunaga, M.Okamoto, M.Kanno, M.Sakashita, T.Takabayashi,N.Narita, S.Fujieda	平成30年7月
	「悪性腫瘍との鑑別を要した薬剤性歯肉増殖症の一例」 口腔・咽頭科 31巻2号 p.203-207 徳永 貴広,加藤 幸直,成田 憲彦,藤枝 重治	平成30年6月
発表業績(学会)	「The Expression and Functional Analysis of CST1 in Intractable Nasal Polyps」 Am J Respir Cell Mol Biol. Kato Y, Takabayashi T, Sakashita M, Imoto Y,Tokunaga T, Ninomiya T, Morikawa T, Yoshida K, Noguchi E, Fujieda S	平成30年4月
	「副鼻腔炎への対応 ―急性期と慢性期―」 奥西地区耳鼻咽喉科感染症講演会 徳永 貴広	平成30年11月22日
	「医師・歯科医師を対象とした倫理指針・臨床研究法の理解度調査」 第18回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2018 in 富山 徳永 貴広,渡邊 享平,坂下 雅文,吉崎 達郎,岩野 正之	平成30年9月16日

名前	梅原 康次(うめはら こうじ)	
発表業績(講演)	「救急医療と情報技術 ～1人でも多く、1秒でも早く、命を救うためのNETWORK～」 ミャンマー・ヤンゴン市 梅原 康次	平成30年11月
	「これまでの医療、これからの医療」 ミャンマー・ヤンゴン市 梅原 康次	平成30年5月

【平成30年医師業績集】

名前	明橋 大二(あけはし だいじ)	
発表業績(学会)	「地域・自治体から民間連携で創るフリースペースのこれから—その1—富山県射水市におけるフリースペース「ほっとスマイル」の活動」 子どもの権利条約フォーラム2018 in とちぎ(足利市) 分科会A-2 「学校外の子どもの居場所」(パネリスト) 明橋 大二	平成30年11月4日
	「第5分科会【貧困と子どもの権利】学ぼう！子どもの今と未来について！～子どもの豊かな成長を保障するために～」 日本女性会議2018in金沢(金沢市)(パネリスト) 明橋 大二	平成30年10月12日
	「民間と自治体との連携・協働による“多様な学び場”づくり」 ～富山県:射水市子どもの権利支援センター(ほっとスマイル)(委託型)の運営と課題～ 第5回多様な学び実践研究フォーラム 全体会シンポジウム発表 (東京都新宿区 早稲田大学) 明橋 大二	平成30年2月24日
発表業績(テレビ・新聞)	「体罰禁止法案を閣議決定する意義について(インタビュー)」 報道ステーション(テレビ朝日) 明橋 大二	平成31年3月19日
	「コノコト」 北日本新聞 明橋 大二	平成30年
	「HSCについて」 不登校新聞 3月 明橋 大二	平成30年
発表業績(連載)	「Dr.明橋のババママ大好き」 福島民報(連載) 明橋 大二	平成30年
	「明橋先生のハッピー子育て塾」 週刊ベイスボ(アメリカ・北カリフォルニアで発行されている日本語情報紙) 明橋 大二	平成30年
	「品川区子育てアプリ」 (連載) 明橋 大二	平成30年
	「明橋先生の子育てハッピーコラム」 NPOこどもすべす柏ニュースレター 明橋 大二	平成30年
	「ひといちばい敏感な子の育て方・接し方」 育児情報誌miku 秋冬号 (フリーペーパー) 明橋 大二	平成30年
発表業績(ウェブサイト掲載)	「ベビカム相談室」 ウェブサイト掲載 明橋 大二	平成30年
	「HSCについて」 AERA dot.(ウェブサイト掲載) 明橋 大二	平成30年
	「HSCについて」 Mazecoze研究所(ウェブサイト掲載) 明橋 大二	平成30年
	「明橋大二先生の子どものほめ方・叱り方」 保育fine(ウェブサイト掲載) 明橋 大二	平成30年
	「明橋大二の大丈夫ですよ！子育て相談室」 KNBラジオ(毎第二、四火曜日) 明橋 大二	平成30年
発表業績(著書)	「HSC子育てあるあるうちの子はひといちばい敏感な子！」	平成30年12月
	「子育てハッピーソングス～どうよう」	平成30年11月
	「HSCの子育てハッピーアドバイス」	平成30年6月

【平成30年医師業績集】

発表業績(講演)	富山市 ウィメンズカウンセリング富山	平成30年12月16日
	さいたま市 パルシステム埼玉	平成30年12月14日
	富山大学附属特別支援学校	平成30年12月6日
	「虐待を受けた子どもの心の回復過程とケア」 全国児童発達支援施設運営協議会 基調講演(富山市)	平成30年12月3日
	三重県熊野市	平成30年12月1日
	東京都品川区 キッズコーポレーション	平成30年11月23日
	北海道音更町	平成30年11月18日
	北海道帯広市 はるにれの会	平成30年11月17日
	東京都世田谷区	平成30年11月16日
	高岡市 定塚小学校	平成30年11月8日
	千葉県柏市 こどもすぺーす柏	平成30年11月3日
	長野市 国保保健師会北信支部	平成30年11月2日
	金沢市 コープいしかわ	平成30年11月2日
	金沢市 ヴィストカレッジ金沢駅前	平成30年11月1日
	石川県加賀市	平成30年10月27日
	富山市 児童養護施設研修会	平成30年10月18日
	長野市	平成30年10月8日
	富山市子育て支援センター	平成30年10月6日
	宮城県石巻市 みやぎ心のケアセンター	平成30年10月5日
	仙台市子育て支援センター	平成30年10月5日
	富山県教育委員会	平成30年10月2日

【平成30年医師業績集】

発表業績(講演)	東京都渋谷区 日本タッチケア協会	平成30年9月29日
	アメリカ合衆国シアトル シアトルママネット	平成30年9月22日 ～平成30年9月23日
	大阪市	平成30年9月9日
	富山市 ここらいふ	平成30年9月1日
	三重県四日市市	平成30年8月30日
	富山県入善町 PTA連絡協議会	平成30年8月26日
	石川県能美市 石川県学校保健会	平成30年8月26日
	長野県飯田市教育委員会	平成30年8月25日
	新潟県保育士会	平成30年8月24日
	東京都千代田区 御茶ノ水ソランティカンファレンスセンター	平成30年8月11日
	高岡市社会福祉協議会	平成30年8月4日
	石川県立看護大学	平成30年7月31日
	栃木県足利市 栃木県教育委員会	平成30年7月27日
	岐阜県各務原市	平成30年7月14日
	東京都渋谷区	平成30年7月13日
	富山市 富山県総合衛生学院	平成30年7月6日
	愛知県豊川市	平成30年6月30日
	射水市 北陸診療情報研究会	平成30年6月23日
	金沢市 ヴィスト金沢	平成30年6月19日
	富山市 ソロプチミスト日本財団	平成30年6月17日
	富山市 五福小学校	平成30年6月17日
	佐賀県唐津市 たなベクリニック	平成30年6月16日

【平成30年医師業績集】

発表業績(講演)	金沢市 みちくさの会	平成30年6月2日
	山口市	平成30年5月19日
	愛知県愛西市	平成30年5月18日
	熊本県荒尾市	平成30年4月21日
	氷見市	平成30年4月15日
	富山市	平成30年4月13日
	兵庫県教育委員会	平成30年3月23日
	三重県菰野町	平成30年3月21日
	東京都品川区	平成30年3月10日
	東京都文京区	平成30年3月10日
	三重県四日市市	平成30年3月9日
	高岡子育て支援センター	平成30年3月6日
	三重県東員町	平成30年3月4日
	氷見市 南大町保育園	平成30年3月1日
	東京都品川区 子どもの心のコーチング協会	平成30年2月23日
	新潟県上越市 認定NPO法人マミーズネット	平成30年2月20日
	高岡市保育士会	平成30年2月17日
	兵庫県朝来市	平成30年1月13日
	京都府京丹後市	平成30年1月13日
	大阪府河内長野市	平成30年1月12日

名前	稲田 雅一 (いなだ まさかず)	
発表業績(講演)	「ケアマネ必携 歯科医との連携の仕方」 射水市ミライクル館 稲田 雅一	平成30年5月25日

【平成30年看護部業績集】

発表業績(学会)	退院支援に関する病棟看護師の意識の変化-訪問看護ステーションが開催する退院後カンファレンスに参加して- 第29回 富山県看護研究学会 高瀬彩香	平成31年2月16日
	緩和ケアリンクナース会の取り組み-研修会の企画・運営の学びから- 第73回 富山県医学会 炭谷真由美	平成31年1月27日
	緑内障手術受け入れ困難の実態と今後の課題 第34回 日本視機能看護学会学術総会 川淵佑香理	平成30年11月17日
	意欲低下した血液透析患者に対する援助の考察 ～自己効力感・エンパワメントからの分析～ 第21回 日本腎不全看護学会・学術集会 和泉秀俊	平成30年11月10日
	認知症ケア加算2を申請された立場から 周術期患者への対応 第72回 日本臨床眼科学会 岩木聖子	平成30年10月14日
	意欲低下した血液透析患者に対する援助の考察 ～自己効力感・エンパワメントからの分析～ 第63回 日本透析医学会学術集会 和泉秀俊	平成30年7月1日
	アイセンターの立場から眼科手術看護業務とその役割 第33回 JSCRS(日本白内障屈折矯正手術学会)学術総会 松木靖子	平成30年6月30日～ 平成30年7月1日

【平成30年検査科業績集】

発表業績(学会)	尿中塩分摂取量の採取時間及び蓄尿による違いによる検討 第73回富山県医学会(富山県医師会館) 斎藤 千絵美,松崎 宏美,磯貝 智恵	平成31年1月27日
	2016/2017シーズンの4価インフルエンザワクチン効果 第92回日本感染症学会学術講演会in岡山 刀塚 俊起,新保 卓也	平成30年5月31日～ 平成30年6月2日

【平成30年医療安全管理室業績集】

発表業績(学会)	一般病院における医療安全管理活動の取り組みと工夫 第68回 日本病院学会 鎌仲俊晴,豊田茂郎,清水和彦	平成30年6月28日
----------	---	------------

【平成30年緩和ケア内科業績集】

発表業績(学会)	孤独へのケアの意味の考察～あてがわれるサービスはいらない」と言った2事例から～ 岡山ケア2018「地域包括ケアと対人援助論」 シンポジウム:地域包括ケアを語る 対人援助論は地域における孤独を和らげるか？ 長久栄子	平成30年10月6日
----------	---	------------

【平成30年医事課業績集】

発表業績(学会)	チームで取り組む施設基準管理 第60回全日本病院学会in東京 佐藤恒輝,深田佳栄子,中道百合,炭谷真由美,郷倉美貴	平成30年10月7日
----------	---	------------

【平成30年PTS推進室業績集】

発表業績(学会)	外国人患者さんにも安心と満足の医療を ～広範囲から患者やスタッフが集まる真生会～ 第73回 富山県医学会 齋藤美世,宮下麗娜	平成31年1月27日
	新患ターゲットのパンフレット製作で見えてきた広報戦略 ～ロコミ×フロアマネジャー×総合パンフレット 当院だからできること～ 第68回 日本病院学会 齋藤美世,中村哲二,高森真晴	平成30年6月29日
	当院における認知症カフェの特徴と今後の展望 第68回 日本病院学会 北村有紗,二村明広,高森裕美子	平成30年6月28日
発表業績(雑誌掲載)	新患ターゲットのパンフレット製作で見えてきた広報戦略 ～ロコミ×フロアマネジャー×総合パンフレット 当院だからできること～ 『医事業務』 齋藤美世	平成31年3月1日

【平成30年臨床心理科業績集】

発表業績(学会)	心理的な支援が必要な生徒への適切な対応と保護者支援について 富山県立しらとり支援学校 平成30年度特別支援学校障害種別研修会 田邊 裕	平成30年8月23日
	「私」をおさめる箱庭 箱庭療法学研究 第31巻 第1号 坂井朋子	平成30年7月31日
	病弱性との困難さとその対応について 富山県立しらとり支援学校 平成30年度特別支援学校障害種別研修会 田邊 裕	平成30年7月24日

【平成30年食膳栄養科業績集】

発表業績(学会)	地域をまるごと元気に！栄養トータルケアの展望と課題～第2報～ 第73回富山県医学会 結川 美帆,梅原 真弓,片岡 恵理子,前澤 貴子,伊藤 篤,秋濃 ゆか,田畑 佳孝,川崎 華子,田川 倫子,高橋 恵梨子,門野 瑠美,江守 龍一郎,奥野 千晶,田島 和浩,本藤 有智,真野 鋭志	平成31年1月27日
	地域包括ケアシステムにおける栄養トータルケア～栄養管理についてのアンケートから見えてきたもの～ 第22回日本病態栄養学会年次学術集会 結川 美帆,梅原 真弓,片岡 恵理子,前澤 貴子,伊藤 篤,秋濃 ゆか,田畑 佳孝,川崎 華子,本藤 有智,真野 鋭志	平成31年1月11日
	地域における栄養トータルケアを目指して～栄養管理についてのアンケートから見えてきたもの～ 第9回日本静脈栄養学会北陸支部会 結川 美帆,梅原 真弓,前澤 貴子,伊藤 篤,秋濃 ゆか,田畑 佳孝,川崎 華子,本藤 有智,真野 鋭志	平成30年8月18日
	地域をまるごと元気に！栄養トータルケアの展望と課題～栄養管理についてのアンケートから見えてきたもの～ 第68回日本病院学会 結川 美帆,梅原 真弓,前澤 貴子,伊藤 篤,秋濃 ゆか,田畑 佳孝,川崎 華子,本藤 有智,真野 鋭志	平成30年6月28日

【平成30年薬剤科業績集】

発表業績(学会)	在宅PCAポンプによるオピオイド持続静注導入に向けて薬剤師の役割 ー医療用麻薬に不安を感じた症例を経てー 第12回日本緩和医療薬学会年会 真生会富山病院 薬剤科: 田畑 佳孝, 山崎 由香 真生会富山病院 緩和ケア内科: 長久 栄子, 古谷 正晴, 河相 寛	平成30年5月26日～ 平成30年5月27日
----------	---	---------------------------

【平成30年視能訓練科業績集】

発表業績(講演)	Teller Acuity Card IIについて 富山県立富山視覚総合支援学校講演 福留 隆夫	平成30年12月4日
	スポットビジョンスクリーナーの使用経験 第56回富山県視能訓練士会学習会講演 福留 隆夫	平成30年11月18日
	画像診断から考えよう緑内障・病的近視の臨床診断strategy 第20回三河視能訓練士会 樋 日出雄	平成30年8月25日
発表業績(学会)	身体障害者手帳申請・諸手続きについて 富山県視能訓練士会(第4回ロービジョンケア講習会 永森 麻菜美	平成30年5月20日
	「OCT Angiographyを用いた糖尿病網膜症発症前の中心微小血管変化の検討」 筆頭演者: 樋 日出雄 共同演者: 山田 一樹,谷口 良輔,舘 奈保子	第73回富山県医学会 平成31年1月27日
	「OCT Angiographyを用いたintrachoroidal cavitationに伴う緑内障性視野異常の検討」 筆頭演者: 樋 日出雄 共同演者: 山田 一樹,谷口 良輔,舘 奈保子	第57回日本網膜硝子体学会総会 平成30年12月8日
	「WelchAllyn社製スポットビジョンスクリーナーの測定精度」 筆頭演者: 福留 隆夫 共同演者: 樋 日出雄,田原 文華,摺崎 紗也加	第7回日本小児診療多職種研究会 平成30年11月24日
	「OCT Angiographyを用いた強度近視眼における緑内障判定の有用性」 筆頭演者: 樋 日出雄 共同演者: 山田 一樹,谷口 良輔,舘 奈保子	第59回日本視能矯正学会 平成30年11月10日
	「スポットビジョンスクリーナーによるオーバーレフラクション」 筆頭演者: 福留 隆夫 共同演者: 田原 文華,谷口 良輔,舘 奈保子,植田 芳樹	第72回日本臨床眼科学会 平成30年10月12日
	「新しい眼圧測定計ライカートORA G3の臨床的有用性に関する検討」 筆頭演者: 樋 日出雄 共同演者: 須藤 由美子,三谷 美紀,永森 麻菜美,舘 奈保子	第72回日本臨床眼科学会 平成30年10月11日
	「プリズム順応試験で感覚面を重視した間欠性外斜視術後成績」 筆頭演者: 福留 隆夫 共同演者: 田原 文華,谷口 良輔,舘 奈保子,植田 芳樹	第74回日本弱視斜視学会総会 平成30年7月6日
	「OCT Angiographyを用いた糖尿病網膜症発症前の中心微小血管変化の検討」 筆頭演者: 樋 日出雄 共同演者: 山田 一樹,谷口 良輔,舘 奈保子	第122回日本眼科学会総会 平成30年4月20日

【平成30年度(第73回)富山県医学会】当院の受賞者と業績

優秀賞	「OCT Angiographyを用いた糖尿病網膜症発症前の中心微小血管変化の検討」 筆頭演者: 樋 日出雄 共同演者: 山田 一樹,谷口 良輔,舘 奈保子	視能訓練科
優秀賞	緩和ケアリンクナース会の取り組み-研修会の企画・運営の学びから- 炭谷真由美	看護部

【平成30年訪問看護ステーションこころ業績集】

発表業績(出張講座)	知って安心在宅介護～自分らしく在宅療養生活を送るために～ 射水市中太閤山コミュニティセンター 竹内 真由美(看護師) 種田啓之(理学療法士)	平成31年1月19日
	知って安心在宅介護～自分らしく在宅療養生活を送るために～ 福祉プラザ七美 竹内 真由美(看護師) 山本 智子(看護師)	平成30年11月15日
	知って安心在宅介護～自分らしく在宅療養生活を送るために～ 射水市いきいき長寿館 竹内 真由美(看護師)	平成30年8月6日
	知って安心在宅介護～自分らしく在宅療養生活を送るために～ 塚原コミュニティセンター 竹内 真由美 中井ともこ 坂林 理恵	平成30年8月3日
発表業績(学会)	訪問看護ステーションにおける退院後カンファレンスを導入しての評価と今後の課題 第73回 富山県医学会 本田かずえ	平成31年1月27日

平成30年度 真生会事業計画

【方針】

- 1、地域包括ケアシステムの構築のため何が出来るか考え実行する。(地域貢献)
2、プロとアマの違い7つのうち1つ以上を実行する。(プロを目指す)
3、みんなが笑顔になるための基礎を固める。(人事制度浸透・教育体制整備・職員満足度改善)

【行動計画】

【行動計画】					具体的行動あるいは目標						
テーマ		重点事業	推進担当(責任者、担当者)	年度目標	第1四半期 (6月末まで)	第2四半期 (9月末まで)	第3四半期 (12月末まで)	第4四半期 (3月末まで)			
事業	医療機能	予防	健康増進センター設置	清水医師、健康増進科、関係部署	今年度内に稼働させる	未定	健康増進エリアの検討	トレーニング機械の選定	トレーニング機械の搬入		
		外来	腎透析センター設立	二村副院長、関係スタッフ	透析患者の数値目標達成	職員対象施設とすることに方向性を交換 19床での7割稼働	準備期間 25床での6割5分稼働	健康増進エリアの検討、決定 25床での7割稼働	トレーニング機械の選定 25床での7割5分稼働		
			糖尿病センター設立	平谷医師、関係スタッフ	今年度の糖尿病センター事業計画達成	達成。 稼働。番号表示システムなく、患者からのクレームが多々見受けられた。看護相談はほぼ倍増。	達成。 25床での7割稼働	達成。 患者の増加スピードが速く、スタッフの増員育成に遅れが生じてしまい、負担が増している。 ポンプ治療1名導入	達成。 その結果、看護相談件数は対前年比 約180%となった。 さくら病棟入院60日超えを減らす		
	入院	入退院支援	橋本副院長、豊田副院長、関係部署	効率性係数(効率性指数)を上げる取り組み	入院延長の課題整理	多職種カンファで課題抽出	退院支援の検討会合を実施。フローチャートを作成中。	退院延長課題整理	退院支援の検討会合を実施。フローチャートを作成中。		
		クリニカルパスの再考	本多副院長、関係スタッフ	パスのあり方を再検討し次年度の数値目標を作成する	パス委員会の準備・コアメンバーで会合 方針の決定	種々の事情で未着手です。準備を進めてゆきます。	各部署で勉強会開催1／月	各部署で勉強会開催1／月	新電子カルテ完成後にどのようなパスを作成するのか、目標を完成させる		
	救急	救急エリア整備	吉田医師、関係スタッフ	救急車搬送台数で前年度を上回る	月平均60 消防署レクチャー 月平均62.5 レクチャー1回 目標達成	未着出でした	整形外科・外科・耳鼻科・眼科のパスを検討しました。	月平均60 消防署レクチャー 月平均73.7	入院診療計画書のパス化完了予定 来年度の電子カルテの完成をまって、パスの着手を行う		
		在宅	看多機の設立準備	豊田副院長、中井所長、関係スタッフ	建設計画を適宜、見直しながら実行する	平成32年度までの概要を計画立案する 建設地の検討 複数の施設見学	各事業体(訪問看護、訪問介護、通所介護、ショートステイ、居宅支援)ごとの諸計画立案 建設地の決定	計画と関係部署との調整(立地、建物の構成、情報通信人材募集など) 設計事務所の選定、依頼	来年度の各事業体の運営計画及び人員募集の検討 設計図の完成 駐車場用地の取得・転用申請等		
	医療の質向上	QI活動	本多副院長、QIプロジェクト	QIプロジェクトの活動を開始する	建設地候補を検討し、絞った県内外の看多機施設の見学	開設までのスケジュール立案(建物建築・運用・人員・設備・行政との調整など各項目ごとに作成) 基本設計の検討開始	建設地は決定 運用構想の確定	糖尿病患者の血糖コントロール不良の患者をピックアップし、各部署に働きかける。	基本設計の完成。開設時期が、農振除外の関係で2021年3月開設予定となったので、各事業の諸計画、設計事務所の決定等は、次年度に持ち越し		
	業務プロセス	ICTの有効活用	本多副院長、情報室	ICTを2つ以上導入する	QIプロジェクトの各項目を正確に理解する。 データ提出率を100%を目指す。 特定術式の予防抗菌薬の項目種々の事情で未着手です。準備を進めてゆきます。	特定術式の予防抗菌薬の変更したことによる入院期間の延長が無い確認を行う。 特定術式以外の予防抗菌薬についてガイドラインに沿った使用を目指す。 整形外科及びICUと話し合い、予防抗菌薬が24時間で停止するように、クリニカルパスを変更した。 4～6月のデータを各部署に	糖尿病センターのスタッフと血糖コントロール不良のデータについて協議した。 7～9月のデータを各部署にフィードバックした。	各部署と1年間のデータの推移を確認し、次年度の活動を検討する。	医療安全管理室のスタッフと転倒・転落のデータについて協議した。 10～12月のデータを各部署にフィードバックした。		
	患者満足	患者満足度調査の分析と活用	山田室長、PTS推進室	満足度(%)をあげる	透析システムの導入	ほぼ完了		準備はできませんでした。	準備はできませんでした。		
	地域連携	地域連携懇話会の開催と継続	豊田副院長、関係部署	毎年の開催を継続する	1. 昨年度の調査結果の分析計画を立案 2. PTS推進委員会活動として、患者目線動画(タメロ)勉強会を委員のいる全部署で実施	1. 昨年度の調査結果分析の計画・実施と、今年度の調査計画 2. 全部署での勉強会実施(8月末まで、9月7月全体朝礼で動画上映一笑顔の効用について発表 3. 接遇大賞応募について8月	1. 今年度の調査計画立案、満足度調査実施 3. 接遇大賞発表(11月末)	1. 満足度調査の集計結果公表			
					1. 未着手 2. 7月末までには、健診科以外の部署で実施の計画済(健診科は8月実施)。	1. 昨年度の結果をCS分析し、データをグラフ化。今年度の調査方法を検討 2. 全部署での実施は9月に完了。 7月の全体朝礼で、患者目線動画を発表し、委員のいない部署にも実施とした。 3. 今年の接遇大賞の応募は見送りとした。地道な活動を続けて、満足度%が大きく伸びるなど、成果が出たと感じられた時に応募する。 4. 言葉の教室を各部署ごとの開催に変更	1. 今年度の調査計画立案、満足度調査実施。分析は学術推進室に依頼。 4. 言葉の教室を、3回(4部署)で開催。	1. QIプロジェクトの満足度45% 真生会の満足度43% 一わずかに及ばなかった。 分析の結果、患者図書室の改善が重要かつ急ぎの課題であることが判明。来年度の課題とする。 4. 言葉の教室を3回(5部署)で開催。			
					4月7日第1回開催 反省会 第1回開催成功 反省会開催	他病院の懇話会見学 来年度の日程、講師決定 厚生連(本藤、惣万)高岡市民(本藤、惣万、高森)済生会(本藤)が他病院を見学 来年度は9月の平日を予定(9/26を予約した) 講師は院外から全国的に有名な講師を招聘	会場予約 実行委員会の立ち上げ 2019年度の懇話会は9月に予定され、会場の予約、講師の確定と依頼をした。 実行委員会の立ち上げは延期になった。	後援のとりつけ 案内状送付 9月に予定されたため、3月中に実行委員会を立ち上げることになった。 副責任者2名のみ決定した。 今後、後援のとりつけ、案内状の送付など4月以降に行っていく。			
					企画委員立ち上げる 5月中旬に予算了承を得る 6月より準備、業者折衝 看板、まんまる等掲載 各部署に実行スタッフ依頼 企画の検討終了 看板設置完了 和顔愛語の特別号編集集中 30周年人文字撮影完了 ポスター作成中、HPアップ完了 各部署の企画書待ち 実行スタッフの選出完了	8月に和顔愛語特別号を発刊する。 9月25日の週に準備 9月29日 開催					
	発信・社会参画	地域を対象とした30周年企画	成瀬部長、関係スタッフ	地域を対象とした30周年企画を開催する	企画委員立ち上げる 5月中旬に予算了承を得る 6月より準備、業者折衝 看板、まんまる等掲載 各部署に実行スタッフ依頼 企画の検討終了 看板設置完了 和顔愛語の特別号編集集中 30周年人文字撮影完了 ポスター作成中、HPアップ完了 各部署の企画書待ち 実行スタッフの選出完了	8月に和顔愛語特別号を発刊する。 9月25日の週に準備 9月29日 開催					
組織	組織再編	患者支援センター設立	橋本副院長、患者支援センター設立プロジェクト	今年度内に稼働させる	整形患者 開始	患者支援センター プースの具体化	内科患者 開始	年度内に本格稼働			
	人材	人事評価制度の浸透	二村副院長、人事制度運用チーム(プロジェクト)	制度に沿って実施させる	整形外科、予定入院患者のフローを検討中。	整形外科、予定入院患者のフローを検討中。	整形外科、予定入院患者のフローを検討中。旧透析室の改修案、レイアウトの検討。	次年度5月から稼働予定。			
					人事評価を実施した課題については、解決策をチーム内で検討中		評価者研修の実施 一般職員への説明会など理解浸透	広く意見を取り入れるなど次年度の準備			
					教育体制の整備	吉崎医師、学術教育推進室	人事制度と連動した教育体制を検討する	ラダーの内容に応じた教育の機会の設定方針について検討し、各部署・職種に渡す。 月2回の定期会合で検討を開始。 幹部教育の叩き台の作成に着手 調査結果の分析完了	評価者研修、一般職員研修の準備を行った。	評価者研修、一般職員への研修を実施した。	
					職員満足度調査の分析と活用	吉田事務長、経営企画室	3つ以上の課題を見つけ活動する	分析を開始。 人事評価や処遇の透明性に対して満足度が低かったことに対して、昨年度は人事制度を大改定した。今年度は改定された人事制度に基づいて、人事評価が実施された。予定どおり運用されるよう、スケジュール管理をプラン作成検討、調整	課題の特定と対処の検討	対処の実行計画策定	対処の実行
	整備計画	南館・本館・管理棟の整備	松田部長、管理部	今年度内に整備を完了させる	整備方針と要求の確認	南館は増築及び改修は終了した。本館、管理棟の要求は確認中。	施工業者見積り、交渉	施工、備品等搬入			
					要求の確認は終了したが、さらに詳細な内容や、優先度等について確認や検討をおこなっている。	本館旧透析跡地は、患者支援センター・整形拡張で調整中。 管理棟は検討中。		本館及び管理棟の要求がまとまり、今年度整備(来年度5月頃工事)に向けて発注、スケジュール調整中。			
					電子カルテの開発	本多副院長、情報室	開発計画を遅らせない	新しい電子カルテと現在可動している院内システムとの連携システムを完成させる。	新しい電子カルテの試作品を完成させる。	個人や部署で試作品を使用してもらい問題点や改善点を洗い出す。	発生した問題点などを修正し電子カルテの入れ替えを完了する。
							現在進行形 平成末に完成予定	予定通り	試作品(プロトタイプ)の完成完了	5月の安定稼働に向けて準備する。現時点ではほぼ予定通り。	
	財務	原価計算システムの開発	吉田事務長、原価計算開発プロジェクト	今年度内に稼働させる	透析、内視鏡、日帰り治療室の収益の抽出方法案を出す 透析は完了。内視鏡、日帰り治療室は検討中。	各科、各部門と、収益の出し方について調整 診療科別の算出方法は概ね仕組み化できた。	毎月報告(秋を目標とする)	部門別の原価計算は、次年度の開発事項とする。			

※行動計画は、中期計画の単年度版と位置づけ、病院が主体となる特に力を入れる事業を抜粋。

H30 版
部署振り返りレポート

Ver. 2018

医療法人 真生会

ユニット名(単位)

病院部門部署

第1診療支援部	中央放射線科
第1診療支援部	リハビリテーション科
第1診療支援部	医療秘書課
第1診療支援部	PTS推進室
第1診療支援部	臨床工学科
第1診療支援部	臨床心理科
第2診療支援部	中央検査科
第2診療支援部	薬剤科
第2診療支援部	食膳栄養科
アイセンター	視能訓練科
看護部	看護部
看護部	さくら病棟
看護部	わかば病棟
看護部	アイセンター(看護部)
看護部	外来・中央手術室
地域医療部	地域医療部
医療情報部	医事課
医療情報部	診療情報管理室
医療情報部	情報室
医療安全管理室	医療安全管理室
感染対策室	感染対策室
病棟運営室	病棟運営室

法人内事業所・法人事務局

デンタルクリニック	デンタルクリニック
訪問看護ステーションこころ	訪問看護ステーションこころ
経営企画部	総務課
経営企画部	経理課
経営企画部	企画課
経営企画部	広報課
管理部	施設管理課
管理部	物品管理課
管理部	保育課
学術推進室	学術推進室
キャリア支援室	キャリア支援室
改善推進室	改善推進室
在宅統括室	在宅統括室

診療科・センター

医局	医局
医局	呼吸器・循環器内科
医局	血液内科
医局	心療内科
医局	小児科
医局	救急室
医局	在宅医療
医局	耳鼻科
医局	外科
医局	整形外科
医局	皮膚科
医局	泌尿器科
医局	麻酔科
医局	中央手術室
医局	日帰り治療室
医局	緩和ケア内科
医局	健康増進科
アイセンター	アイセンター
健診センター	健診センター
消化器センター	消化器センター
腎透析センター	腎透析センター
糖尿病センター	糖尿病センター

【中央放射線科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・患者満足度の向上のため抜針業務の移譲、看護部と調整
→ 東主任が何度も関係部署と打ち合わせをし、調整した。
- ・院外勉強会に月1回は参加し、情報共有する。
→ 勉強会を把握し、最低でも1名参加できるよう調整した。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・読影力の向上を目指し、放射線科内で月2回勉強会を開く
→ 半分の達成率 計画性の欠如
- ・MRIの撮影検査数を増やす（前年度比 4%以上）
→ 3%どまり ドクターへの働きかけ不足
- ・一般撮影後の業務効率化の為、照射録の運搬の廃止
→ 整形外科、情報室との調整不足
- ・読影力の向上の為、放射線科で勉強会を開く
→ 計画不足で達成率 50%

- ・医療被ばく低減の為、一般撮影条件を見直す

→ とりかかるのが遅すぎた。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・院外読影で出た悪性結果の担当医への通知を徹底した。

(チェックリスト作成)

- ・フィルムバッチ測定の削減（経費削減）
- ・頭部 MRI 撮影時間を医師と話し合いで撮影法を変更、時間短縮
(T1,T2 を画質を落とすが早く撮影できる方法に変更)
- ・胃透視の撮影法をガイドラインに準じた撮影法に変更した。
- ・MRI 業務の効率化のため MRI 室に電子カルテ設置
- ・CT 業務の効率化のため CT 操作室のレイアウト変更
- ・上部消化管報告書及び下部消化管報告書の簡素化（所見記入の時間短縮）
- ・造影検査後の注意について注意喚起を印刷した用紙を配布

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・異常所見をすみやかに報告した。
- ・新しいCTの有効活用（被曝の低減）

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・定期的に話し合いに出向いた。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・ 院外読影を細かく読む癖がついた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・ 抜針業務を移譲し看護師の負担を少し軽減できた。
- ・ 講師として富山県内の講習会に参加した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・ 患者の喜ぶ視点で考え最後までぶれなかったとき。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・ 部署全体でのとりくみ、活性化、求心力

2、今後の展望

- ・ 画像診断の力をアップ。
- ・ エコーの基本を学習。
- ・ 注腸に代わる CTColonography の修得、導入。
- ・ 定期購読誌「臨床画像」の完読。
- ・ MRI の更新。

放射線科 平田昭美

【リハビリテーション科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

①勉強会・学会発表

リハビリ科・職種別の勉強会を担当スタッフが計画し、概ね定期的に開催することができた。リハビリ科内の勉強会は、スタッフのニーズに応じた内容の勉強会を医師に依頼し行った。職種別の勉強会は、発表者のローテーションを組み、研修の伝達講習や症例検討等行い知識・技術の向上を図ることができた。

研究に必要なデータ収集を科内で協力して行い、院外の学会で 2 題の演題を発表することができた。

②新人教育マニュアルの作成

今年度の新人 OT のために、OT スタッフで協力しマニュアルの作成することができた。

③アウトカム評価（FIM）の運用

担当スタッフが院外の研修に参加し、リハビリ科内で勉強会を開催し伝達講習を行ったことで、各スタッフが FIM の知識を深め、採点・記録を行えるようになった。

電子カルテ内に FIM の採点システムを導入していただき、簡略化した。

転院時には記録した評価内容を印刷し、サマリーに添付して提供できるようになった。

④透析リハビリの流れの確立

他院等で行われている透析リハビリについて調べ、透析関連の研修に参加した。

リハビリ科・透析室看護師と毎月会合を開催し、当院における透析リハビリの流れは概ね完成し、数名の患者のリハビリを開始することができた。

⑤地域包括ケア病棟リハビリ単位の維持

地域包括ケア病棟患者に対し、手厚いリハビリ介入を心掛け、リハビリ科の朝礼で定期的に現在のリハビリ単位数を情報共有し、単位の維持に務めた。

担当スタッフが休日の際に代診できるよう申し送りを行い、休日の多い月には休日出勤する等協力し、基準となる平均単位である 2 単位を毎月維持することができた。

（２）達成できなかった目標と、未達の理由は？

①新人教育マニュアルの作成

PT・ST の新人向けのマニュアルまでは、時間の確保ができず作成できなかった。

②アウトカム評価（FIM）の運用

FIM の採点・記録に時間がかかることもあり、全ての患者において活用できていない。アウトカムは重要とされているため、今後、看護部にも FIM の理解や活用を進めていきたいが、まだできていない。

③透析リハビリの拡大

リハビリ科・透析室のマンパワー不足により、対応患者数を増やすことができていない。

④急性期患者（DPC 病棟患者）へのリハビリ介入率を増やす

リハビリの早期介入はできているが、マンパワー不足により DPC 病棟患者に対する介入率を大きく増やすことはできなかった。

⑤リハビリオーダーシステム

システムとしては完成しているが、新しい医師各位への啓蒙不足もあった。要望に応じて、今後も改善が必要。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

・院内 30 周年記念イベントでブース企画、出張講座、地域イベント（大島スポーツフェスタなど）など、様々なニーズに対して積極的に対応し専門性の発揮や、貢献に努めた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・リハビリの早期介入、DPC 病棟患者への介入増
- ・地域包括ケア病棟におけるリハビリ単位数の維持
- ・患者にとってのリハビリの必要度をスタッフが個々に判断し、効率的、効果

的介入を目指した

- ・新人育成や研究・勉強会を通して科全体の知識・技術の向上が図れた

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・勉強会を医師やスタッフとリハビリ科勉強係が連携し、確実に開催できるよ

うに計画した

- ・毎月透析室の看護師と会合し連携を図り、お互いの部署の負担になりすぎな

いよう、役割分担等話し合って決めた

- ・情報室で対応してくれるスタッフと十分コミュニケーションをとり、こちら

の意図を組んだシステム改良が少しずつなされていった。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・個々が自発的に発言し業務改善が行われるようになった。
- ・研究・学習意欲の向上、院内外での講座やイベントなどでの専門性の発揮・参

加意欲が向上した。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・勉強会や研究を行うことで知識・技術が向上し、患者によりよい医療を提供し、患者満足度の向上に繋がった。

- ・透析中にリハビリすることで、患者の機能維持・改善に貢献できた。

- ・地域イベントに参加した方に喜んでもらえた。

- ・見やすく簡便なオーダーになっていったことは、リハビリオーダー数の増加にもつながり、患者の早期退院にも貢献できた。

- ・患者の早期退院に向けて取り組みことで病院の回転率にも貢献出来たと思う。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

- ・リハビリで関わった患者が笑顔で退院された時

- ・患者や地域のイベントで関わった方から「ありがとう」と声を掛けていただいた時

- ・スタッフ同士が互いに相談し合い、いきいきと取り組んでいる時。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・急性期患者への介入が遅れる→スタッフの週休が多い火/木に指示箋が3枚以上出た場合、スタッフ間の申し送りもあるため、新患への対応が難しい。

- ・キャリアラダーの見直しとチェックリストの作成

2、今後の展望

- ・訪問のリハビリ枠を増やし、在宅患者に今まで以上に介入できるような体制を作る。

- ・各職種の専門性（特に OT での ADL・IADL 訓練）を発揮し、早期退院に貢献する。

- ・予防リハビリの確立（運動推進チームとの連携）

【医療秘書課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・医師の発表に必要なスライドの作成やデータ解析および準備を年間通して 10 件以上行う。年間通して 10 件の支援を行いました。

- ・新入職員に対して医師事務作業補助者研修を実施する

4 月に入職した 2 名は研修を修了し、医師事務作業補助者として登録しました。

- ・クラーク業務手順の作成および更新を年 2 回以上行う(内科・整形外科・アイセンター)アイセンターで手順の更新を年 6 回行いました。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・診断書を受付から 10 日以内に発行する割合を毎月算出して対策を立てる

11 か月中 8 か月の達成にとどまりました。

- ・平均発行日数を毎月算出して対策を立てる

11 か月中 9 か月の達成にとどまりました。

昨年 9 月と 11 月に書類が滞っていたのが未達の主な理由と考えられます。

遅れの原因が時期的なものなのか、更に分析していきたいと思います。

- ・自らの業務に関連する学会および研修をリストアップして参加する

正職員 7 名中 6 名が学会または外部研修に参加しました。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・多職種役割分担会議の立ち上げと運営を行いました。

・日本医師事務作業補助研究会の石川地方会でパネリストとして発表し、それを縁として日本医師事務作業補助研究会の富山県支部設立メンバーに当院のスタッフが選ばれました。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・平成 30 年度は 6 名の新入職員があり、スタッフが一日もはやく業務に慣れるようフォローすることに特に力を入れました。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・整形外科とアイセンターでは、毎月の定例会合に参加し、医療秘書課に対する他部署からの要望を聞いて実行しました。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・新入職員の加入により、急な欠勤者が出てもクランク枠に穴が空かない体制を自部署のスタッフだけである程度構築することができるようになりました。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・診断書や退院時サマリの作成を通して、各診療科の医師に貢献しました。
- ・アイセンター、糖尿病内科、整形外科では、学術支援を通して医師に貢献しました。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・アイセンターでは病気で休むスタッフが多くありましたが、課内のスタッフが休んだスタッフの代わりに積極的にクランクに入ってくれることで、外来診察介助を滞りなく行えた時です。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・Hit-Bit の運用定着
- ・スタッフの医学知識の向上
- ・メディカルクランクのキャリアパスとキャリアラダーの有効活用

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい
仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したい
こと、・・・等)

医療秘書課は今年度より、新卒や他職種からの転職、ダブルワーク
など、これまでの経験や勤務形態、そして価値観が異なるスタッフ
が集まる部署となりました。来年度は、スタッフ一人一人の多様な
価値観を尊重しつつ、それぞれが自分の強みを活かした仕事ができ
る職場環境を目指していきたいと思います。

真生会富山病院

医療秘書課 岡本 康宏

【PTS 推進室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由

①電話オペレーターに入る体制を整える

オペレーター担当者を決めたことで、前任者からの引継ぎ及びマニュアル作成、オペレーターに入る他のメンバーへの伝達等をスムーズに行うことができ、オペレーター業務を開始できた。

②改善活動

総合受付にて、患者の状態によってやむを得ず保険証をお預かりした場合にお返しする時の取り違えを防ぐため、総合受付の医事課とも検討し、保険証を一人分ずつ入れる専用のファイルを設置、運用を始めた。運用を始めて見えてきた新たな課題については、継続して検討と解決策の実施を進めている。

③対応力の向上（緊急時、コードブルーの対応）

シミュレーション実施 2回

救命救急委員会の協力を得て実施。

2回のシチュエーションは、来院途中に家人の車中で意識がなくなった

患者が正面玄関に到着した場合と、駐車場で患者が倒れた場合。

いずれも実際に過去に起きた事例であり、学びの多い

シミュレーションとなった。

対応手順の確認は3月の実施予定のため、達成見込み。

④対応力の向上（病気や症状の理解、病気や症状と臓器との関連についての理解）

各臓器の大まかな役割と、臓器に関する症状・病気についての

学習資料の配信1回/月

勉強会の実施を予定していたが、講師役との時間調整が難しく、

配信している学習資料に対して簡単なテストを実施、採点することで

学習内容の定着を図り、勉強会の代わりとした。

⑤手話勉強会の実施 1回/月 毎月、滞りなく実施。

フロアマネジャー全員と、他部署から（医事課4名、検査科1名、放射線科1名、

物品管理課1名）が参加

⑥院外への発信（学会発表）2題以上

合計3題発表（日本病院学会2題、富山県医学会1題）

⑦健康ワンポイント教室の参加者UP

外来患者からの参加10名以上の回を、目標3回/年のところ5回。

年間10回開催予定を、2月末時点で9回開催（3月も開催予定）し、

外来・入院患者合わせた平均参加者数は、15.1名/回

開催時間を外来時間帯に近い時間に変更したことで、参加者数が増加した。

⑧外来満足度調査の分析、調査方法の再検討

昨年度の調査結果を CS 分析する中で、自分たちで分析することの限界を

感じ、今年度の分析は、学術推進室の徳永先生に依頼した。

多変量線形回帰分析を行った。

結果、スタッフの対応については、各診療科ごとに有意な差はなく、

患者図書室の改善が重要かつ急ぎの課題であることが明確になった。

PTS 推進委員会で、患者図書室改善チームを立ち上げた。

⑨対人援助勉強会の実施

長久副科長に対人援助勉強会を依頼し、実施することは決定している。

日程調整中。3 月中に調整がつけば、達成の見込み。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由

①外来満足度調査の満足度%アップ

QI プロジェクトの全国平均と同等以上をめざしたが、

結果、QI プロジェクトは 45%、真生会は 43%であった。

真生会は「親切で対応がよい」という患者からの期待値が高く、現状のままでは、

全国平均を抜けない。表面化しにくい PTNS は職員のタメ口に対する PTNS と

考えた。そこで、患者目線動画勉強会を PTS 推進委員のいる部署では

全て実施し、委員のいない部署対象としては全体朝礼とレベルアップセミナーで実施した。これによりタメ口に対する問題提起をし、次に言葉の教室を各部署ごとの開催に変更。このタイミングで、職員のタメ口に対する苦情が病棟のご意見箱に入ったことで、院長先生から「院長通信」でのタメ口に関するご発信があり、活動が加速した。各部署が参加しやすい日時で開催することで、参加を推進し、当事者意識を持ってもらうことができたと考える。しかし満足度調査の実施は、言葉の教室を各部署開催に変更してから2か月後（2部署で実施したのみ）だったため、成果にはまだつながらなかった。

②対応力の向上（英語）

フロアマネジャー全員が、初診申込書、受付関係の案内、場所の案内が英語でできることを目標としたが、習熟度にはかなり差があるため、

「簡単な英語が話せるようになること」から、タブレットや指差し事例集などの

「ツールを使って英語で案内できるようになること」を目標とした。

タブレット使用のシミュレーションは2回は行う予定だったが、通訳ツールの変更等もあり、1回の実施となった。

2）年初に立てた部署目標以外の成果は？

①9月富山協立病院にて接遇勉強会を開催

協立病院から接遇勉強会の講師依頼があり、開催した。

参加者 53 名（内、看護師 19 名）。

自利利他の精神、PTS トライアングル、心技体の自分準備

患者目線動画ワークを実施。

② 10 月全国手話検定試験にフロアマネジャーだけでなく

他部署のメンバーも挑戦し、合計 9 名が合格。

5 級：3 名、4 級：1 名、3 級：2 名、2 級：1 名、準 1 級：1 名、1 級：1 名

③ 1 月正面玄関の解錠時間および受付開始時間の繰り下げ

最大、診察開始の 2 時間前から、順番を取るために来院する患者の負担軽減と、

一部のスタッフに集中していた早出当番の負担を軽減した。一部、時間外の削減にもつながった。

④ 2 月『医事業務』に記事が掲載

6 月の日本病院学会での齋藤副主任の発表が、雑誌『医事業務』の

編集部の目にとまり、記事掲載となった。7 事例掲載の中、

1 事例目に取り上げられた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

目標達成に向けてがんばる中で、必要と思われる勉強会を柔軟に開催した。

車椅子の移乗勉強会(講師：PT、OT)、形成外科勉強会（講師：梅原先生）

理念勉強会（外部講師）、CRPS 勉強会（講師：本多副院長）

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

特に、正面玄関の解錠時間繰り下げと受付開始時間の繰り下げは多くの部署との調整が必要であった。メールや電話だけではなく、直接顔を合わせて、調整するようにした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

全体的に学習意欲が高まった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

①健康ワンポイント教室を外来診療時間に近い時間(11:45～12:15、

15:00～15:30 等)に変更したことで、参加者数が増加し、有益な情報を

患者さんや地域の方にお届けできた。

②富山協立病院での接遇勉強会の開催により、患者も職員も幸せになれる

自利利他の精神を伝えられた。

③体感として、外国人患者や聴覚障害の患者が増えているように感じる。

病気や体に関することはプライバシー度が高いにも関わらず、自分一人での

受診には障壁のある方々が、受診しやすくなるようサポートができたと思う。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

自分たちが対応した患者さんが、反対に私たちのことをよく覚えて下さっていて、「〇〇さん、私この前もあなたに対応してもらったのよ。またあなたに会えて(対応してもらえて)嬉しいわ」と言って下さった時。こういう体験が、フロアマネジャーそれぞれにあり、HIT-Bitで共有できた時。

8) 今年度積み残した課題は？

人事制度の浸透。行動記録の推進。

2、今後の展望

舟津先生による言葉の教室が今年度で終了となるため、PTS推進委員会の取り組みとしての勉強会に変更予定。それに伴い、言葉の教室のテキストも、リニューアルを検討中。

- ・目次をつけて、検索しやすくする

- ・言葉遣いだけではなく、真生会の接遇の基本(身だしなみ、笑顔、挨拶の大切さなど)を盛り込んだ「真生会コミュニケーション Book(仮)」のような、手に取りやすい、わくわくするテキストにする。

- ・2部構成とし、第1部は全職種共通の真生会スタンダードを掲載し、

第2部は職種別とし、職種ごとによく使う言い回しの事例集など

以上です。

•••○ •••○ •••○ •••○ •••○ •••○ •••○

PTS 推進室 フロアマネジャー

山田 梨恵子

•••○ •••○ •••○ •••○ •••○ •••○ •••○

【臨床工学科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・内覧会を成功させ、内外に情報を発信する。

→透析患者数の大幅な増加に繋がった。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・オペ室内の医療機器を調査把握し、マニュアルとチェックリスト作成する。作

成後、各医療機器を保守計画に従い点検する。→ME 室の業務拡大に伴い時間が足りなかった。

- ・"新人向けのポンプ系の勉強会の開催。透析室内の毎月の勉強会の開催。

→カンファレンスがない時があり翌月に開催したため。

- ・毎月1つ以上の改善点を見つけ課題に取り組む。

→改善にまで手が回らなかった。毎月一つは叶わなかったが隔月では改善出来ました。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・透析効率を数値化、可視化することにより客観的に透析効率を評価できるようにした。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・医療機器の整備の洗い出し
- ・透析患者の大幅な増加

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・看護師とのカンファレンスを開き、定期的にスタッフ内で話し合う場を設けた。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・少しずつだが保守点検をする機器を増やした。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・CE で保守点検している医療機器になりますが、定期的に保守点検された医療機器を使用してもらい医師又は看護師が医療に専念できるようにバックアップした。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・病院に通院出来ない患者さんを当院の送迎を行うことによって患者さんに安心を与える事が出来ました。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・透析システムの評価
- ・OPE 室業務のマニュアル化

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・アンビューバックの点検
- ・メータ付き吸引器の導入の検討
- ・酸素流量計の点検

臨床工学科 千葉友広

【臨床心理科】

1、今年度の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由

- ・公認心理師に求められる職責、知識を身につける

(理由) 勉強会や情報交換により研鑽しあった。

- ・職員のメンタルサポート

(理由) 他部署上司の協力があった。

(2) 達成できなかった目標と理由

- ・カウンセリング、遊戯療法の料金改定

(理由) 公認心理師の国家資格誕生により、保険点数の変動が今後

考えられるため保留となった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果

- ・ショートケアがなくなったことに伴い、個々のカウンセリング担当件数が増えた。

3) どのようなことを頑張ったか

- ・待合の環境整備

- ・小さな問題や必要情報は早めに共有し解決するようにした。

4) 他部署との連携を図るための工夫

- ・わからないことは積極的に、他職種に尋ねるようにした。
- ・メール以外にも、できるだけ直接赴いて話すようにした。

5) 部署としてどのように成長しましたか

- ・スタッフ同士で学び合おうとする柔軟な姿勢をもつようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に対する貢献

- ・移設後は部屋数が増え声漏れも改善され、また待合椅子の配置の工夫で、患者にとって安心できる環境になった。
- ・富山県公認心理師協会事務局として県内心理士の組織づくり、研鑽、情報発信に貢献した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

- ・こちらがすぐに手助けせず、患者さんが葛藤の末に、自らの力を活かして問題を解決したとき

8) 今年度積み残した課題

- ・カウンセリング、遊戯療法料金の検討

2、今後の展望

- ・職員のメンタルサポート
- ・予防の観点からの貢献

臨床心理科 坂井

【中央検査科】

1 今年度の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と達成できた理由

①新人教育・5年未満

・既定の水準に達成している。自己評価チェック表をもとに、達成度を確認しながらフォローした。期限を設けて努力目標を作った。

②検査内での学習の場を設ける。目標は年間12回

・達成している。毎月担当者が勉強会のセッティングを行い、医師や技師が講義する形式で勉強会ができた。

③富山医学学会（他の学会含む）で発表する。

・達成している。検査科を含む他部署の協力により検体収集ができた。

④精度管理の実施

・達成している。内部精度管理を見直し、精度管理の方法を学ぶことで精度が向上した。

⑤研修会、勉強会の参加

・達成している。自主性に任せいる。

⑥輸血検査の統一化

- ・達成している。輸血担当責任者がマニュアルを更新し、技師に周知徹底を行った。

⑦Q C活動、業務改善

- ・Q C発表会はしなかったが、業務改善は達成している。

作業手順書を作成したことにより、機器管理、在庫管理等がよりよくなった。

⑧超音波技術の習得者の増員

- ・達成している。入職1～2年で腹部超音波のルーティン習得

入職1年未満は腹部超音波習得中

期限を決めて習得できるように本人の努力目標を作成した。

先輩技師が技術を確認し、アドバイスをした。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由

- ・なし

2) 年初に立てた部署目標以外の成果

①検査科のI S O基準管理作業書を作成

作業台帳、試薬台帳、管理作業書等の医療法に対応した。

(機器管理、試薬管理、日報、月報の統一化をはかれた) 内部精度管理の確立

②出張講座の参加

地域のコミュニティーセンターで出張講座を行い新聞掲載された。

地域のスーパーで出張検査を行いニュースで放映された。

3) どのようなことにがんばりましたか。

- ・作業手順書の作成と実践
- ・出張講座
- ・各種マニュアルの改訂と作成
- ・30周年記念行事

4) 他部署と連携を図るのに、どのような工夫をしましたか。

- ・内科のセクション会合に月2階参加している。

5) 部署としてどのように成長しましたか。

- ・特定の人ではなく全員が出張講座や学会発表に携わるようになった。

6) 顧客に、どのような貢献をしましたか。

- ・出張講座に参加したこと。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったか。

- ・出張講座や病院記念行事などを通じて、地域の人達と関わることができた。

8) 今年度積み残した課題は。

- ・生理検査標準作業書が作成できていない。

2 今後の展望

- ・検査精度をあげることで病院に貢献したい。
- ・管理作業書を毎年更新し、見直しをすることで技術向上をはかりたい。
- ・業務改善を積極的に行い、仕事の効率化をはかりたい。

以上です。

中央検査科 成瀬智

【薬剤科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

①病棟薬剤業務の運用準備

病棟薬剤業務の年度内の算定開始、個別指導で業務内容に不適切と判断される指摘無し。

→ 算定に向けて人員配置を改め、他職種に協力を依頼し、業務内容の見直しを行い、算定に必要な週20時間の病棟業務を捻出できた。

②入院患者への薬剤管理指導の実施

薬剤師1名退職したが昨年度実績と同等の算定件数を維持した。

→ 病棟薬剤業務と並行して、人員配置の見直し、業務内容の見直し、テンプレートによる記録作成の簡略化などを行った。

⑥待ち時間対策

定点観測ではおよそ20分程度で、薬剤師1名退職と病棟薬剤業務開始で外来調剤部門の人員不足があったが例年と著変なし。

→ 医局へ院外処方の推進を依頼し業務のバランスを維持できた。

⑦薬薬連系

薬剤師会射水支部との関係構築や門前薬局との情報交換など、昨年度より距離感が縮まった。

→ 病院主催の地域連携の会等、顔を合わせて意見交換する機会があった。

⑧薬剤の適正管理

薬品の期限切れ金額が半減した。(高額な薬品の期限切れが少なかった)

→ 各科からの薬品請求を電子化し、データ収集を容易にしたことで定数の最適化を図った。高額な薬品を院外処方に移行した。

⑨積極的な学会・勉強会の参加

全国学会参加の他、県内県外の研修会にも積極的に参加した。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

※目標には達成していないが、効果があがっていると考ええるもの

③化学療法 of 患者指導実施

目標件数に到達せず

認定薬剤師による抗癌剤治療の説明と副作用対策を行った。

→ 新規抗癌剤の治療計画や薬品管理など、治療の裏側で十分に力を発揮した。

④入院患者への退院指導の実施

算定実績はほぼ0件だった。

→ 文書による退院の指導内容や外部施設への情報提供などに労力がかかる。

病棟薬剤業務や薬剤管理指導に注力したため。

⑤ポリファーマシー対策

特に具体的な活動や準備ができなかった。

→ どの部署や誰と、何をすべきかがぼやけていたように思う。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・勤務体制の変更（週36時間から週40時間へ変更）

→ 昼勤務を増やすことでカンファレンス等に参加しやすくした。

- ・簡易懸濁法の導入

→ 入院患者の粉碎調剤による負担の軽減。

- ・無菌製剤処理料の件数増加

→ TPNの調整件数が大幅に増えた。

- ・内服処方 of 相互作用による精度の高いチェック機能の導入

→ 薬品対薬品の禁忌登録開始。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・常勤薬剤師1名退職後も業務内容を縮小せず、病棟薬剤業務の算定開始など新規事業を展開した。

- ・業務の効率化を様々な視点で実行できた。

- ・様々な分野の院内研修会の講師を務め、院外では学会発表の他、院外研修会で演者を務めるなど積極的に活動した。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・各々が参加する委員会やカンファレンスについて、精力的に活動し存在感をアピールした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・各々の対応力が向上した。
- ・業務の効率化が実施された。
- ・D I 活動が充実した。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・病棟薬剤業務を開始し、主に病棟看護師の薬剤に関する疑問や不安に応えることができた。

- ・A S T（抗菌薬適正使用）活動を軌道に乗せることができた。
- ・調剤薬局との関係性が以前より強くなった。
- ・田中内科クリニックの薬品管理に関わった。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

業務プロセス・医療の質向上の他に顧客満足の間でも、病棟薬剤業務は大きく貢献できており、当院薬剤師にとって大きな意味のある事業だと思う。

人員の欠員や業務量の多さなど、課題を解決し実現できたことは非常に有意義だった。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・ポリファーマシー対策
- ・退院指導の実施。

2、今後の展望

- ・新電子カルテ導入により、更なる安全な薬物療法の実現と業務の効率化。
- ・緩和ケア、がん化学療法以外の専門分野の薬物療法への貢献。

以上です。

薬剤科 後藤 敦史

【食膳栄養科】

1、今年度の活動の振り返り

）年初に立てた部署目標の評価

1） 達成できた目標と、達成できた理由は？

2） ・ 部署内のインシデント件数を減らす（前年度比率 10 % 減）

→今年度1月末時点12件、29%減少。昨年度1月末時点17件（21件/年）。毎月の委託業者との勉強会も含め、インシデント発生時は、一緒に対策を検討し、厨房内に周知するよう努めた。また、報告しやすい環境作りにも努めた。

・ 多部署と連携して手順の見直し、各種アルゴリズムの作成を行う

→看護部と連携し、経腸栄養の投与手順を変更、全病棟で統一した。 NST の看護師の協力が大きかった。

・ 訪問栄養食事指導の算定ができるようになる

→算定実績はないが、医療保険での算定体制は整った。

在宅統括室のバックアップがあった。

・ 学会や研修会で発表する（3回/年）

→年間 4 回（日本病院学会、JSPEN 北陸支部会、日本病態栄養学会、富山県医学学会）いずれも NST としての発表。

チームの協力があり、外部へ発信するだけのモチベーションを維持できた。

（２）達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・栄養相談の件数を増やす（120 件/月）

→1 月末時点で、平均 109 件/月。

外来栄養相談の件数は、透析患者でカバーしていた状況であり、医師が外来栄養相談予約を入れやすい環境整備と、管理栄養士が継続予約を入れやすい体制が必要。

とはいえ、昨年度の同時期で、平均 108 件/月、透析予防指導総数 148 件/年（今年度 200 件/年）と、件数は前年度をやや上回っている。

- ・栄養指導記録のテンプレート作成

→ベースはできているが、追加・修正など先延ばしにし、取り組めていない。

- ・松本医院と訪問栄養食事指導の連携体制を取る

→算定に関して、総務課の内諾は得た。計画に具体性が欠けていたため、

先延ばし案件となってしまった。

- ・退院時栄養サマリーの稼働（5件/月）

→テンプレートを作成し、運用は開始できたが、今年度1月末時点の平均2.8件/月。

サマリー作成に時間を要するため、効率化が必要。

2）年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・緩和ケア加算における個別栄養食事管理加算の算定開始。

- ・病棟業務の中で、退院支援への関わりが増えた。

- ・出張講座（7件）や院内講座の依頼が相次ぎ、活動が多岐に亘った。

- ・訪問看護からの相談件数が増えた。

- ・ケアマネや、ほのか、在宅訪問管理栄養士等、院外との繋がりができた。

- ・新入職員の増員に伴い、食事内容について厨房との認識の共有を改めて図れた。

3）どのようなことを頑張りましたか？

- ・新体性の中（産休に入るスタッフの穴埋めと新入職員のサポート）、科として

のパフォーマンスを維持していくこと。

- ・限られたマンパワーの中、地域や他部署のニーズに最大限応えていくこと。

- ・専門職としてのスキルアップを怠らず、積極的に研修に参加したと。

- ・資格取得（とやま糖尿病療養指導士。合否の通知はまだ）に努めた。

4）他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・相手の立場に立った、コミュニケーションツールの使い分け。

- ・他部署の状況や立場を理解、把握し、対応するように努めた。

5）部署としてどのように成長しましたか？

- ・新たなメンバーが加わり、成長を見守っていく中で、切磋琢磨して栄養管理のスキルを向上することができ、真生会の管理栄養士としての使命を、再認識することができた。

- ・各自のパフォーマンスが向上し、

以前より短時間で、質の高いの業務ができるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

○对患者

・満足度の高い栄養相談を目指し、ケアとキュアの両面からの介入。

・早期の栄養介入、栄養管理の質向上。

○對他部署

・日々多職種と協働し、入院患者の栄養管理を積極的に行っている。

・木の子ハウスからの要望に対応：託児食の食事内容の変更（常菜→軟菜）

○対病院

・特別食加算算定件数が増えるよう、対象疾患に対して主治医に変更依頼を働きかけた

・健康セミナーの出演

・30周年記念行事への協力

- ・認知症カフェへの講師
- ・院内コンサートへの出演
- ・ケア・カフェの運営協力

○対地域

- ・栄養サマリーの発行
- ・出張講座

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

・在宅復帰困難と思われた症例において、多職種と協働し、自宅退院が実現した症例を経験した時。

・専門職として、役割を果たせる環境下であることが大前提、(多職種協働が当たり前という、病院の雰囲気)そして、患者さん・患者家族の思いに寄り添い、関わるすべての職種が、同じゴールに向かって支援できた時、医療者としてのやりがいを実感できる。

・患者さんから、聞いてよかった、分かってもらえて嬉しい、と言ってもらえた時。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・介護保険の在宅患者への、訪問栄養食事指導の体制構築(地域の在宅訪問管理

栄養士との連携)

- ・ 栄養サマリー作成における効率化

2、今後の展望

- ・ 育休から復帰した職員を含めた新体制に伴い、業務分担を見直し、キャリアに

応じ役割を担えるようにする

- ・ 在宅訪問栄養食事指導の算定開始
- ・ 訪問看護との連携（NST の在宅患者へ介入）
- ・ 事務処理の更なる効率化（栄養相談記録、栄養サマリー等）
- ・ 外来糖尿病患者への介入強化
- ・ 学術研究
- ・ P F Mを視野に入れた、患者への介入（入院前からの栄養介入、退院後の継続した支援など）

食膳栄養科 宮下 希世香

【視能訓練科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

I.全国学会演題発表目標 14 演題出展に対し、14 演題と達成

【内訳】

・日本眼科学会	1 演題
・日本ロービジョン学会	1 演題
・日本弱視斜視学会	1 演題
・日本臨床眼科学会	3 演題
・日本視能矯正学会	6 演題
・日本小児診療多職種研究会	1 演題
・日本網膜硝子体学会	1 演題 計 14 演題

【達成背景】

昨年同様、4 年目・5 年目の中堅スタッフが継続的に演題出展に取り組み、
これまでのベテラン組と融合し、臨床研究会合を通じて早い段階から各自
で目的意識をもって準備を進めたことが成果につながった。

Ⅲ.人材育成（新人教育）

⇒各項目 80%以上の進捗状況に対し、95.2%と達成

【達成背景】

新人スタッフの業務に対する向上心や積極性、患者に対する接遇力、
報告・相談・連絡を欠かさず確認意識の高い安全性、指導内容の吸収力を兼ね
備えており、教育プログラムを滞りなく実施でき目標達成につながった。

Ⅵ.患者満足度を高める

⇒患者満足度向上取組の目標 6 項目以上に対し、6 項目と達成

【内訳】

- ・ 検査枠消毒ならびにコスト削減のためアルコール綿を変更
- ・ 検査室内傘・杖置き設置
- ・ お手洗いへの案内図作成
- ・ 掲示板へのパンフレット設置（待ち時間対策）
- ・ 荷物棚の不安定さ改善
- ・ 転倒予防のための講習会、歩行補助具導入の検討

【達成背景】

各チームリーダーを中心に患者の立場に立った改善活動が実施できた。

上司への報告、相談を欠かさず活動できたことが目標達成につながった。

VII.部署の収益増加

⇒コントラスト感度測定目標件数 3000 件以上に対し、3229 件と達成

うちコスト算定件数 2178 件であり、4508460 円の増収

【達成背景】

検査実施日程など医師と視能訓練士間で検討・共有でき、全医師が的確に
次回検査指示をだしてくれたこと、また検査項目増加に対して視能訓練士
個々の検査速度の向上、状況判断の向上から目標達成につながった。

VIII.地域包括ケアに対する貢献

⇒大きな問題がなく、円滑に病棟運用が実施できたため達成

【達成背景】

事前に視能訓練士が入院患者を把握していたことでスムーズに運用できた。
運用面で問題が生じた場合、部署間で解決でき、その都度マニュアルを更新
し、共有できたため目標達成につながった。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

II.個人能力推進制度の確立

⇒積極性におけるスペシャリストの Criteria を設定したがアンケート調査を
年度末に実施するため未達

【未達背景】

3月に実施予定。

IV.インシデント軽減

⇒目標件数40件以内に対し、1月末で65件と未達

【未達背景】

マニュアル確認・改定、QC活動、毎月科内での医療安全講習会を実施した。

昨年よりインシデント数は減少しているが、個々の確認に頼る場面となる通常業務における入力・スキャン漏れが多く、有効な対策がたてられなかったため未達であった。

V.地域医療への貢献

⇒富山県医学会5演題以上に対して、4演題と未達

【未達背景】

演題発表は自己研鑽の一環であるため自主的出席を重んじた。地域医療への貢献に対する明確な目的・目標を浸透させることができなかったため未達であった。

IX.検査予約枠増設

⇒火曜日午後診察予約枠、視野検査枠増設見送りにより未達

【未達背景】

診察医が増加したものの火曜日午後の検査予約枠は現行数でも空きが生じていたこと、視野検査計（HF）のデモ・購入延期のため検査予約枠増設が未達であった。

2）年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ①年間教育計画である院内勉強会は計画通り実施
- ②次年度2名の人員計画に対して2名確保
- ③富山県視能訓練士会でロービジョン講習会2回、斜弱講演1回を実施
- ④QC活動での院外発表を実施
- ⑤富山県立富山視覚総合支援学校で検査に関する内容での2講演
- ⑥南館増築による検査室整備
- ⑦屈折矯正・ロービジョン・近視分野における新人教育の展開

3）どのようなことを頑張りましたか？

- ①人材育成⇒新人スタッフならびに次世代リーダースタッフの教育
- ②学会発表⇒全国学会14演題出展
- ③実習受け入れ⇒2施設より7名受け入れ
- ④算定可能検査項目増加による検査量の増加に対応⇒検査収益増加
- ⑤新しい手術システムであるORA、VERIONの運用、管理

⑥病棟改編に伴う病棟患者の検査対応、管理

⑦医療安全意識の向上⇒科内医療安全講習会 10 回開催

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

⇒明室検査リーダーを午前・午後とも設置し、検査や予約などの業務

窓口を設け、業務の円滑化を図るようにした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

⇒特殊性の高い屈折矯正、ロービジョン、近視分野の教育を開始した。

そのことによりリーダーやチームスタッフの指導力向上ならびに新人

スタッフの知識向上につながった。また今後の専門チーム選択における目標・目的意識の獲得につながった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

患者：新しい検査機器を導入し、診断価値の高い検査を実施

看護部：他科病棟における検査、診察介助、管理

ロービジョンケアを通じて看護師との連携強化

小児押さえ込み処置のフォロー

医事課：明室検査リーダーを設置することで業務の円滑化

医局：ORA・VERION の検査運用、患者管理

病院　：コスト削減（アルコール綿の変更など）

地域　：富山県内の ORT 不在の個人眼科病院への派遣

富山県立視覚総合支援学校との連携強化

7）この１年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

⇒患者からお褒めの言葉「ここのスタッフはみんな親切だね！」

と言ってもらったり、心のこもった「ありがとう！」の言葉をスタッフがもらっているのを客観的に見て、聞いた瞬間

※プロセスとして・・・

①患者対応における良いことも悪いことも些細な事も患者や他部署からの声は必ず朝礼、ミーティングで全体共有し、できていること、できていないこと、良いこと、悪いことを明確にしている。

②事あるごとに「医療人としての心」（相手を大事に思う、相手の立場にたつ、より弱者に寄り添う）をもち、それを形に出すことの大切さを意図的に話すようにしている。

③当科独自の「個人能力推進制度」を導入し、お互い「見る・見られている、聞く・聞かれている」の意識を高めている。

8) 今年度積み残した課題

⇒検査予約枠

1 か月以内の検査予約が取得しにくい背景があり、次年度検査予約枠数増設を最重要課題として取り組んでいく。また予約枠と予約枠外シートを対応させ、検査時間の重複による待ち時間発生を防止する。

次年度目標：視野検査枠（HF）10 枠/週、白内障術前検査枠 2 枠/週

⇒インシデント

昨年度に引き続きインシデントが多発している背景があり、次年度インシデント軽減を継続して取り組んでいく。

次年度目標：TOTAL47 件以下（前年度インシデント数の 2/3）に抑える。

2、今後の展望

科の方針である臨床・教育・研究の 3 本柱を軸に新人、中堅、リーダー全ての層での人材育成の強化に努めていく。

また慢性的な待ち時間が発生していること、診察時の医師の手が空く時間が存在していることから検査体制を整備し、予約比率を高めた受け入れ体制を整備することに努めていく。

地域医療への貢献に対する明確な目的、目標を浸透させ、視能訓練科が地域から必要とされる存在となるよう努めていく。

【課題】

①人材育成

【新人教育】

→当科の人材育成プログラムに沿った新人教育を展開する。

合わせて、次世代リーダーの育成も併行しながら行う。

【リーダー教育】

→毎月のリーダー会合を通じて、科の全体像を考える習慣化、

リーダーとしての考え方や資質を磨いていく。

②個人能力推進制度の確立

→特に接遇面の強化、レベルアップさせ、

豊かな人格形成、安心・満足の医療につなげる。

③受け入れ体制の整備

→検査体制を整備しながら、予約枠の増設、組み替えを行い、

予約比率を上げていくとともに待ち時間軽減に努める。

特に視野検査枠、白内障術前検査枠の設定を進めていく。

④全国学会発表の継続

→当科の強みである専門性を全面に打ち出し、自己研鑽に努めながら

病院知名度にも貢献し、人材確保につなげる。

⑤臨地実習受け入れの継続

→既存スタッフの指導スキルの向上、人間的成長を促すとともに
養成施設とのパイプ作りを行い、継続的な人材確保につなげる。

⑥地域医療への貢献

→3 歳半健診の継続

→日本視能訓練士協会主催の北陸地区技術指導プログラムの 主幹病院となる。

→富山県内の ORT 不在のクリニックへの派遣

→富山県総合視覚支援学校との連携強化

→富山県視能訓練士会での講演

⑦医療安全意識の向上

→業務マニュアルの整備ならびに共有化を行うことで安心・安全な 医療を提供
できるスタッフの育成、環境を整える。

以上。

視能訓練科 楯 日出雄

【看護部】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

・看護体制を強化し地域包括ケアの実現をめざすため、自部署の役割に応じた機能分化と連携を推進した。

理由：・看護師、ケアメイトは、担当領域以外の患者対応を拡大することができた。より高い専門性を発揮できたこともあった。

・入院受け入れ能力向上と受け入れるためのマネジメント、外来病棟間の連携と工夫をすることができた。

・4月からの看護部の組織を機能的な組織になるよう再編のための計画を行った。

理由：実施のための計画を行い他部署と調整し看護部内に周知した。

(準備は3月末まで要する予定)

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

・認知症ケアチームから看護部外への発信と行動を起こすことが不十分であった。

理由：認知ケア加算2の算定要件を満たすための活動と、

記録への啓発活動は2年目として問題なく行った。

多職種チームとしての取り組みを促す活動ができなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

なし

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・看護師、ケアメイトは、担当領域以外の患者対応を拡大することができた。

より高い専門性を発揮できたこともあった。

- ・看護部の部会・チーム活動を計画性をもって実行できた。

- ・院外での看護研究は7演題であった。

- ・幹部職員は、幹部職員としての役割を踏まえて自部署の情報共有や提案を行った。

- ・敬意が伝わる、あるいは敬意を欠く言葉遣いや態度のフィードバックを積極的に行った。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・自部署との関係や影響を考え、他部署からの情報共有を心がけた。

- ・事務員の育成（業務の拡大と精度・質の向上を図る。新たな業務の委譲）

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・自部署の機能を超えた活動ができた。（重症度、看取り、専門外）

- ・患者、家族、医療チームのメンバーとしてよい人間関係を築いていく能力を高めた。

- ・新人職員の育成は、看護部全体で情報共有しながら屋根瓦方式で実践できている。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・援助的コミュニケーションを用いて患者に安心できる看護を提供できた。

- ・多様な専門職と協働してチーム医療に参加し、推進することもできた。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・患者の回復をチームで達成したときの喜びややりがいの共有を聞いたとき。

- ・入院受け入れ能力向上と受け入れるためのマネジメント、外来病棟間の連携と工夫ができたとき。

- ・上司先輩のかかわりで、新人職員が病院理念を理解し行動変容できたことを知ったとき。

- ・キャリアラダーの認定がクリアできたとき、幹部職員に昇進できたとき。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・業務の効率化
- ・幹部職員の育成
- ・患者支援センターの入院支援担当の準備（継続課題）
- ・認知症ケアチームと看護倫理部会の担当任務の明確化と実践
- ・師長、副部長の残業対策と有休取得推進
- ・キャリアラダーの到達基準の作成

2、今後の展望

（例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等）

- ・2018年度の積み残し課題への取り組み
- ・高齢者の尊厳を守る風土の醸成（よいケアを見習い合い学び合う、敬意に欠ける接し方をお互いにフィードバックし合う）

【さくら病棟】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

①主治医による患者ミニレクチャー

病棟全体が毎日慌ただしく時間確保も厳しく開催回数は少ないが、内容が充実しているため現場で活かした

②病棟内のマイスター制度

看護師による人工呼吸器勉強会開催

業者説明会：ハイフローセラピー（高濃度酸素療法） オーソパット（自己血回収）

ASV（陽圧呼吸療法）サーボ（人工呼吸器）

③入退院支援

当初病棟にてプロセスシート作成したが、病棟運営室でも

検討していたため、全て病棟運営室に委譲し検討。

（担当：三箇 今年度中には完成予定）

達成できなかった目標と、未達の理由は？

①マイスター制度

人工呼吸器以外の担当は、担当者が業者より知識習得中であり、指導までには至っていない。理由は時間確保の問題

②申し送り時間短縮

KJ 法にて課題を抽出するも、全体の解決までには至らず。

しかし対策案の一つである申し送り基準を使用し、個人個人が意識することで今までより 10 分程短縮できた

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・ケアメイトの病棟合同カンファレンスを積極的に行うことで連携や業務がスムーズになった

- ・現在一時中断としているが、念願の歯科衛生士による口腔ケアと患者への指導が実現できた。専門職が行うことで口腔内の清潔が保たれていた

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・必要度 I 30%以上キープすること、満床以上であっても受け入れる意識があること。

→病院経営参画だけではなく、地域包括ケアシステムにおける当院急性期病棟の使命として

- ・忙しい中でも互いに声を掛け合うこと

- ・医療者カンファレンス開催

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・内科患者への退院支援、調整への介入、内科カンファレンスにて医師への確認

や今後の方向性を決定できるよう、別日に医師（平名医師）、看護師、MSW、リハビリ、患者支援センター準備メンバーの他職種で検討。

カンファレンスで情報提供をすることで時間短縮につながった

（退院支援センターの開設にむけて、他職種連携カンファレンスの事前準備であるため、わかば、さくら病棟、支援センターメンバーで開催）

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・看護師は退院支援では、患者・家族の意思決定支援への介入、

調整では他施設との調整がスムーズにできるようになったまた4)を行うことで担当看護師以外でも介入できるようになった

- ・受け入れに対し満床であっても昨年度よりさらに意識が高まっている

- ・他職種との連携

- ・上司への報告、提案が多くなっている

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

・さくら病棟の貢献ではないですが、臨床工学士が病棟の機器類を管理して下さるようになり、看護師が看護業務に専念できるようになり大変ありがたいと思います。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

・患者が笑顔で退院されるとき

・スタッフの笑顔

・急性期で入院、本人と家族の意思決定の相違、環境要因などで実現できないと思われたことを他職種と連携し、実現、もしくは実現に近い状況となり、患者、家族の笑顔、スタッフの達成感、満足感が伝わってきたとき。

8) 今年度積み残した課題は？

・患者、家族への意思決定（退院支援）への介入をもう一步踏み入れる

・申し送り時間短縮とサービス残業削減

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

・退院支援・調整の促進

業務や治療過程による看護師としての知識習得、患者への配慮、病床運営など、
全てのことが支援、調整がスムーズになる鍵となるため、スタッフと課題を抽出、
意見をもとに検討していく

【わかば病棟】

1、今年度の活用の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた部署目標と、達成できた理由は？

- ・入院患者層の看護力を高めることができた。
- ・5月より毎月必要な患者層に合わせた勉強会やオンデマンド
視聴の年間計画をたて、グループの担当者が発信に努めた。
- ・その月に必要な看護ケアや処置、特殊な指導等が必要な時には、
業者や腹膜透析指導認定看護師による説明会を設け、看護サービスの提供につなげた。
- ・退院支援の促進をすることができた。
- ・わかば病棟独自の退院支援プロセスシートの活用率を60%以上にする発信に努めた。
- ・在宅支援につながった患者の自宅訪問し、自宅での過ごし方やご家族の介護を
実際にみて確認することで、今後の退院支援につながった。
- ・朝の申し送りの廃止や短縮化し、患者のカンファレンスにて、退院における情報共有とした。

- ・自宅退院に向けてのパンフレットや調整にけるマニュアルを作成し実施することができた。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・わかば病棟のより良い患者受け入れに向けた体制作り

→わかば病棟体制における課題抽出するも、計画性と準備の不足にて変容まではできず。

2) 年初に立てた部署目的以外の成果は？

- ・あらゆる患者層に対して、当院からの転棟は勿論、他院からの転院の受け入れに心がける意識がスタッフ全体にもてるようになってきた。

- ・対人援助論の知識を患者で実践することで、抑制が解除でき施設への入所になげることができた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・より良い退院調整を図るために、他職種との情報共有、連携に努め、可能な限り自宅退院を目指すように頑張った。

- ・看護研究を2事例発表することができた。

4) 他職種との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・退院カンファレンスを開催する時は、関わっている他職種の出席の調整に努めた。また、退院調整担当の看護師の配置や、朝のチームのカンファレンスに

MSW も参加とし、MSW とは常に連携に努めた。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・患者の思いや苦しみに耳を傾けることができ、必要な看護サービスの提供を率先してチームで実施できるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのように貢献をしましたか？

- ・地域包括病棟としてサブアキュート・緩和ケア（看取り）レスパイトケ等の対応に努めることができた。

- ・自宅退院に向けて困難事例でも、地域との連携を図ることで、患者やご家族にとって安心して自宅退院に運ぶことができた。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・アンケートや直接の言葉で、当院で入院してよかった、皆様によくしてもらい、本人（患者）も喜んでいるでしょう、等喜びのお言葉を頂き、スタッフで満足感を感じ得ることができた時。

- ・自宅退院した患者のお宅訪問をした時に、病院ではなかった本人やご家族の笑顔を見て、自宅に帰れて良かったことを分かち合えた時。

8) 今年の積み残した課題は？

- ・地域包括病棟としての体制づくり（課題に向けての変容）

2、今年の展望

（例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等）

より一層、地域医療支援病院の地域包括ケア病棟としての体制調整を図る。

- ・転棟時や入院時から退院後の地域の生活を見据えた支援の提供
- ・外来、各病棟との連携は勿論、地域と他入院医療機関等の連携の強化
- ・患者層に合わせた受け入れ体制の構築
- ・それぞれ看護師の役割や得意性を活かした看護サービスの提供

わかば病棟 川崎華子

【アイセンター看護部】

1, 今年度の活動の振り返り

1) 年度初めに立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は

「アイセンターの拡張に対応する」

- ・外来より手術室業務に入れるスタッフを育成する
- ・手術室より外来業務に入れるスタッフを育成する

事前に業務の準備ができるように、勤務表に勤務部署を表記した。

正職、パート職員の隔てなく、配属部署以外の手術室と外来の業務を学ぶことで、患者の状態や手術時の手技などわかり、問診や患説明などを含めた患者ケアの意識が以前よりも高まった。今後も継続して行く。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は

「アイセンター機能を維持しつつ急性期の役割を担う」

・急性期の入院受け入れ、退院支援をする 退院支援15件以上年度前半は化学療法や緩和ケアの疼痛コントロールの患者の受け入れで月1～2件の退院支援を行ってきたが、後半は眼科以外の入院では退院支援の必要性な対象者はなく、急性期の受け入れが多く、眼科手術予約等の病床の関係で、退院支援の途中でわかば病棟やさくら病棟へ転棟となったケースもあった。

退院支援は目標を下回ったが、急性期の役割は徐々に増加している。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は

- ・アイセンターからあやめ病棟が独立することになり、物品の整理や業務の流れを見直し、課題が見え改善を行った。

- ・あやめ病棟で患者の急変や死亡があったことで、それぞれの手順に沿って見直しを行った。

3) どのようなことを頑張りましたか

- ・化学療法に携わるための手技の習得や勉強
- ・疼痛コントロールをケアするための勉強
- ・ロービジョン教室を2ヶ月に1回の実施
- ・外来と手術室の融合を図った
- ・緊急手術を断らず、全件受けた

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか

- ・外来での術前検査などを遅くならないように、外来での流れをアイセンター内で話し合い実施した。

- ・わかば病棟に眼科の患者の受け入れできるよう、視能訓練士を交えて診察介助や退院指導などの体制を整え、稼働後もサポートしている。

5) 部署としてどのように成長しましたか

・手術室と外来の融合で、アイセンター全体としての業務に興味を持ち気配りや対応ができるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか

・翌日の空床がなくても緊急入院を受け入れ、さくら病棟やわかば病棟に転棟を行い、患者満足、病床運営に協力をした。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

・県内外の病院や医院より、治療が必要な患者の紹介があり、迅速な対応で治療を行うことができる環境を作った。

8) 今年度積み残した課題は

- ・待ち時間対策
- ・外来の診療時間延長による時間外（特に土曜日）
- ・手術室のオンコールや時差出勤のあり方
- ・あやめ病棟土・日・祝の病床管理

2、今後の展望

- ・あやめ病棟がアイセンターから分かれても、アイセンター病棟部門としてこれまでに培った眼科の外来から入院、手術までの機能を維持していく。

(眼科3次救急の継続)

- ・手術室のフル稼働に向けて、スタッフの力をつける。

アイセンター 楠早苗

【外来・中央手術室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・研修、勉強会の参加（年間 10 回以上）

⇒正職員はほとんどが参加することが出来た。

各診療科に研修・勉強会参加表を掲示し各自が記入することで 目標を達成することが出来、個々のスキルアップに繋がった。

- ・退院支援の整備（勉強会開催 1 回以上）

⇒12/28 に記録についての勉強会を開催した。

- ・スムーズな応援体制ができるための育成（外来内の異動・リリーフ）

⇒看護師の異動 4 人、リリーフ 2 人

ケアメイトの異動 1 人、リリーフ 4 人

2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・研修、勉強会の参加（年間 10 回以上）

⇒パート職員は勤務時間によっては参加出来ない状況のため

- ・患者情報をデータベースに入力

⇒しっかりと情報入力しているスタッフはいるが、情報入力

不足や患者の受け止めが不十分も見受けられた。各診療科での確認不足。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・病棟からの退院患者の継続看護記録をもとに、病棟から初回外来受診される患者の情報を切れ目のない関わりができた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・透析室の増床に伴う患者数の増加、形成外科の開設、手術枠の見直し

(手術枠の空きを無くす)、内視鏡検査の件数アップに向け、看護師

ケアメイトの人員が少なくなる中、人員配置の工夫をした。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・同行訪問は看護師の人員が厳しい中、依頼にはほとんど対応し医師をサポート

出来たと考える。

- ・在宅統括室が内科外来にあることで、在宅患者に必要な物品を訪問看護ステー

ションところと物品管理課と協力して患者宅に渡すまでの流れを作成し運用し

た。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・限られた人員の中、効率的な協力体制が取れるようになった。

- ・各診療科の専門的知識の習得のため勉強会や研修会に参加し個々のスキルア

ップに繋がっている。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・救急車の受け入れを可能な限り断らない。

他の病院が受け入れを断った患者を受け入れることで、早期に治療を受けることが出来ている。

- ・月曜祝日の形成外科の手術、内視鏡検査をすることで、予約待ちを短くし患者の都合に合わせ対応することに繋がった。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・地域から必要とされる医療に他職種連携し対応している。

（専門外来の充実、透析室の増床、緩和ケア内科など）

- ・夕方外来は仕事や学校終了後でしか受診出来ない患者の満足に繋がっている。

- ・診察や待ち時間による苦情に対して、診療科スタッフだけでなく

フロアマネジャーと連携し、患者の不満や苦痛の軽減に努めた。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・ 外来・中央手術室の4月からの新体制の業務内容を作成する。
- ・ 待ち時間対策（整形外科、消化器内科）
- ・ 業務改善（効率化、時間外削減）

2、今後の展望

（例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等）

- ・ 専門的な看護外来を充実させることで患者の重症化予防により一層取り組む。
（患者満足）
- ・ 時間外削減につなげる人員配置に取り組む。（職員満足）
- ・ 新体制（外来・中央手術室）の構築

外来・中央手術室 明元佳子

【地域医療連携室/医療福祉相談室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

○出張講座の増加

新たな職種への講演依頼やリピーターからの講座依頼もあり、着実に依頼件数が伸びている。新聞に出張講座が掲載されることもあり、真生会を知らない住民に真生会を知ってもらう良い機会となっている。

→出張講座を真生会を知ってもらう良い機会と認識し、

各種交流会等でリーフレット配布をする等の取り組みをしているから。

○業務効率化活動（事務業務効率のための工夫）

- ・医師のシャチハタや秤の購入
- ・地域連携ガイドの綴り方を時間短縮できる方法へ変更
- ・当院より転院相談時に使用する「転院連絡票」の作成
- ・当院各科の受診方法の再確認（マニュアルの整備
- ・退院支援の状況一覧を壁のホワイトボードに記入
- ・主治医意見書等の閲覧方法を知り、医事課担当者に確認せずとも連携室より関係者へ返答可能となったこと・・・等々

→月初に業務改善の会合時間を設けたことで、みんなでアイデアを

出し合って工夫することができたから。

○開業医訪問

- ・開業医訪問の年間計画は達成できた。

- ・開業医のメールアドレスを 22 人入手、開業医の妻のメールアドレスを 3 名入手し、一部では交流を図っている。

→訪問計画を立案する前に、真生会の強みを知るために、医師や関係する職員に情報収集を行った。情報収集で得た「真生会の強み」を知った上で訪問できたから。

○退院支援・・・（看護師）早期の退院支援を目指し、患者・家族との面談を極力実施した。

→毎週月曜日の月曜カンファレンスがスタートしたことにより、

「情報収集」する必要性が高まったため。

（２）達成できなかった目標と、未達の理由は？

○退院支援

- ・MSW は病棟毎に担当者を決め、退院支援に取り組んだが、退院支援加算の算定率 35%の目標に達することはできなかった。人員減が影響していると考える。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

○開業医訪問

あるクリニックより「紹介した患者を返してもらえない」と意見あり、紹介のあった患者の一覧リストを準備し提供した。そのリストに感激し、「これからはもっと紹介したい」と態度が一変したことがあった。意見に対し、誠実に返答することを積み重ねたことで得られた成果であると思われる。

3) どのようなことを頑張りましたか？

○退院調整看護師・・・早期の退院支援を目指し、患者・家族との面談を極力実施した。

○MSW・・・MSWは4名中、新入職員が2名であり、業務を覚えるまでに時間を要したが、多職種との連携を大切にし、より連携ができるように努めた。

○事務・・・患者支援センターの準備に関わり、途中から議事録を作成することで、進行具合がよく分かるようになった。

○開業医訪問・・・31年1月単月で紹介件数が前年度比128%であった。紹介数の増加は訪問活動と相関関係にあると考えている。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

○事務・・・医事課と連携することにより、業務効率が上がるだけでなく、関係機関が知りたい情報を連携室に連絡するだけで

情報提供できるようになった。院内各部署との情報共有を密にすることを心がけた。

○退院支援・・・多職種（特にリハビリ科）との情報共有に努め、他のスタッフに共有するようにした。

○開業医訪問・・・マーケティング会合やミニ会合を設け、開業医訪問に必要な情報やグッズと共有した。（企画課との連携）

5）部署としてどのように成長しましたか？

人員減でスタートした 30 年度であり、難局を切り抜けられるかどうかで始まったが、スタッフ各自が持てる力を出して乗り切ることができた。7 月より患者支援センター準備のため事務員が 1 名配置となり、事務員が 2 名体制になったことで、MSW が一部担っている地域連携室への外線電話への対応時間が減り、退院支援に傾注できた。人員増により、役割分担を細分化でき、業務整理も進んだと思われる。

6）顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

① 4）で報告した以下の取り組みをしたことで、医事課に電話をつなぐことが減った。医事職員の負担も減ったと思われる。

○事務・・・医事課と連携することにより、業務効率が上がるだけでなく、

関係機関が知りたい情報を連携室に連絡するだけで情報提供できるように

なった。院内各部署との情報共有を密にすることを心がけた。

②4月に第1回地域連携懇話会、恒例となった6月の地域連携交流会、2月には

第1回地域連携講演会の開催、また、病診連携の会の活性化への働きかけ等の

活動を通じ、射水市を中心に高岡医療圏の関係機関とつながりを深める場を

提供している。(3月にはケア・カフェあい開催予定)

新入職員がほとんどの中で開催し、参加者からは一定の評価を得られた。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

・患者を支援する中で、「家に戻りたい」との本人の希望を叶えることができた時。患者の「思いを叶える」ために、患者・家族の意見をよく聞き、必要な社会資源を集める等、根気強く行えたからではないか。

8) 今年度積み残した課題は？

居宅介護支援事業所等への訪問活動は実施しているものの、適切な間隔で

訪問できずにいる。年間計画通りに実施できるように体制を整える必要がある。

2、今後の展望

患者支援センター始動に向け、職員それぞれが持ち場を自覚し、患者が利用しやすいセンターとなるよう提案していく。入退院支援において、看護師、事務、MSWそれぞれが力を発揮できる環境を整えたい。

地域医療連携室に 1 名、開業医訪問専任の職員が配置されたことで、安定して訪問活動が行えるようになった。今後は、活動を拡充・整備できるように取り組みをしたい。(MSW の訪問活動とのリンクなど)

次年度も地域連携懇話会等、地域と直接つながる活動を予定している。院内外のニーズを把握し、内容に工夫を凝らして成功させたい。

真生会富山病院 医療ソーシャルワーカー

阿部素子

【医事課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・ 幹部対象の対人援助講習会 →長久副科長に講師を依頼。計画的に実施した

- ・ 行動記録の促進 →幹部は達成。勤務表に評価育成の時間を組込んだ

- ・ 院外発表 →施設基準チームとして佐藤さんが学会発表

- ・ 改善活動 →QC 大会ではなく病院全体のやめる取り組みとして実行

- ・ 休暇取得の推進 →管理者が全体把握したため

- ・ パソコンスキル向上 →指導担当者を決めて実施

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・ 院外講師を呼んでの勉強会 →日程調整等つかず未開催。次年度再度計画

- ・ 新人勉強会 →2 回の予定が対象者病欠で 1 回のみ。もう 1 回は 4 月に行う

- ・ 言葉の教室全員 2 回以上 →これから集計

- ・ 富山県医事研究会への活動参加 →理事会がほとんど開かれなかった

- ・ 全国医事研究会への発言 →発言は少なかったが、ML 外での関係強化はできなかった

- ・業務リスト作成 → 余裕なく未実施
- ・指標を毎月共有 → 査定・返戻は実施、未収金は余裕がなく来年度から
- ・落ち穂拾い活動 → 部分的には実施。他部署と調整つかず未実施のものあり

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・来年度からの休日当番日増加、今年からの勤務条件の変更に対して、

混乱や支出増なく部署内での調整をおこなえた

- ・勤務表を新システムに対応できるよう変更した
- ・中期的視点に立ち、部署内の配置変更を意識的におこなった
- ・アイセンタークラークを秘書課と相談しながら一部移行（継続中）
- ・ヒットビットを全員で開始

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・診療報酬改定後の対応
- ・初めての人事評価、ラダー評価、面談を遅滞なく実施
- ・南館増築、病棟入れ替えへの対応
- ・新科の開設や医師の入退職、診療時間や受付時間の変更などに対し

柔軟に体制をとり、患者への案内も適切におこなった

- ・新電子カルテ、新受付システムへの対応（継続中）

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・他部署と合同面接（採用状況を共有）
- ・電話オペレーターと密な情報共有（部署の ML に加わってもらった）

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・人事評価制度への意識向上

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・30 周年イベントの運営協力
- ・北陸診療情報管理研究会開催運営の協力
- ・講師（健康ワンポイント講座、新人看護師、ケアメイト、中高生）
- ・専門学校実習生を 2 回、計 3 名受け入れ（他部署実習も一部取り入れ）

7) この 1 年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・職員同士が助けあう風土があり、異動や忙しい中でも乗り切れた

8) 今年度積み残した課題は？

- ・院外講師を呼んで勉強会
- ・ラダー等級に添った教育計画の立案と実施

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・ 対人援助の考え方と技術を部署全体へ浸透
- ・ 消費増税への早めの準備
- ・ 診療報酬改定で院外講師に頼らず院内講習会をおこなう力をつける
- ・ 自発的な学習、改善を促す工夫
- ・ 新電子カルテやレセコンのシステムを活用した効率化

医事課 深田佳栄子

kaeko@shinseikai.or.jp

【診療情報管理室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

◎学会発表の準備

- ・診療情報管理学会へ参加し、他の病院の発表を参考に、
学会発表内容の検討をし、下準備を進めた

◎病院運営に貢献するデータ提出及び分析

- ・システムから必要な情報を取り出せるよう学習し、
データ加工して、提出できるようになった
- ・症例数等についてこまめに情報の発信をおこなった

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

◎機能評価係数の上昇

- ・症例数についてこまめに情報の発信をおこなったが
機能評価係数2の上昇までにはいたらなかった

◎安全に診療情報管理室を運営

- ・システムを改善する方向へ動き出しているが、
安全に運営には至っていないので引き続き検討したい。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

◎昨年度に続き院内で DPC について各部署への啓発活動（講義）を実施。

・結果として、D P C 情報の周知や精度向上につながっている。

◎北陸診療情報管理研究会の開催運営

・結果として、他院とのつながりを持つ事ができ

点数算定情報や運用方法、適時調査の様子など他院から情報をいただくことができた。

◎パスと一体型の入院診療計画書の導入準備の開始

・結果として、医師の業務負担、軽減にむけて入院診療計画書をパス形式として

手術で予定入院の患者さんには外来で説明と同意を終わらせる事を検討中

◎ホームページ掲載用の手術や検査等の統計業務を開始

・結果として、医師の業務負担軽減に貢献

3) どのようなことを頑張りましたか？

・症例数等について関係部署へ情報の発信を行うことで、医療機関別係数の上昇にむけた意識付け

・全国がん登録の精度向上にむけて研修参加等学習。

・パスと一体型の入院診療計画書の作成・運用にむけて研修参加等学習や情報収集。

- ・期日に遅れることなく、データ提出や全国がん登録の提出を行っている。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・メールや電話だけで済ませる事なく、直接現場へ出向き関係者と話し合いを行った。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・院内で DPC について各部署へ講義をすることで、自らも学習し、知識が向上した。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・重症度医療看護必要度の I と II の選択検討の一助とする為

システムにて重症度医療看護必要度の I と II のシュミレーションを行った。

- ・関係者に患者さんの入退院先のデータを提供した

7) この 1 年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・医師よりホームページ掲載用の手術や検査等の統計業務を引き継ぐことで

業務負担軽減に役立てる事で貢献できるようになったこと

8) 今年度積み残した課題は？

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・全国トップレベルのデータ分析をめざし、人員や体制についての検討。
- ・学会等での発表、情報発信。

以上です。

診療情報管理室 荒谷真由美

【情報室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

2019 年 5 月稼働の新しい電子カルテ(以降、電子カルテ)が遅延なく進められている。早い段階で関連部署と連携が取れたからだと思われる。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

電子カルテの最終的な目標は 2019 年 5 月の稼働であるため達成には至っていない。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

透析システムの導入に携わり、患者や感染症の連携及び、電子カルテへの結果取り込みを行えるようにした。

10 年ほど使用していた受付機を情報室で作成し、1 台 200 万円程度かかる費用を 1 台 20 万円程度に抑えた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

電子カルテの開発にあたり他部署の運用を確認し、業務改善できるよう心がけた。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

電話だけで済ませることなく、直接話しをするようにした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

各部署で様々な運用を行っていたが、聞き取りなどを行うことにより、運用を理解し、問題が発生したときでもスムーズに対応ができるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

各部署の要望を確認しつつ電子カルテを開発した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

部署の要望を反映させると開発のコストが情報室側に発生する。相手が望むことを実現させるために、限られたリソースで最大限の要望に応えることができるよう心がけた。

8) 今年度積み残した課題は？

電子カルテの本稼働。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

電子カルテ稼働までは新たなシステムの作成や導入を見合わせている。電子カルテの安定稼働後はよりよいシステムにするため部署の要望を聞いてシステムに反映させる。

情報室 帯原 真嗣

【医療安全管理室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価 →後日報告

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

業務の簡素化を行えた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

全部署とも、目標を達成しようと頑張った。途中経過を確認した。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

他部署とこまめに連絡をとるようにした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

医療安全目標に各部署が自ら取り組む自律的そ組織に近づいた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

患者の安全、職員の安全のために、問題点を整理して、検討を重ねた。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

個人の責任を迫及するのではなく、病院として医療安全を推し進めること。

8) 今年度積み残した課題は？

転倒転落と身体抑制のはざまで、思い悩む機会が多く、次年度以降に前進したい。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

来年度は転倒転落に対する考え方を整理する。また、各部署ともに今年度より前進を目指す。

豊田茂郎

【感染対策室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

・学会及び研究会に積極的に参加・発表する。

(指標) 学会、研究会参加年間6回

⇒感染症学会で、2年連続発表した。

富山県感染対策研究会の世話人及び座長を行った。通常参加 1回

広域地域連携感染対策合同カンファレンスで、発表、座長を行った。

ICN 関連学会 2回参加

・誰もが理解し、実践できるマニュアルに整備する。

感染症別記述項目の増加(5つ以上)、各施設マニュアル草案作成

⇒風疹、ムンプスその他のマニュアルを作成、改定した。

マニュアル全体の改訂、更新には、至っていない。

・リンクスタッフの育成強化

リンクスタッフ活動が積極的に行える

⇒部署横断的に手指衛生指導が行えた。

看護部向けの PPE 着脱講習会企画・運営した

- ・院内感染対策講習会の参加者の増員

全職員の参加

⇒DVD 受講を含め 第 1 回目受講率：98%

第 2 回目受講率：未集計（DVD 受講中）

（2）達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・院内感染が発生しない、アウトブレイクさせない。

新規感染症発症「0」

⇒持ち込みによる保菌者が多く、現場の対策が不十分であった。

- ・院内感染が発生しない、アウトブレイクさせない。

手指衛生実施回数 10 回/一患者

⇒携帯の消毒剤が浸透しない。アルコールに対する手荒れがあり、

消毒回数が伸びない。（4 月～6 月 13 回、7 月～1 月 約 8.3 回）

- ・抗菌薬適正使用を推進しその支援活動を積極的に実践する。

抗菌薬適正使用に関する会合を隔週で行う。

⇒AST 会合は、毎月 ICC に合わせ開催できているが、2 回目の開催が

月曜日祝日の為、日程調整ができなかった。

- ・感染対策に関する指導、教育を地域で積極的に行う。

健康ワンポイント講座、出前講座の実施 2回以上

⇒院内で1回、院外で1回出張講座を行った。

- ・経済性にも配慮した感染防止のための、機器、物品、薬品等に関する

提案を行う。 適宜

⇒現場からの相談で、針捨てボックスを変更した。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・ICT ラウンドが定着した

- ・ラウンド結果のフィードバックを毎回行い、現場の改善、意見など

早い時期に反応、改善がみられた。

- ・AST 会合の2回目が開催できないため、メール、カルテメッセージを

利用して、抗菌薬適正使用に関する介入を行った。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・ICT 通信をラウンド後、毎回その日に配信した。

- ・抗菌薬適正使用に対する介入

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・医療安全対策室と全職員対象の講習会運営、企画を一部共同した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・感染管理を ICC、ICT メンバーが理解し、各自部署及び、院内全体に

意識が向くようになった。

- ・富山県感染対策の合同カンファレンスで、ICN,薬剤師が発表して存在感を示した。

- ・富山県感染対策研究会で、ホストをつとめた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）にどのような貢献をしましたか？

- ・感染対策の必要性、自分たちができることについて知ってもらえるようになり、定着しつつある。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・インフルエンザの院内発症があったが、現場の対応が迅速であり、判断が早かった。この時に、入院患者を守る意識が高く、感染対策として理念が実現できた瞬間であったと考える。

8) 今年度積み残した課題は？

・大きなアウトブレイクはなかったが、新規感染症の発症、インフルエンザの蔓延などがあった。また、針さし、曝露事故もあり、各具体策をより分かりやすい内容にし、周知していかなければならないと考える。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと・・・等)

・感染対策に係る手順の見直しを行い、より現場にあった具体的な感染対策を実践できるよう現場と共同していきたい。

【病棟運営室】

各病棟で個別に報告があると思いますので、運営に限って送信させていただきます。

重複する点があるかもしれませんが、よろしくお願いします。

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・病棟入れ替え 形式上は達成

- ・病棟入れ替え後の体制

局麻手術をわかばで受け入れ

緩和ケア関連を中心に眼科患者以外もあやめで受け入れ

- ・病棟口腔ケア 徳永医師赴任と歯科衛生士配属が決まり好転した 今後は

NST へ

- ・病棟機能の向上として以下を指標とした

効率指数 ほぼ 1.25 以上を維持

転送数を減らす 添付資料参照 昨年のデータがないので判定できず

病床利用率 さくら：増加 わかば、あやめ：微増

新入院増加 さくら、わかば：微増 あやめ：横這い

必要度の維持 30%以上を維持

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・病棟個室化 検討不十分
- ・ADL 室 ADL 室は関係者の総意が得られなかった

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・なし

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・多職種が連携してそれぞれの強みを生かせる体制を広げたかったが

まだうまくいっているとはいえない

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・多職種で退院支援の会合

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・病床管理会合がほぼ軌道に乗った
- ・利用率、必要度への対応が早くなった

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・経営への貢献

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

・射水市になくてはならない病院として、入院受け入れを断ることが減らせたとき(限られた病床と混合病棟の特殊性から多くの条件が整わないと受け入れが難しい)

8) 今年度積み残した課題は？

- ・入退院支援の体制整備がまだ途上
- ・それぞれの職種が自発的に病棟運営にかかわる仕組み作り

2、今後の展望

- ・入退院支援の体制を整える
- ・多職種連携の強化
- ・地域の施設、機関との連携の強化

以上です。 橋本義弘

【デンタルクリニック】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・学会・研修会等への参加回数
- ・院内勉強会等での発表回数
- ・SPT I・IIの算定件数
- ・歯科訪問診療1・2の算定件数
- ・特別対応加算の算定件数

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・学会等のレポート提出
- ・Ce 算定件数
- ・口腔機能管理加算の算定件数
- ・診療情報連携共有料の算定件数
- ・言葉の教室の参加回数

未達の目標に関しては、目標達成に向けての動機づけが不十分だったこと。次に患者数の減少に伴う算定件数の減少も考えられる。医師 3 名体制で歯科衛生士が 4 名減の状況でかなりの頑張りは認められるが

更なるモチベーションのアップと業務効率をあげてゆくことが大切と思われる。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・デンタルクリニック内の断捨離を行い、物理的無駄を大幅に削減できた
- ・エアーフローの機器導入に伴い、メンテナンス業務の

業務効率アップにつながった

・診療報酬改定に伴う施設基準の届出や、地域の歯科医療機関の中でデンタルクリニックが果たせる役割・機能を明確にし、届出要件である研修会の受講や環境整備を行ったことで、新たな施設基準が受理され、医療の価値が高まった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・往診・訪問診療
- ・出張講座等の講演啓蒙活動
- ・やめる取り組み

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

医科受診の患者紹介について当日はファックス紹介になるが、当日以外は医科電子カルテのカルテメッセージを通じて紹介を受けるなど医科医師の負担を軽減できるようにした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・往診や訪問診療に関する対応力の向上
- ・スタッフが減る中でこれまでの業務+ α の業務をするようになった
- ・出張講座等の回数や発表者が増えた

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、

どのような貢献をしましたか？

- ・乳幼児の歯科検診、虫歯予防教室（公衆事業）
- ・ケアマネ対象の講習会
- ・学校健診（大島小学校、新湊小学校） と授業の開催：歯ブラシ教室
- ・地域包括会議
- ・休日当番
- ・射水市糖尿病デーでのポスター作成
- ・PTA 対象の講演
- ・健康講座・糖尿病教室など
- ・院内勉強会での講義

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

- ・地域包括化構想に伴い、往診業務を立ち上げ、外来受診患者家族から「歯科が往診してもらえるなんて本当にありがたい」と喜んでいただけた。

- ・講演活動で多くの地域ボランティアからお礼の言葉をもらえた。

またケアマネジャーからもお礼の手紙をもらった。

- ・他院で診てもらえなかった患者を診療し、患者の安心・満足につながった。

- ・他院受診中の患者のセカンドオピニオンに的確に対応し安心満足をお届けできた。

8) 今年度積み残した課題は？

病院の掲げる目標に対して高い意識を持っているスタッフを増やすこと。

業務をこなすのではなく、自発的に業務を行うスタッフに意識改革を行うことが適切な業務改善につながる

2、今後の展望

患者や地域からの要望も増大する中、限られた人員で質の高い歯科医療を提供するよう、来年度はより一層の効率改善を心がけたい。また、状況を好転させてスタッフも患者も笑顔のあふれる歯科になるためには、

職員一人一人に「自利利他」の理念がより深く周知される必要がある。

- ・行政、他の施設との連携を通じて歯科医療の拡大を図る
- ・外来診療の効率化（少ない人員でも効率のよい診療を実施する。そのためには

歯科助手のアシスト業務の向上が必須）

- ・メンテナンス業務の効率化（機器導入に伴う一枠拡大）
- ・HP をより充実させ、義歯関連の自費診療の拡大を行う

デンタルクリニックをかかりつけと思ったださっている方を、最後まで

サポートできる歯科医療の実践。

【訪問看護ステーションころ】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ①訪問延べ件数は、10500 件の目標を超えると推定される。
- ②月間訪問実人数は最高 146 人と過去最多であった。
- ③地域包括ケアシステムを意識し外部への発信力をスタッフ全員強化できた。
- ④看護小規模多機能施設開設に向けて運用構想、計画を策定した。

【理由】 各自が目標を意識し取り組めたため

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

キャリアラダーの見直し

OJT の検討

【理由】 他の目標項目、特に看多機の計画に注力したため。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ①退院患者の病棟看護師との同行訪問が増加した。
- ②災害看護の研修に参加し、スタッフの災害対策の意識が高まった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

①健康ワンポイント講座、出張講座（3回）、ほのか勉強会（3回）

在宅リハビリ勉強会と地域に向けての講座を多く開催できた。

②SQ研究会のオンデマンド研修は、8割のスタッフが1講義以上受講し、受講延べ回数は34回であった。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

①2ヶ月に一度、看護部の看護師対象に退院後カンファレンスを開催し、訪問看護からの退院支援を発信した。

②栄養面で心配な利用者があれば管理栄養士に相談にのってもらった。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

①訪問件数の増加により、一時的にマンパワー不足になることもあったが、訪問看護の依頼は断ることがなかった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

①出張講座を通して地域包括ケアシステムを意識して訪問看護師の役割、ACPについてなど事例を通してわかりやすく発信できた。

②地域のケアマネジャーからの訪問看護の新規依頼は、必ず受け、状態が変化した時の情報共有は適宜行い、安心感から良い評判に繋がっている。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

①在宅で看取りの利用者も増加する中で、本人、家族の意思決定のサポートをし、揺れ動く気持ちに寄り添いながらケアできた時。

②多職種と連携しながら、最善を考え実践できた時。

8) 今年度積み残した課題は？

キャリアラダーの見直し

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

①看護小規模多機能型居宅介護開設に向けての体制の構築

②地域での災害対策について訪問看護師としての対策の構築

【総務課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・業務の洗い出し（業務の効率化を図るための第一段階）
- ・業務の共有（1つの業務につき複数人できるようにする）
- ・（採用）応募の母集団の拡大を図る

※上記が達成できた理由は、目標が具体的で取り組みやすかった。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・多面的な職務遂行能力を身につける
- ・職員へ役立つ情報の発信
- ・働き方に関する検討と提案（定年・高齢者・障害者・女性）

※上記が未達の理由は、行動計画が1年で完結できる水準でなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

・休日賃金の割増率や休日の定義の整理をおこない、全職員の説明や変更にあたっての同意を得た。

・部署全体でおこなう作業を通じて部署の一体感が高まった。

・HIT-Bitをおこなうことにより、部署内の協力体制ができた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・新たな業務に慣れ、業務の効率化（給与明細の電子配信など）を図った。
- ・新しい人事制度の運用をルール通りにできるようにした。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・コミュニケーションを密に取ること。

具体的には、内容によってメールだけで済ませず、直接話し合いの場をもつこと。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・団結すると、成果は足し算ではなく掛け算ででてくるという実感を

スタッフ一人一人が持ち、生き生きと職務を遂行している。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・職員がわからないことがあれば、とりあえず総務課に聞こう、という

意識が少し定着したのではないかと思う。それが職員の安心感につながればいいと思う。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

・知識や経験を積み重ね、その成果が職員の役にたったとき、職員からかけられる感謝の言葉を聞いたとき。

8) 今年度積み残した課題は？

・働き方に関する検討と提案。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

・さらに業務の効率化と共有化をすすめ、節約できた時間と労力で多方面にわたる働き方に関する検討をすすめていきたいと思う。最優先で取り組みたいのが、障害者雇用である。これを推進することは地域への貢献にも資すると考える。

次に、来年度中に、病院の福利厚生に関して現状の整理とそのあり方を検討したい。

【経理課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・「関連する専門知識を磨く」
- ・「業務で廃止、簡略化、IT化できる部分を見つけ改善する」

経理課マニュアルのコンセプト：「ベテランでも新人でもすぐに一定レベルの業務ができ、かつ継続できること」を念頭において日々改善、マニュアル化を進めたこと。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・「経営改善に役立つ資料を考案する。」

日常業務に関係する事項は日々目にするため意識に上って改善しやすいが、中長期的視点を必要とする経営の観点での改善提案が十分できなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

田中内科クリニックに関する改善ができた。

- ・書類の廃棄方法の軽減化
- ・銀行集金業務の軽減化
- ・時間外勤務の把握方法の改善

いずれもクリニックの職員側からは声をあげにくい内容であったので、こちらから提言を行い実現した。

3) どのようなことを頑張りましたか？

改善事項を文書化し、内容も単なる手順書でなく根拠や目的を示し、スタッフに汎用化した（＝どこに行っても通用する）実務力がつくようにした。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

他部署の意見、事情、慣行をよくヒアリングした上で提案し、それを修正した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

「同じ勤務時間（4時間）を過ごしていても、1年前と比べてやっている内容が大きく変わった」、とスタッフから感想が出た。同じ時間で、1年前よりレベルの高い仕事ができるようになったと思う。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

これまで時間を要していた仮払い精算のやり方を簡略化して、職員の事務のわずらわしさを軽減できたこと等。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

スタッフに実力をつけてもらおうと工夫することそのままだが、自分の実力アップになっているとわかった時。（自利利他）

8) 今年度積み残した課題は？

- ・ 固定資産の現物調査
- ・ 棚卸方法のよりよい方法の検討
- ・ 労災、自賠責未収金処理のマニュアル化

2、今後の展望

AI 化に伴い、事務作業の多くは手作業から PC 処理に置き換わってゆく傾向にある。しかし物事の成り立ちを把握したり、処理の手順を設計したりすることは人しかできないので今後もなくなるならない。そういう部分を重点的に学ぶとともに、PC 処理に置き換えられることは大いに置き換えて効率化したい。

以上

[illegible]

医療法人 真生会

経営企画部 経理課 佐々木 誠

E-mail: msasaki@shinseikai.or.jp

[illegible]

【企画課】

10 月組織変更により、経営企画室から経営企画部企画課に部署名変更となりました。

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

・原価計算システムの開発

→計算方法を確立し、毎月、継続して出せるようになった。

・診療科支援

→各部門の資料作成、マンスリーレポート・原価計算の結果のフィードバックにより、対策の支援ができた。

・コントロールパネルの作成

→各重要数値についてグラフ化を行った。マンスリーレポートの進化版として、消化器内科の作成に着手した。

・マーケティング活動の支援

→紹介件数の内訳、ヘビーの状況等について分析し、情報提供を行った。

・事業支援

→看多機事業について、関係者と打合せを継続している。

- ・職員満足度の向上

→全体的には、昨年度と比べて、意欲度、活性度が上がった。

- ・現場でのエクセル業務支援

→マクロのシステムを他部署から要望に合わせて作成した。

作成数も年初目標数より大幅に上回った。

- ・ファシリテーションスキルの向上（数字を用いた現場ヒアリング）

→会合前後での状況確認を行えるようになった。

（２）達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・外部環境の分析

→能力不足。十分なリソースを割けなかった。

- ・外来運営の生産性（待ち時間の見える化）

→待ち時間チームとの連携をしなかった。十分なリソースを割けなかった。

何をすべきなのか鋭意検討中。

２）年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・投資の採算性について、数値を出すようになった。

- ・非常勤医師の採算性について、数値を出すようになった。

・関係部署との調整、医事課の知識、企画の立場から診療報酬の新規届け出を行った。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・まなびいの『継続』
- ・相手の期待値を超えるように、資料作成した。
- ・看護必要度の1日必要患者数、入院元・退院先一覧表
- ・業務効率H30の企画運営（改善推進室との協働）

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

・結果の妥当性の確認を通して、相手の仕事のやり方や状況を理解するようにした。

- ・他部署からの依頼に対して、迅速に対応してきた。
- ・対面で話をする時間を増やした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・院外のシンポジウムや勉強会に、講師として呼ばれるようになった。
- ・プレゼンやファシリティのスキルアップについて、皆で時間を割いて研究した。
- ・高額セミナーや書籍代など自己投資（自費）を行い、自己研鑽が当たり前になった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・経営会合や医師朝会合や診療科別会合で、情報の見える化を行い、意思決定や

『やろう！』という思いの促進になったと思われる。

- ・エクセルマクロのシステムを多く作成することによって、各部署の事務作業の効率化にダイレクトに貢献した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・役に立てるレベルになるために、かなり勉強した。勉強した内容が、実務で活かした時、自分のスキルアップにもなるし、人様の役にも立てる。

- ・病院が抱える課題に対して、関係部署と関わることで、動きが起きたり、その成果が現れてきた時。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・外来の生産性向上に資する施策の提案

- ・外部環境分析から導き出される病院の方向性や施策の提案

- ・原価計算について、診療科別はできたが、部門別はこれから精度を上げる。

2、今後の展望

- ・データ分析の緻密さは向上させつつも、人の心理や感情の部分をもっと重視していきたい。
- ・注目すべきところにスポットを当てられる存在になる。
- ・単独では実現しづらい事柄の支援を継続していく。
- ・医療政策、外部環境、地域貢献の視点から病院のあり方を提案する。
- ・現場を見る。もっと足を運ぶ。

以上

企画課 濱名孝行

【広報課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・ ホームページの充実（年間280件）1月時点で413件（前年同時期より92件増）

→ コンスタントにタイムリーな発信を心がけた

- ・ 院内ブログの充実（年間120件）1月時点で98件

→ コンスタントにタイムリーな発信を心がけた

→ 職員の皆さんに院内ブログが浸透し、写真をはじめ掲載内容の提供

が増えており当初の広報課の取材のみでしか作成できなかった状況がかわりつ

つある。件数の増加と院内広報の充実度は比例していると感じる

- ・ 和顔愛語の部数を増やす or 発行回数を増やす

→ 30周年行事やJMIPなど話題が豊富だった

- ・ 富山県中国訪問団の広報（HPと和顔愛語で特集内容を公開済み）

→ 目標のとおり実行

- ・国内外のアピール（JMIP 取得後のマスメディアを使っの宣伝）

NHK をはじめとするテレビの放映や新聞などに掲載した

→ テレビ局や新聞社などへの営業活動を実行

（２）達成できなかった目標と、未達の理由は？

特に無し

２）年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・ホームページのアクセス数が驚異的な伸びを記録

（院内ブログで状況を紹介予定）

多くの情報を訪問者に提供できたことにより受診などに繋がっている可能性がある
ある

- ・３０周年記念行事の大成功

→さまざまな媒体で宣伝

- ・新聞掲載回数 数年前と比べて倍増

（院内ブログで状況を紹介予定）

３）どのようなことを頑張りましたか？

→ タイムリーな発信を心がけ、職員の活躍を院内広報で

紹介するなど知ってほしい・知りたいに応えた

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

・総務課に掲示物業務を担っていただくにあたり情報共有を正確に行った。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

→ 写真を撮影する技術の向上がみられる

→ 広報媒体に使われている言葉遣いの誤りに気づきやすくなった

→ 業者との折衝に自信を持って対応できるようになった

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

→ ニーズを把握して適切な発信に努めた

→ 地域住民との関係を深めて健康増進に寄与した

→ 真生会ブランディングを高めた

→ 職員の活躍を院内広報で多く取り上げることができた

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

→ アンテナを高くして知りたい・知ってほしいに応えられるように努めた

本来届かなかったかもしれない相手にその情報を届けられた時など喜びの言葉をいただき、嬉しかった

8) 今年度積み残した課題は？

- ・全部できました。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・アイセンターHP のリニューアル

→サイトの記述方法（HTML の）が古い状態のままで好ましい書き方ではなくスマホ対応もされていない。Google 等で検索した時にヒットしにくくなっておりマイナス要因が多い。看板でもあるアイセンターの HP を速やかに良い状態にしたい

- ・症状→診療科のシステム構築

→外部業者とも協力し、当院 HP に症状から診療科に誘導できる仕組みを実装する。そうすることで健康増進に寄与し、真生会で自分の症状が診てもらえるという安心（受診）に繋がる

- ・広報、院内ブログの認識も職員間でだいぶ浸透してきたが

まだまだ知らなかったところで活躍されている方もあると聞きます。

事前・事後に情報をいただければ適切・速やかに広報したいと思いますので

今まで以上に情報提供を他部門に期待したいです。

以上です

吉田充寿

<takahisa@shinseikai.or.jp>

【施設管理課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

◎南館改修プロジェクト（主担当：北川）

南館増築後、続けて南館改修を行ったが、計画、検討、こまめな調整、案内等をおこない、無事完了した。

◎駐車場改修及び拡張プロジェクト（主担当：酒井）

南館増築に合わせて、駐車場改修・拡張をおこなったが、段階的に改修を進めることができ、無事完了した。

◎病棟入れ替えプロジェクト（主担当：明石）

入院ベッドの入れ替えと、備品等の入替え作業手順を、事前に病棟と綿密に検討計画し、当日もスムーズにおこなうことができた。

◎全体整備計画作成（主担当：松田）

今年度整備項目（来年度5～6月工事）について、何度も検討を重ね、予算内に案を確定させることができた。

◎業務改善（主担当：酒井）

27項目の改善事例をおこなうことができた。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

◎本館改修プロジェクト（主担当：磯貝）

主に患者支援センターと整形外科の改修であるが、検討は進んでおり、来年度工事後に完了予定。

◎管理棟改修プロジェクト（主担当：北川）

主に日帰り治療室用トイレと健診更衣室改修であるが、検討は進んでおり、来年度工事後に完了予定。

◎看護小規模多機能建設プロジェクト（主担当：明石）

順調に検討は進んでいる。今後も、検討継続のため、未完了とした。

◎省エネ設備更新プロジェクト（主担当：明石）

より省エネ設備への更新ができると仮定し、設備業者へも調査を依頼し、検討を重ねたが、現在の設備を更新する以上の代案、及び補助金取得等の成果はでなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

◎田中内科クリニックの対応

田中内科クリニックについて急遽対応することになり、建物や設備更新について確認、対応をおこなった。

◎融雪用ポンプ設置

調整池の水を利用し、ポンプで簡易な融雪装置を設置した。数回使用したが、有効であった。

◎本館サイン更新（ＬＥＤ化）

本館の真生会富山病院サインの傷みが激しかったため更新し、ＬＥＤ化をおこなった。

◎防草シートの設置

除草を減らすため、防草シートを設置した。

3) どのようなことを頑張りましたか？

・主にプロジェクト中心であったが、日常の業務もおろそかにならないよう力を抜かずに取り組んだ。

・毎年のことではあるが、節約と快適性の両立ができるように夏場・冬場の節電活動に、工夫しながら取り組んだ。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

・特別なことはないが、依頼や要望等について、しっかりと話を聞き、対応や調整をおこなった。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

・プロジェクト等が続くと、日常業務への対応がおろそかになりがちであるが、漏れがないよう、スタッフ間でカバーしあい、個々の対応面の地力もついたと思う。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献

をしましたか？

・今回は、降雪量が少なくて幸いであったが、除雪等の準備や対応をおこなった。

・駐車場が広がり、外来数が増加しても許容できており、最近駐車場の苦情が少なくなっているところからも貢献できているのでは、と感じている。

・南館1・2階を加湿できるように整備したことで、全てではないが、低湿度の課題にも貢献できた。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？（どのよ

うなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

・ハード（施設等）から醸し出す清潔感や暖かい雰囲気を持続できるよう、色や素材、デザイン上の流れ、動線、空気環境等を関係者でしっかりと検討し、プロジェクトを完了できた時、病院理念にそったハードを整備できたのでは、と感じた。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・来年度も引き続きプロジェクト完了に向けて続けていく。
- ・設備の老朽化対策に力を入れる。
- ・一人ひとり役割が異なるため、上司も部下も納得のできる人事評価や面談についての研究。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

・現在エントランスの見直しをおこなっているが、ハード面でも楽しくなるような工夫(例：プロジェクションマッピング、デジタルアート)や錯視を利用したサインなど研究したい。

・地域が少子高齢化に向かう中で、ハードを扱う立場から安全上の工夫、地域から望まれる企画等を研究したい。

【物品管理課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・物品管理ソフトはその後、順調に稼働している。

→大きなトラブルは発生しなかった。

- ・品質を落とさず材料を選定を行った。

また、価格交渉に力を入れコスト削減することは順調に進んでいる。

特にビニール袋は消費量が多く、既存のメーカー以外で品質や規格を変えず価格を下げる事ができた。

- ・診療材料、医療機器などの価格交渉に力を入れ、390万円ほど値下げができた。

→診療材料委員会と共に検討を行った。

→価格はディーラー、メーカーともに強く交渉を行った。

- ・物品管理ソフトとFAXシステムを連携したことにより発注時間の短縮、

発注ミスの改善、コピー用紙の消費量が減り大幅な業務改善となった。

→システムをしっかりと検証し実行した。

- ・CS セット導入後、安定して実施している。

→導入業者、関係部署ともスムーズに調整できている。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

※目標には達成していないが、効果があがっていると考ええるもの

- ・外来、病棟の在庫量の削減がうまくいかなかった。

現場スタッフとの検討と時間が必要であり、すぐには解決できないこともあり

来年度も引続き行うこととする。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・物品管理ソフトと FAX システムを連携したことにより

発注時間の短縮、発注ミスの改善、コピー用紙の消費量が減り大幅な業務改善

となった。

- ・7 月病棟 の引越し（入替え）がありシステム内容を大きく修正する大変な作

業があった。スタッフ皆で力を出し切りやり遂げた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・診療材料、医療機器など価格交渉に力を入れることができた。

- ・問題が発生した場合でもスタッフ間や他部署と協力して解決した。

- ・問題、対策をスタッフで共有することができた。

4) 他部署との連携を図るのにどのような工夫をしましたか？

- ・事前に問題など想定し入念に打合せを行った。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・各自、業務達成感と共に責任感を強く持っている。
- ・できない不可能であると思わず少しでもできるよう前向きな気持ちで業務を遂行した。

- ・忙しい時でも現場の要望に迅速に対応できた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・少しでも無駄がないかコスト削減が出来ないか意識して業務にあたり価格交渉に力を入れ出費を抑えれた。

- ・依頼事項を迅速に対応した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・現場からの要望にしっかり応えられ喜んでもらった時。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・ 外来、病棟の在庫量の削減、実行。

2、今後の展望

- ・ 診療材料の見直し（価格、同等品の検討）、医療機器の価格交渉にさらに力を入れる。

- ・ 業務の効率化

物品管理課 田窪慎一

【保育課】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・地域枠受け入れについて情報を集める。

⇒藤木病院に視察、企業主導型の準備や運営体制について質問もできた。

- ・他部署との連携を強める。

⇒明橋医師の研修を3月に予定している。

⇒急な体調の変化時の対応を救急委員会と打ち合わせ予定。

- ・保育課内の連絡を行き届かせる。

⇒月一回会合を設けた。

- ・保育課の業務分担を明確にする。

⇒役割分担表を作成した。災害時に迅速に対応できる。

⇒防災訓練を月一回行った。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・保護者との連絡体制を強める。

⇒連絡事項を伝えたりするよりよい方法について、会合にて検討している。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・月1回の会合を設けて、議題を集めて検討するようになった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・意見交換する機会が増えた。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・子どもの急な体調変化や小児科受診時の流れを再検討し、救命救急委員会

とも連絡を取り合った。現在マニュアル作成中。

- ・不審者対応についての訓練を行い、B コールの流れを確認した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・月1回会合を設けたことで細やかな意見交換ができるようになってきた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・勤務外預かり保育の時間延長や保育の枠を設けた。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・保育士が笑顔で賑やかな雰囲気を作り、子どもたちがそれに応えて嬉しそうに

過ごしている保育時間。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・引き続き地域枠を行うための情報を集め、検討していく。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・保育業務の適正化。最近の全国的な動向を把握しながら進めていく。
- ・地域枠の検討継続。

真生会富山病院 田邊 裕

【学術推進室】

年度途中で「学術教育推進室」から「学術推進室」に変わりました。

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・教育委員会の会合を開催し、各部署の教育委員と連携して、教育・貢献・発信を通して医療の意義を学ぶことを伝える

理由：担当者が忠実に役割を果たした。

- ・『まなびいカフェ』を毎月1～2回、継続して開催する。

理由：中心となって推進する人が決まっており、その人が役割を全うした。

- ・各部署の意向をまとめ、開催時期・内容を調整してバランスのよい年間計画を作成する

理由：定期開催の教育委員会の会合の出席率が良く、

各部署の意向を漏れなく募ることができた。

- ・教育委員会の会合を開催し、各講演・セミナーの日取りや係の確認を行う。

理由：定期開催の教育委員会の会合の出席率が良く、欠席者にも情報の共有がなされるよう、委員会のメンバーが自発的に動いた。

- ・臨床研究講習会を定期的に実施する。

理由：臨床研究講習会受講のルールを定めて、院内の関連部署に周知できた。

- ・倫理審査の前に臨床研究の支援をする体制を作る。

理由：学術グループを正式に発足させ、メーリングリストで情報共有することができた。

（２）達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・マイスター制度関連の記事を院内ブログに掲載し、職員の目に触れやすいようにする

理由：年度途中で、他に優先事項が発生した。

- ・ビジネスキャリア・マイスター制度の導入準備

（部課長 ML に配信するメールの作成）

理由：年度途中で、他に優先事項が発生した。

２）年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・研究者からの要請で統計解析支援（６件）を行った。

３）どのようなことを頑張りましたか？

・学術グループの立ち上げにあたり、グループ所属員 と話し合いながら、情報共有し役割分担を行いました。

- ・幹部職員に対する教育の検討に関わった。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・学術グループが発足したことを周知するために、医局、看護部など各部署に案内を頻繁に行った。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・会合の欠席者には、出席したメンバーが内容を伝えるなど、お互いに助け合う行動が取れるようになった。

- ・メンバーから、取り組みの提案が積極的に行われるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・医学系研究を支援する組織が発足し、真生会で質の高い研究を行う素地ができた。

- ・富山県医学会の演題登録、ポスター手配、参加数報告などのサポート

- ・『まなびいカフェ』でExcel講習会を定期開催。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・『まなびいカフェ』の定期開催、すなわち自利利他の実践。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・研究倫理に対する職員の理解を向上させること。

まだまだ研究倫理に対する意識が低いように思います。

2、今後の展望

- ・全職員の学習意欲の向上を促進し、効果的に学習できる体制を整える。
- ・医療人としてやりがいを高めるための基礎をつくる。「教えることは二度学ぶこと」が職員に浸透するようにしたい。
- ・臨床研究講習会の継続実施。

基礎講習に加えて、具体的な研究計画の方法や統計についての講義も行いたい。

以上です。

吉崎達郎

【キャリア支援室】

10月組織変更により、学術教育推進室から分離する形で、新設されました。

人事制度運用チームの流れも汲んでいます。

【キャリア支援室の設置理由】（10月の文章）

職員にとって、自分が目指す職業人として成長していくためには、

中長期的な視点からのキャリア形成に取り組み、組織から求められる

役割・能力と自分自身の役割・能力を近づける必要があります。

一方、医療法人真生会にとって、地域のニーズに応え、発展していく

ためには、中長期的なビジョンに対応して、人が育つ活力ある組織

づくりが必要であり、その取り組みとして職員の自律性を生かした

キャリア支援がますます重要になってくると考えます。

1、今年度の活動の振り返り

1）年初に立てた部署目標の評価

（1）達成できた目標と、達成できた理由は？

（2）達成できなかった目標と、未達の理由は？

2）年初に立てた部署目標以外の成果は？

→年度途中で新設されたため、省略。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・ 人事制度の浸透推進（説明会の実施など）
- ・ 評価者研修の企画と運営
- ・ HIT-Bit の企画と運営
- ・ キャリアラダーの見直し推進
- ・ フレッシュセミナーの企画
- ・ 部署メンバー 8 人全員が兼任の中、月 2 回の会合を継続できたこと

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・ 色々な調整を対面で行うようにした。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

→省略

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・ 部署横断的に人材育成を考える組織（部門）の基盤をつくった。

7) この 1 年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・真生会理念を基盤とした人づくりを考えるキャリア支援室ができたこと自体。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・幹部育成計画の立案
- ・各階層（入職〇年目など）の研修の企画検討
- ・キャリアラダーを育成に使うことの検討

2、今後の展望

- ・どの職種・階層も等しく成長できる機会を提供したい。
- ・人材育成に悩む管理職の支援ができるようにしたい。
- ・人事制度の理解浸透を推進し、同時にバージョンアップも検討したい。

以上

キャリア支援室 濱名孝行

【改善推進室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

→QI プロジェクトへの参加

理由：各部署への働きかけが出来たから

→各部署と面談を行う

理由：各部署との調整がうまく行ったから

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

→くるみん認定、えるぼし認定取得

理由：くるみん認定はハードルが高かったから

えるぼし認定はデータ提出が遅れたから

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

・入院同意書の廃止

・QC サークル北陸支部富山地区が行っている『医療・福祉部門ミニ発表会』に

参加できたこと

・業務効率改善 H30 で各部署の改善を促せたこと

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・各部署と面談を行い面談の中で改善への気づきを促せたこと
- ・他業種がどのような改善を行っているかを見学を行ったこと
- ・病院機能評価の中間報告
- ・QI プロジェクトのデータのフィードバック

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・直接、担当者と話し合い調整を行った

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・省略

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・面談を行うことで改善の気づきが生まれ、働きやすい職場づくりに貢献出来た

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・面談を行う中で、日頃の仕事が当たり前で改善点を見いだせない状況から改善への気づきが生まれ改善を積極的に行ってもらえた時

8) 今年度積み残した課題は？

- ・業務の効率化
- ・全職員挙げての業務改善

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・業務改善の更なる推進
- ・Hit-Bit を通じての改善
- ・働きやすい職場を作るための取り組み

改善推進室 東慎一郎

【在宅統括室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

当院の在宅医療の機能を院内に周知する介護保険の居宅管理指導費の算定開始

訪問診療患者の適切な医学的管理

新規往診依頼のシステムの構築

外来受診患者の情報提供

在宅療養へのスムーズな移行に協力

訪問栄養食事指導の算定ができる体制の構築

栄養情報提供書を添付

調剤薬局との連携

看護小規模多機能居宅介護施設開設に向けての準備

地域での在宅緩和ケア、医療介護の研修会の積極的参加

入院患者への歯科訪問診療の流れ・体制をととのえる

院外への歯科訪問診療の体制をととのえる

ケアマネからの患者依頼が増えるようにする

診療報酬改定に対応

退院後訪問看護同行

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

他院の在宅訪問管理栄養士との連携体制の構築

訪問薬剤管理指導の算定ができる体制の構築

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

バイタルリンクの導入

3) どのようなことを頑張りましたか？

在宅統括室としての確実な歩み

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

会合での情報共有

5) 部署としてどのように成長しましたか？

2年目に入り、在宅医療の状況をより深く理解できた

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしました

か？

在宅を含めた、地域包括ケアシステムの構築に一步進んだ。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

各職種の向上を確認できた時

8) 今年度積み残した課題は？

各職種がお互いに連携を強くすること

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)
これまでの活動を継続するとともに、それを院内、院外にアピールし、また形にしたい。

【医局】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

臨床倫理の学習 2回

形成外科 年度末手術 10 件 → 局所麻酔入れると 40 件/月あり。

腎透析センター 稼働率 80%→max 100%達成 宣伝効果も絶大で開設当初から大きな反響があった。

ベテラン医師の再教育 12 回→達成 朝の研修医講義とあわせて行った。参加数に課題あり。

若手が集まる病院づくり→提案新規プラン 若手から毎月 1－2 件の提案があった。改善に結びついた。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

ACP の学習と実践 4 回 →2 回のみ ACP がまだ浸透していない。

健康増進科の開設 →病院の改修のプランが変更になった。

糖尿病センター 収益 110%→102% 指導件数は大きく伸びている。目標の設定は指導などの件数がよかった。

医師看護師のコミュニケーションの場 特に差し迫った必要性がなかったこと
もあり。適宜、情報交換はしていた。

臨床試験のためのデータ管理→抽出システムの構築 全く進まなかった。

体力維持のための行事→開催できず。予定があわず実施できなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

健診センターの方針が明確になった。

消化器内科により田中内科クリニックを9月から運営開始した。

JMIP を取得の後に、海外がらみの事例が増加した。外部からの注目度が高まった。英会話のレクチャーを夏山さんに開始してもらった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

各科医師の勤務調整、関係調整、働きやすい環境整備

医師の教育の実践

田中内科クリニックの運営

健診科のシステム更新

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

各科カンファレンスを機能させる。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

現在をマネジメントしているところから、将来（若手）への投資可能な病院へ段階が移った。センター化を行った科は、医療の質が確実に向上している。

新設の形成外科科も成長著しい。対応可能な疾患が増加している。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

24 時間救急対応をして地域住民、患者へ安心を与えている。

対応可能な疾患が、ほぼ産婦人科以外すべてとなり地域住民、患者へ安心を与えている。医師不足やシステム職員負担になることは、かなり減っている。

他部署へは協調性を高めて、多職種共同で医療に取り組む。外国人患者へ安心感を与えている。

7) この 1 年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

医師の力（医療の質ならびに援助）を高めることで、多くの患者に支持された。

多職種で共同作業で、患者のケアにあたった。

8) 今年度積み残した課題は？

整形外科医不足

医師の働き方（特に当直明け、長時間労働、死亡確認）

ACP、倫理課題

臨床研究の推進のための環境整備

外来の効率化の課題

2、今後の展望

（例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等）

ベテランの再教育、体力向上 ベテラン医師の雇用と環境

若手、女性医師の働き方の見直し 女性医師が働きやすい職場

整形外科のサポート体制 どの病院も整形外科医師不足、整形外科医を補う
体制作り

健診科のシステム刷新 シンプルなシステムづくり

外国語対応能力の向上

外来機能のシステムの単純化、ITを使った各科到着確認。

【呼吸器・循環器科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

研究会参加目標12回のところ、26回達成できました。院外の研究会に参加して自分たちの診療レベルを客観的に評価することと、実践できる情報を取得するという強い動悸があり、達成できました。学んだことを記録保存し、いつでも利用できるようにしました。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

10%の収益増は達成できませんでした。呼吸器・循環器科としての入院数が伸びなかったことが原因です。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

他病院の先生と情報交換できました

3) どのようなことを頑張りましたか？

最先端の医療はできなくとも、大規模病院では、どのようなことがなされているのか勉強できました。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

院内レクチャーは検査科に出向いて行いました。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

情報発信できる力がついたと思います。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

適切な医療機関にスムーズに紹介できました

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

患者本人と家族が満足して退院してゆかれたときです。

8) 今年度積み残した課題は？

紹介患者の数がまだ少ないこと

2、今後の展望

重症患者の治療技術をさらに向上させること

栄養学の勉強

臨床研究

吉田良昌 yyoshida@shinseikai.or.jp

【血液内科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

学会報告 2 件、地方会ならびに総会で発表

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

ホームページに 6 記事を記載 2 記事にとどまる。

論文作成は、いまだできておらず。年度末までに行う。

安心できる説明、治療計画 20 名ー血液疾患

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

血液疾患の 2 名が在宅へ移行した。1 名は看取りとなった。在宅の可能性が広がった。新教授が就任後に富山大学に 2 名紹介した。(1 名は死亡となった。)

厚生連高岡病院に 2 名紹介となった。1 名は患者の希望で、もう一名は放射線治療のため病病連携が活発になった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

急性白血病の患者は完全寛解となった。

AYA 世代のリンパ腫の患者を治療した。

他多数の患者が紹介された。(16 名以上の新患)

希少疾患の診断ができた。(NK/T nasal lymphoma, systemic amyloidosis など)

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

さくら病棟、日帰り治療室との連携にて、疾患について理解を図る必要があった。

日帰り治療室では、勉強会を月一回で持った。(4回開催)

5) 部署としてどのように成長しましたか？

これまで血液内科医一人で活動したが、若手が学会発表をした。

6) 顧客(患者、職員、他部署、病院、地域等)に、どのような貢献をしましたか？

紹介患者が増加した。また眼科からのブドウ膜炎の紹介が増加した。

開業医、近隣の病院からの紹介が増加した。

射水市民病院から血液疾患の患者が多数紹介された。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

どのような困難な疾患であれマネジメントできる診療の質の高さ

8) 今年度積み残した課題は？

病棟での看護師との疾患の教育

放射線治療を行う場合に適切なパートナーとなる病院がない。(結局、厚生連になる。)

2、今後の展望

希少疾患ではあるが、確実に血液疾患はある。

射水市で唯一の血液疾患のある病院となった。厚生連よりも症例を多く扱うようになる可能性はある。富山大学病院とは、難治症例を紹介するために重要な連携先である。患者の不利益になったり、不満足につながらないように紹介の時期を見極める必要がある。

【心療内科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・必要な検査、画像検査の実施－目標125％に対して、実績149％
- ・理由：南館に移動し、検査のオーダーが出しやすくなった。

担当医の意識も高まった。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・カウンセリングの充実－目標110％に対して、実績97％

理由：理由は不明。部署で検討してゆく。

- ・収益の増加－目標前年度比125％に対して、99％

理由：院外処方にシフトしたことによる、薬剤料の減少

：多剤投与による減算

- ・多剤投与の削減：十分実施できなかった。

理由：患者の抵抗、病状の悪化など。また十分説明の時間を取れなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・南館引っ越しによる、患者サービスの向上、待合室の改善

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・HSCの啓発（この一年で、かなり日本に浸透してきた）
- ・緩和ケアへの協力

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・緩和ケアチームと定期的なカンファレンスの機会を持った。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・臨床を行いながら、各自が研鑽を積み、結果として臨床技術が向上した。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・外来診療だけでなく、リエゾンや緩和ケア、職員のメンタルヘルスなど、
病院全体のメンタルヘルスの向上に貢献している。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・患者が、「この病院に来てよかった」と言われた時。
- ・わかりやすい説明、丁寧な対応に心がけ、患者の苦しみの共感につとめた。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・多剤投与の減算への対応

- ・収益の向上

2、今後の展望

- ・常勤医1名でカバーできる診療の量としては、ほぼマックスに近づいているため、効率性を上げることを考える。

- ・HSC、HSPについて、さらなる啓発に尽力してゆく。

以上

心療内科 明橋大二

【小児科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

・小児救急シミュレーション

理由：それぞれが各自の役割を全うした。

・子どもの心相談医の認定取得

理由：講習会の開催のあわせて休診にすることができた。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

・児童虐待の早期発見：勉強会の開催（年2回）

理由：資料作成は進んでいたが、時間を要したため、

開催に至らなかった。3月に1回開催予定。

・自費の任意接種ワクチンに特典をつける

理由：特典をベビーマッサージ券1回分で検討中。

・知能検査（WISC-IV）毎月2回

理由：設定ミス。毎月2回は毎月、新患2名以上が

必要条件であり、現在の診療体制では難しい。

- ・呼気 NO 測定, Immuno CAP（食物系、吸入系）,

皮膚プリックテスト、イムノキャップラピッド

理由：販売会社がアレルゲンエキスを自主回収した。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・救急シミュレーション後の課題であった救急カートの設置が完了。救急薬剤の

運用方法が決まり、効率よく管理できるようになった。

- ・処置室レイアウトの変更により、清潔エリアの確立を図れた。

- ・呼気ガス検査機器の設置場所を変更し、他科患者の検査もスムーズに行え、小

児患児との分離が可能となった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・子どもの心診療の拡充（カウンセリング加算の算定数の増加）

- ・「コレイイ」システムを定着させるため、口頭で保護者に案内し、マニュアル

を作成して真生会HP上に公開した。

- ・小児特有の検査（早朝尿検査）の検査案内用紙を作成し、速やかに検査が行え

るようにした。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・迅速検体検査を検査課へ依頼することで、診療介助、処置等の業務に専念する

ことができた。

- ・歯科医師、射水市家庭教育アドバイザーと共に、

「あいうべ体操」の情報共有や地域への周知に取り組んだ。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・小児科スタッフ（リリーフ含め）が増えたことにより、知識・技術の拡大や他部署との情報共有ができた。

- ・スタッフが増えたことにより、昼診療の拡大に対応することができ、予防接種対応もスムーズに行えるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・ベビーマッサージの継続により、子育て中の母親との交流を図った。

- ・他院休診時間帯（木曜日の昼）に一般診療を行うようにした。。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・看護研究に取り組むにあたり、自分達も検査データや主訴を意識する関わりを持つようになり、患児や保護者の疑問や不安に寄り添い、アドバイスや支援などを行うことが出来た時

8) 今年度積み残した課題は？

- ・小児在宅医療の開始。
- ・増収増益の診療体制の構築。

2、今後の展望

- ・子どもの心診療のさらなる拡大。
- ・小児科スタッフに限らず、院内のスタッフに虐待対応についての勉強会を行う。
- ・ベビーマッサージの無料特典を定着させ、新規予防接種数を増やしていく。
- ・院外に出た子育て支援。

以上です。

吉崎達郎

【救急室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

院内症例検討会を毎週行ったこと

消防署でのレクチャー2回

院内講習会を毎月行ったこと

達成できた理由としては、救急医療に対するモチベーションの高さ、
消防署へのアピールの必要性を感じたからです

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

研究会、学会参加

発表内容がなく、今年度は不参加となりました。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

救命救急委員会を通して、部署を越えての職員の絆が深まりました

講習会、親睦会など、頻繁に行い、かなり仲が良いと思います

消防署長や救急隊員と親しくなれました

3) どのようなことを頑張りましたか？

救急室であわてず、的確な医療を実践できることを目標にトレーニングをしました。消防署でのレクチャーを通して、当院への信頼をますことができました。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

職員全てを対象として講習会を掲載したので、連携は自ずと深まりました。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

救急室スタッフはプレゼンテーション力をつけたと思います。

その力が自分の臨床能力の向上になっていると思います。

救急症例には、スタッフが中心になって対応できるようになりました

自分たちが救急医療を先導するという自覚が生まれています

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

救急室での対応が向上しました。

着実に救急搬送件数が増えています。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

コードブルーでは、皆積極的に集合し、力をあわせて対応しました。

職員の和ができていると感じます。

8) 今年度積み残した課題は？

スタッフ間での症例検討会

2、今後の展望

全国規模の学会、研究会で発表すること

[吉田良昌 yyoshida@shinseikai.or.jp](mailto:yyoshida@shinseikai.or.jp)

【在宅医療】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

24時間往診を積極的に行う。 緊急往診数 年間10件→28件

在宅での看取りを積極的に行う。 在宅看取り数 年間4件→12件

訪問診療、往診数 毎月200件→平均207件（前年214件）

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

なし

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

居宅療養管理指導算定の開始

3) どのようなことを頑張りましたか？

体制の整備

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

他部署の事情を考えること

5) 部署としてどのように成長しましたか？

新しい取り組みになれてきた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

安心して在宅医療を受けて頂く手助けをした。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

いろいろな往診要請にこたえられた時

8) 今年度積み残した課題は？

医師の速やかなカルテ記載

2、今後の展望

（例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等）

居宅療養管理指導の件数増加

在総診を算定している患者の率増加

【耳鼻科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

達成できた目標：

- ・ 1 つ以外は全て達成できた。

達成できた理由：

- ・ 各目標の担当者が目標の進捗状況を年度途中で確認し、遅れがあれば

実行スケジュールを調整した。

- ・ 目標に関係するスタッフが目標を明確に意識し努力した。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

達成できなかった目標：

聴力検査の方法を ST が看護師に教える取り組みが達成できなかった。

未達の理由：

教育側と受講側と、双方の時間調整が難しかったため。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・ 音場検査の整備だけにとどまらず、日常診療で稼働させることができた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

新たに始まった検査にもスタッフが習熟し、診療レベルが上がった。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

聴力検査を検査科と協力して行えるよう、患者やデータの流れを

詳細に打ち合わせた。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

外来エリアの改修に伴い、新たな検査機器を導入し、診療レベルが向上した。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・外来待ち時間を正確にお知らせし、患者から感謝の言葉をもらった。
- ・聴力検査の見方を詳しく説明するように改善した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・今まで不十分であっためまい診療、補聴器診療の分野において、新たな検査機器を導入すると共に、その分野の知識やスキルを関係スタッフが向上させたことで疾患自体の治癒率が改善したり、適切に治療の評価をできるようになった。

・検査、処置、治療の流れが、より複雑化したが、スタッフの知識やスキルの向上によって円滑な外来診療が実現できた。

8) 今年度積み残した課題は？

ST 以外が聴力検査を行えるよう検査法を習得する。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

・H30年度の取り組みを踏襲しつつ、補聴器による聴覚リハビリを導入する体制を作っていく。

・睡眠検査を企業にアピールし、社会貢献+患者の増加をはかる。

真鍋恭弘

E-mail: manabe@shinseikai.or.jp

qzv03467@icloud.com

【外科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

学会発表2件

病診連携毎回発表

射水市医師会学術大会

是非行いたいという強い気持ちと対外的な責任感のため

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

手術主義向上カンファレンス

A C P の導入

クリニカルパスの作成

外来小勉強会の開催

病棟小勉強会の開催

小倉医師の加入で、診療体制が大きく変化したため

新電子カルテ導入作業が、非常に負担であったため

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

小倉医師が入院患者を積極的に担当し、外科手術治療のカバーできる範囲が広がった。腹膜炎・敗血症の重症患者でも治療ができるようになった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

無理をせず安全な医療を届けることに重点を置きました。

非常に重症な患者を救命できた。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

内科や消化器内科とのカンファレンスの充実

病棟でのカンファレンスの充実

5) 部署としてどのように成長しましたか？

若い外科医の参入により、チームワークがアップしました。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

他科からのポート増設依頼など、積極的に行いました。

整形外科の診療を全面的にサポートしました。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

手術後の患者さんが外来に来られ、元気になられた姿を見た瞬間です。

安全な手術を大切にしてきました。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

クリニカルパスを完成させ、外科医3人が同じ治療を行うこと

小倉先生に、更なる活躍を期待し、手術手技を研鑽して行きます。

【整形外科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

・学習と成長

手術件数の増加⇒年間 354 件と昨年を上回った。肩の手術も 180 件を超えた。

学会発表 6 件、論文掲載 2 編

データ処理に、クラークの支援があった。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

・学習と成長 英文論文 → 達成できていない。 計画が不十分であった。

まず論文の内容と質を高める必要があった。来年度に向け進行中である。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

業務改善で以下の成果を上げることができた。

・注射の予約を開始したことで、過度な患者集中を防げた。

・水曜の非常勤、植田医師の参画により、午前外来の待ち時間短縮、専門性、患者振り分けがスムーズになった。午後の肩手術の助手に入ることで手術の精度が向上した。

- ・小野地医師の整形外科入院患者の内科的サポートがなされた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・外来患者増、手術増が続いたが、スタッフ一丸で乗り切った。

- ・外来での関節リウマチ、自己注射の推進など積極的に勉強会を行った。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・その都度相談した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・待ち時間対策、患者のスムーズな流れをつくった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・射水医師会共催の市民公開講座を行った。今年で3年連続。

- ・リウマチを考える会、の勉強会を大江コミュニティーセンターで、調剤薬局の薬剤師も含め2回行った。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

- ・患者から感謝の言葉があった。

- ・患者さんが独自に市民講座をDVD化して贈呈してくださった、外来で回覧。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・ 外来患者の予約制および専門外来の推進
- ・ 整形外科 Dr の人材確保、入院患者の内科サポート体制。

2、今後の展望

・ 真生会の看板となれるような実績、知名度をあげ、遠方、他県からも患者が集まるところとしたい。

・ 肩関節、関節リウマチ、人工関節手術での更なる研鑽を行い、レベル up を行う。

整形外科 太田 悟

【皮膚科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・看護部職員を対象として勉強会の開催（達成率 150%）

〔理由〕 毎月の予定に組み込んだため。

- ・看護師による爪切り、スキンケア指導（達成率 100%）

〔理由〕 医師がうながしたため。

- ・分かりやすく書きやすい問診票の作成（達成率 100%）

〔理由〕 推進担当者が自覚をもって作成した。

- ・イオン導入後の患者さんの水分量 10%アップ（達成率 100%）

〔理由〕 ゼリーをたっぷりつけたため。

- ・ケアマネ・訪問看護師・ヘルパーとの情報共有。処置や介護方法のアドバイス

（達成率 100%）

〔理由〕 外来患者さんの往診移行時には、ケアマネ、訪問看護に連絡することにした。訪問看護が入っている患者さんが外来受診された場合、受診時の状況を訪問看護に報告することにした。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

・業務手順の見直しと作成（達成率 60%）

〔理由〕推進担当の自覚が乏しかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

乾癬、アトピー性皮膚炎、じんましん、腋窩多汗症の注射の症例が増えた。

注射が数種類あり、発注ミスを起こさないよう、表を作成して管理した。

3) どのようなことを頑張りましたか？

イオン・超音波導入の患者さんが増えたため、月1回土曜日に専門外来を設けた。看護師も施行できるように練習した。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

併科のある患者さんは、他科の診察状況を見て、連絡を取りながら案内した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

忙しい中、少ない人数でやっていけるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

医師が増えて、患者さんの待ち時間が減った。

手術の予約が入りやすくなった。

今まで他院に紹介していた難しい手術も、当院でできるようになった。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

対人援助の実習により、患者さんの言葉を反復できるようになった。

色々な個性の人に対応できるようになった。

8) 今年度積み残した課題は？

看護師が医師の診察にあまり付けなかった。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、

伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・もっとコスト意識を持ちたい。

- ・患者さんの状況に応じた、食べ物、洗剤、衣類など、こまめな生活指導をした
い。

以上です。

【泌尿器科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

富山大学への紹介、連携で、低侵襲治療への紹介を増やし、理解を深めるため、勉強会などに参加した。富山大学との連携を強化することが出来た。

どのような治療を行っているかをしっかり把握した上で、紹介をするようにした。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

学会参加。勉強会の開催。

学会参加が、年2回ほどしかできなかった。(毎月1回の目標)

患者説明用のパンフレットを、尿路結石について更新したが、他には出来ていない。土曜日の学会参加となると、土曜休診が必要にあることが多く、積極的に参加できていない。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

一部の症例については、患者の話を丁寧に聞き、食生活、運動習慣、睡眠、ストレスなどをじっくりと効いた上での診療を心がけている。ある程度効果を感じている。

新しい機器である尿流量測定による検査が大幅に増えた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

薬に頼らない、疾病の予防、治療、生活指導。

対人援助技術を使った、傾聴。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

自己導尿カテーテルの説明会を、他部署も含めて行った。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

スタッフが自主的にいろいろなことに感心を持ち、

問題点を指摘し、改善の道筋を考え、実行していけるようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

診療の問題点を考え、改善の手段、方法を考え、実践し、患者満足に貢献出来たと思われる。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

上記診療に心がけることにより、患者自身が、心身の不調の原因に気づき、それを改善していこうという前向きな姿勢の変わって来た時、とてもうれしく思いました。

8) 今年度積み残した課題は？

学会参加、発表が殆どできていない。情報発信をいろんな手段でもっとしていきたい。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、

伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

日進月歩の医療の流れをしっかりと勉強し、学びだけではなく、積極的に情報発信をしていきたい。学会参加、学会発表を具体的に考え、実行する。

他の医療施設との連携強化のための方策。(具体的には決まっていません)

院内他部署との連携がほとんど取れていないので、その方策を模索する。

泌尿器科疾患と、生活習慣病との関連を、他部署にアピール。

【麻酔科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

・学習と成長 専門知識と技術の向上 学会参加 → 麻酔科学会参加、集中治療医学会参加予定。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

・学習と成長 専門知識と技術の向上 月に一本英語の論文を読む

→ 達成できていない。 計画が不十分であった。

・業務プロセス・医療の質 術後の回診を充実させる 回診の回数を増やす

→ 最低一回はできているが、それ以上はできてない症例が多い。計画的に行う必要。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

業務改善で以下の成果を上げることができた。

・月曜日、水曜日の夕方の外来をやめ、金曜日の夕方外来を行うようにした。

その結果、予約患者の予約変更が減った。

・主たる吸入麻酔薬をセボフルランからスープレンに変えた結果、覚醒が早くなり手術室の効率的運用に貢献できたと考える。

- ・横山豊明先生の麻酔科標榜医資格が取得できた。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・手術枠の増加にともなって、確実に麻酔が行えるようにした。

- ・できるだけ緊急手術を受け入れるようにした。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・その都度相談した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・全麻件数および麻酔管理料算定件数を増やすことができた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・全身麻酔一件に必ず麻酔担当医がつくようにして、手術室看護師の負担軽減、

患者へは安全な麻酔を提供できた。

- ・7：1 看護維持のために手術患者の受け入れに貢献できたと考えています。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・患者が元気に退院された時。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・ 麻酔担当医の間での症例検討。勉強会。
- ・ 英語文献からの情報収集。

2、今後の展望

- ・ 基礎医学に基づいた臨床医学の実践。
- ・ エコーガイド下神経ブロックの導入。

麻酔科 濱田富美男

【中央手術室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

経営・業績 手術予約枠を見直し、予定手術以外の手術を効率よく行い手術件数の増加に繋げる

→麻酔科や各科の協力のもと、並列での全身麻酔を行える曜日が増え、前年度は1ヶ月のみであった

70件以上/月が5ヶ月あり(2/28現在)、全麻件数も増加した。

新電子カルテ導入に伴う手術看護記録の見直し

→記録部会員の頑張りがあり、順調に進んでいる。

ディスプレイ製品の価格の見直し

→業者や物品管理課と協力し、キルシュナーワイヤーやスキンマーカ―、皮下ドレーンなどを安価なものへ変更した。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

各科手術、麻酔に対する知識や技術力の向上

→月一回以上の勉強会を目標としたが、手術件数の増加が影響し、できなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・空き枠が出来ないよう、積極的に各科医師とコミュニケーションを図り手術を入れることができた。

- ・管理業務の一部をリーダー、サブリーダーに委譲したことで、2名のリーダーシップが向上した。

- ・手術件数の増加により、スタッフ間の協力意識が高まった。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・手術枠が増加し手術件数も増加したが、現有スタッフで大きなインシデントもなく乗り切った。

- ・医師の緊急手術の要望を時間内外問わず受け入れ対応した。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・何度も確認の連絡を取った。

- ・各部署における責任者に何度も相談した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・手術件数が大幅に増加した。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・スタッフの人員調整をこまめに行うことで、安全な手術室看護を提供できた。
- ・7：1 看護維持のために手術患者の受け入れに貢献できた。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・患者が合併症なく、しっかり覚醒して帰室した時。
- ・スタッフが笑顔で帰宅した時。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・医師も交えた症例勉強会や病棟カンファレンスなどの参加。
- ・定例カンファレンスの開催
- ・手術室の倉庫、害虫問題

2、今後の展望

- ・新電子カルテの稼働
- ・各科消耗品の見直しや在庫整理や安価なメーカーの開拓、オペラマスタに変わるシステムの構築等、経費削減の強化

中央手術室 長谷益克

【日帰り治療室】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

達成できた目標：

- ・患者カンファの定期的開催 24 回

(外科カンファレンス・デスカンファレンス・血内カンファレンス)

→患者ファーストの実践の結果。

★7月からは血内カンファレンス、12月から緩和ケアカンファレンスを

毎月行うようになった。

★カンファレンスにより

患者の怒りを苦しみの現れと捉えることができ、冷静な対応ができるようになった。

★様々なカンファレンスを合わせて 30 回開催している。

- ・ACP の学習と実践→緩和ケアとの共同で推進。

日帰り業務との兼ね合いで、時間を合わせるのがむずかしかった。しかし、主治医による患者紹介をしてもらい個別の情報共有は出来たと考慮する。

★抗癌剤の蓄積による倦怠感とクーラーの無い生活による

強度脱水症状により抗癌剤の継続が困難と判断され、抗癌剤の中止や代理決定

者などを検討した ACP の実践がある。2018.8.16 ID:91781

- ・ケモセーフの常用体制の確立

- ・院内勉強会講習会の開催

★2018.6 月ベクティビックス勉強会

7 月トレアキシン勉強会

9 月皮膚障害勉強会 （院外）武田製薬

10 月エンタイビオ勉強会

11 月ガザイバ勉強会

2019.1 月オブジーボ勉強会

2 月キイトルーダ勉強会

スタッフ間での最新情報共有は密にできた。

達成できた理由：

- ・受け入れ件数減少があるが、質的に向上できた。

- ・トイレの危険性が 2 年にわたるが、改装の目通しが立った。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

達成できなかった目標： 病棟連携

・受け入れ件数 の減少

今回の減少は、生物学的製剤の自己注射導入の増加など構造的変化の影響が大きい。

・病棟との連携→病棟の退院後の日帰り治療予定患者の退院カンファの出席

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

3) どのようなことを頑張りましたか？

新規レジメンの導入 ★血液内科 5 レジメン 外科 2 レジメン

生物製剤 エンタイビオ

病棟スタッフとの協働 ★あやめ病棟とレジメンカンファレンスを 2 回行う。

あやめ病棟の化学療法の応援をする。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

病棟での退院カンファへの出席

(退院カンファレンスに 年 3 例程度 参加：炭谷看護師 佐崎看護師)

5) 部署としてどのように成長しましたか？

あらたなレジメンの導入

レジメンを記載おねがいでできますか？

★CyBorD・CAD・トリセノックス・イストダックス・GDP-R

(血内) ★IRIS+Beva・ロンサーフ+beva (外科)

対人援助論を習得したメンバーがACPや意思決定に於ける支援はだれかありますか？

★抗癌剤の蓄積による倦怠感とクーラーの無い生活による

強度脱水症状により抗癌剤の継続が困難と判断され、

抗癌剤の中止や代理決定者などを検討したACPの実践がある。

2018.8.16 ID:91781

6) 顧客(患者、職員、他部署、病院、地域等)に、どのような貢献をしましたか？

- ・レジメンの勉強会することにより、職員の知識、技術の向上に貢献できた。
- ・あやめ病棟における化学療法患者の受け入れの支援講義の開催。
- ・内科病棟化学療法患者の業務改善(ポート穿刺指導)に貢献

6) 今年度積み残した課題は？

- ・病棟業務と日帰り治療室の業務を考慮したあたらな連携の構築

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

・緩和ケア内科と連携して、患者や家族の援助的コミュニケーションにつとめて、揺れ動く想いを続けて聴いて、治療法の変更、中止などの意思決定支援を行い、ベストの化学療法が推進できた実感できた時。

8) 今年度積み残した課題は？

・化学療法治療の変化(自己注射製剤や内服薬)など生物学的製剤の変化による件数の減少がある。

今後質をいかにあげるか？

・今後もあらたな治療にすみやかな対応ができるように定期的な勉強会の推進をしてゆく。

2、今後の展望

発展めまぐるしい悪性腫瘍や自己免疫疾患の治療にたいして、主治医チーム(担当看護師を含む)と連携体制をベストのものを構築する。

病棟との連携推進

★終末期患者における症状緩和化学療法と在宅療養を合わせた支援

日帰り治療室 平名浩史

【緩和ケア内科】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

達成できた目標： すべて達成できた

- ・緩和ケア認定看護師の業務負担軽減→医療秘書課、ケアメイトの協力
- ・ACP の学習と実践→医局での講義、緩和ケア医の患者 50%以上実施

倫理委員会と共同で、ACP 内容のカルテ記載方法を決め案内した

初期からの介入→がん患者指導イ 目標70件(1月で87件達成)

緩和ケア診療加算導入→5月から病棟と外来で算定開始

地域への緩和ケア啓発活動→長久認定看護師 6回

達成できた理由：

- ・緩和ケア診療加算導入に伴い、他職種でのカンファレンスや対話の

機会が増えたことが、さまざまな取り組みを実現できた大きな要因。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

達成できなかった目標： なし

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・緩和ケア委員会の活動として、全職員対象の緩和ケア研修を7講座
(のべ14回) 企画し実施した。約200名(のべ人数)が参加した。

3) どのようなことを頑張りましたか？

緩和ケア加算を導入したため、緩和ケアチームで毎日回診を行った。

術前からの介入も増え、早期からの緩和ケアが実践できた。

また、病棟スタッフとの協働の機会が増えた。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

病棟回診時に病棟スタッフとの情報共有の機会を設けたり、退院支援を
通して協働する機会が多かった。

(退院カンファレンスに月6例程度参加：長久看護師)

特に終末期の在宅療養支援においては医師、看護師、薬剤師の連携で、
腹水穿刺や在宅でのPCAポンプ導入など、早い対応ができ、症状緩和や
本人・家族の援助ができ、在宅療養の継続や在宅看取りに貢献した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

オピオイドの選択肢が増えたことや硬膜外ブロックの採用により、
症状緩和の技術が向上した・また、対人援助論を習得したメンバーが
ACP や意思決定支援において貢献できた。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・緩和ケア研修を開催することにより、職員の知識、技術の向上を計った。
- ・地域住民への講演活動を行うことにより、緩和ケアや在宅療養についての

周知ができた。緩和ケア研修は、セカンドホームほのかの職員も参加。

- ・各地域の訪問看護ステーション、ヘルパーとも連携し、多数の在宅復帰、在宅看取りを実現した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・患者や家族の揺れ動く想いを続けて聴いて、治療法・栄養法・療養場所の選択等の意思決定支援を行い、在宅療養を支え、病院の総合力・チームの力で援助が実現できたと実感できた時。

8) 今年度積み残した課題は？

緩和ケア診療加算を開始したが、加算に見合った支援やケアができているのか、また主治医チームとの連携・協働体制をどう実現していくのか。

緩和ケア医の診療負担の軽減

がん診療担当医の緩和ケア研修会（PIECE 研修）の参加推奨

2、今後の展望

サービス付き高齢者住宅等での在宅緩和ケアの支援

血液悪性腫瘍患者、重症心不全患者、肺癌患者の在宅緩和ケアの支援

主治医チーム（担当看護師を含む）と緩和ケアチームの連携体制を見直し

（主治医チームが緩和ケアの力を発揮できるサポート体制）

対人援助の専門職としての学習・実践・育成の体制づくり

緩和ケア内科 河相 覚

【健康増進科】

1、今年度の活動の振り返り

健康増進科は、平成30年度は準備期間でした。トレーニング機器の選定は終了しました。

2、今後の展望

令和元年度に、機器搬入、職員対象の健康増進センター稼働の予定です。

【アイセンター】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・フル稼働に向けて、計画的に準備を行っていく。
- ・手術枠の見直し⇒月曜午前に2枠、月曜祝日に4枠手術枠を設けた。
- ・外来枠の見直し⇒常勤が2名増えた。
- ・手術室・外来の看護師を統括⇒来年度から看護部体制が変わり、外来・手術室が同部署となった。
- ・手術件数の増加⇒まだ正確な数字は出ていないが、増加。
- ・常勤医師毎の医師予約枠の作成 ⇒植田、橋本Drの予約枠を作成した。
- ・紹介数の増加
- ・数はまだ把握できていないが増加。

信頼される治療実績と、高森副主任の開業医訪問も要因と思われる。

- ・後期研修医の育成
- ・後期研修医2名、中国からの留学生1名を受け入れ、手術手技の上達が出来た。

不定期となったが、週に1回の勉強会も始めた。

- ・臨床研究を行うための基礎作り

- ・毎月はできなかったが、視能訓練士と医師の臨床研究会合を継続できた。

- ・論文、学会発表も行えた。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・フル稼働に向けて、計画的に準備を行っていく。

- ・非常勤医師のフル稼働 ⇒ 患者の希望、非常勤医師の診療できる疾患のこともあり、変化をおこせなかった。

- ・患者のフォローアップ体制をつくる ⇒ スタッフの負担増加の要因ともなり、断念。

- ・逆紹介数の増加

- ・数を把握できていないが、行動をおこせなかった。

- ・非常勤医師の育成

- ・勉強会の参加を促せず、MLでの情報還元もできなかった。非常勤医師は年配の方が多く、失礼にあたり気が引けるのも要因。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・常勤医の増加は大きな成果と考える。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・後期研修医、視能訓練士、看護師など、新たな人が入ったため、その育成を頑張った。

- ・「common diseases を確実に治療することにおいて北陸1番となる」という使命を果たすため、手術の方法、器具などを改善し、よりよい治療が行えるよう頑張った。

- ・緊急で入院、治療が必要な患者を、一人も断らず、受け入れることができた。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・連携については余り行えなかった。

特にわかば病棟との連携は必要と考え、取り組んでいきたい。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・眼科的知識の向上、新たな検査・手術機器への対応などにより、よりよい診療が行えるようになった。

- ・あやめ病棟の眼科以外の疾患への対応力が高まった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・緊急患者、紹介患者も全例断らずに、最後の砦の役割を果たしている。
- ・地域の人、また他県の人から頼られるアイセンターになれていると思われる。
- ・病院には経営で貢献できていると思われる。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・地域の人、近隣の医師から頼られる存在、というのがアイセンタースタッフのプライドの一つである。そのため、緊急入院、手術などはスタッフの負担は大きいですが、患者さんが治り喜ばれる姿を見ることが、頑張ってよかったという笑顔になると思う。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・待ち時間は依然として大きな課題である。
- ・多くの非常勤 Dr が勤務しており、特に外来診療は頼っているところがあるが、そのレベルには差があり、非常勤 Dr も含めたフル稼働、さらなるレベルアップが必要。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

外来、手術室ともに、設備をフル活用できていない。

患者の需要はあると思われ、スタッフの適切な配置、必要があれば増加、

一人一人のスタッフの成長により、Common disease を確実に治す上で北陸で1

番の病院を目指したい。

以上。

植田芳樹

【健診センター】

1.今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・収益5%増-オプションの新設 年3件

健康年齢、コロジック、ロックスインデックスの立ち上げ完了

収益5%は達成見込み

- ・接遇向上-言葉の教室参加 年2回以上/1人

達成見込み（あと2名未受講）

- ・残業を減らす-業務改善（案内の効率化）

案内地図が完成。検査場所への案内が大幅に削減された

- ・手順遵守-手順確認 12回/年

達成見込み（3回終了。あと9回実施予定）

- ・個人の年間目標・テーマを決める

-研修参加 年2回以上/1人 達成

-発表・発信 年1回以上/正職員1人

冬季（2～3月）に全員予定している。達成見込み

達成できた理由-目標達成を意識して取り組んだため。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・なし

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・特定・がん検診受診者への結果説明と結果渡しを、射水市の了解

を得て原則郵送、要精査者のみ来院と大きく運用を変えたことで、

窓口対応が激減し、医師の負担も軽減された。

来院の手間もなくなり、受診者満足にもつながった。

- ・自費健診の運用変更、料金やコース設定の簡略化を行い、

予約ミス防止や予約時間短縮につながった。

- ・心電図検査を一部健診センターで行うようにした。

- ・内視鏡室の協力を得て、1日10枠の仮押さえが実現した。

- ・院内アルバイトを募集し、継続的に業務を依頼している。

- ・職員健診の受付の簡略化、結果説明の廃止

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・常に無駄がないか、改善できないかを全員が考え、即実行した。

- ・非常勤医のために、手順マニュアルを作成した。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・他部署の意見や状況も考慮し、要望を伝えるばかりでなく、

相手に譲る、妥協点を探るようにもした。

- ・他部署スタッフとコミュニケーションを取るようにした。

例：30周年行事などに参加し、仕事以外の会話を心掛けた。

- ・検査時間の調整等、こまめに連絡を取り合った。

- ・職員健診で、勤務の合間にしか受けられない部署の都合を考慮し、

可能な限り対処した。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・一人ひとりが仕事内容をよく理解し、自信を持って業務に取り組み

レベルアップした結果、必要なこと・削減できることを選り分けられるようになってきた。

- ・日常的に業務改善の提案が上がり、積極的に行動するようになった。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・受診者、職員の健康管理に寄与している。

・健診で要精査になった人が、当院の外来を受けられることが多く、患者増に寄与している。

- ・医師の事務的な業務やクラークをすることで、医師の余力を作り、病院全体の収益性アップに貢献した。

- ・市の特定健診、がん検診を数多く担っている。結果説明を原則郵送にし、受診者の来院の負担を削減した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

- ・射水市と交渉し、市の健診の結果説明を原則郵送可能にしたことは、多くの受診者の意見、不満を聞いたための取り組みであったが結果的に業務の激減にもつながり、受診者、健診科双方にとって大きなメリットとなった。

- ・当院でできない検査を断る際に、できる病院を調べて情報を渡したところ、行き場がなく困っていた受診者にとっても感謝された。何かお役に立てないかという視点で、行動したことが良かった。

- ・認知症の疑いのある受診者を発見し、包括支援センターの協力のもと、受診につなげることができた。与えられた仕事をこなすだけでなく、相手や地域にとって何が良いかを考えた結果であった。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・新システムの検討
- ・エコー枠の増設
- ・エコーに代わる CT の推進検討
- ・人員不足（現在求人中）

2. 今後の展望

2020 年度より、新たなシステムを導入、ネット予約を展開する。

【消化器・内視鏡】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

- ・侵襲的消化器治療を増やし、7:1 維持に寄与する。

→早期胃がんの発見数が増え、ESD が過去最高となりました。

大腸 ESD の算定ができる施設基準 20 件にあとわずかとなりました。

- ・肝臓病診療の拡大、充実

(造影エコー、肝生検、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓術)

→肝細胞癌の検査治療が昨年度より増加しました。

外来看護師が付くことが可能となり、

内視鏡看護師は内視鏡に専念する体制ができました。

- ・内視鏡的手術を増やし、消化器癌の死亡者数を減らす。

大腸ポリープ切除術件数を増加させる

→目標の 360 件を超えるペースです。

大腸内視鏡件数が増えたためです。

- ・ 外来待ち時間の短縮 90 分以内

→ 検診異常、胃腸炎の内科への誘導もあり、

平均待ち時間は短縮できました。

- ・ 業務を見直し医療の質を向上させる

→ 内視鏡での鎮静剤使用を減らす、

ミダゾラムでの体動に対するヘルプを初めからしない、

ポリペク前の点滴ルート確保をやめる、

など手間のかかる業務の見直しを行い、成果がありました。

QC 活動はできませんでした。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

- ・ 消化器センターの核となる内視鏡検査件数を増加させる

→ 昨年度の 6000 件前後ペースで、目標の 6100 件には達しないペースです。

この数年では初めて検査数が頭打ちとなりました。

田中内科クリニックへの出向などで検査医が減少しました。

射水市胃がん検診は秋の時点から断ることになりました。

それにも関わらずほぼ現状維持だったのは、

内視鏡室スタッフの業務が効率化されたためと思われます。

- ・専門技術の向上（スタッフ対象のミニレクチャー）

→時間が取れず十分できませんでした。

- ・カプセル内視鏡検査を増やす

→24件の目標を下回りました。

出血源不明の消化管出血で、小腸出血の診断が可能でした。

- ・肝炎ウイルス陽性者の適切な管理

→現在の電子カルテでは対応困難にて、新しい電子カルテに変更の際に、

ウイルス陽性のアラート機能、受診を促す案内状作成、

HCV消失の有無もカルテの表示マークでわかるように依頼中です。

- ・クリニカルパスの充実

→少しずつ行なっていますが12の目標には届きませんでした。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

- ・まだ課題は多いですが、月曜祝日の内視鏡検査を行いました。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・医師減少をカバーするため、スタッフが協力して頑張りました。

医師は、外来、内視鏡をシームレスに行き来する、

ケアメイトの診察介助なしでの外来など。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・健診科と相談を重ねて、内視鏡検査予約件数を調整しました。

健診の内視鏡が増加しています。

- ・外科医師が消化器センターにすることで、

手術への動きがよりスムーズになりました。

今年度も多くの患者の外科手術をお願いしました。

- ・企画課との連携で経営面での改善を図っています。

- ・施設管理課との連携で、使用機器、材料の戦略を相談しました。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

- ・「消化器内科」から「消化器センター」の名称に慣れてきました。

射水市の消化器疾患は自分たちが請け負うという自覚が育ってきました。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

- ・診療の幅が広がり、より消化器患者さんのお役に立てました。

高岡医療圏肝炎市民講座や富山テレビ健康番組での便秘のコメントなど、

専門性の認知度が上がりました。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

(どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も)

- ・患者に寄り添ったケア、対応を行ったことに感謝の言葉を頂いた時。
- ・名だたる中核病院をスルーして遠方から消化器診療を希望して受診される。

地道な努力を継続すれば、少しずつ評判が広がるに違いない。

8) 今年度積み残した課題は？

- ・昨年度以上に射水市胃がん検診の申し込みを断ることになり、残念でした。

業務改善で回転をよくして、地域住民の希望に添いたいと思います。

- ・オリンパス VPP 契約、富士フィルムリースの内視鏡機器を

どのような割合で使用すればコストパフォーマンスに優れるのか、

結論が出ないまま終わりました。

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・センター化して昨年度は順調に伸びましたが、

今年度は医師減少の影響で苦戦しました。

より一層の業務の効率化を進め、余裕はあるが成果が上がる体質とします。

医療安全の向上、地域との結びつきを強めます。

- ・将来は、厚生連高岡病院、高岡市民病院よりも検査数を上回り、

射水市だけでなく呉西地区の消化器診療の核、

文字通りのセンターとなります。

- ・患者教育用動画の作成中で、待合室だけでなく世界に発信できるものにします。

- ・外来スタッフの消化器疾患への理解を深め、患者指導のスキルアップを

行います。ただ「外来を回す」のに精一杯の状態から脱却し、

患者一人一人に向き合う専門職の集団を目指します。

- ・スタッフが一丸となって、材料費削減、業務効率化に取り組みます。

消化器センター 真野鋭志

【腎透析センター】

1、今年度の活動の振り返り

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

・腎疾患患者に対する適切な指導

→概ね毎週患者カンファレンスを行い、多職種間における情報共有を図ることができたため

・患者の診療に対する満足度を向上する

→SP研修に参加するスタッフを計画的に選出し、ケアの向上に向けた取り組みを行うことができた。

・新たに開設したセンターの有効活用

→腎透析センターとして、透析センター看護師がCKD看護相談業務を担うことで、センターとしての機能を果たすことができた。

・紹介患者や転医希望患者の十分な受け入れ体制を確立する

→当院での受け入れ条件等（空床状況、送迎バスの利用条件）を明した上で、当院への転院を希望された患者は全て受け入れることができた。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

・特にありません。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

センター開設当初は、数年かけて患者数を 70 名にする予定でしたが、患者や地域からの要望が多くあり、8 月中には 25 台全てのコンソールが整備された。

2 月現在で、患者数は 75 名に達しており、大きな成果である。

3) どのようなことを頑張りましたか？

- ・ 転院患者のスムーズな受け入れ（待機期間をなるべく短くする）
- ・ 送迎バスの運用までの計画と実際の運用開始
- ・ オンコール対応の件数増加（2 月現在 7 件、これまで年 0～1 件）
- ・ 災害時の災害専用ダイヤル（NTT）の活用と患者への周知
- ・ 学会発表：医師 2 件、看護師 3 件、臨床工学技士 1 件
- ・ MR 主催の勉強会での講師：看護師 1 件
- ・ 早出体制の整備
- ・ 透析システムの導入
- ・ スピリチュアルケアへの意識付けと実践
- ・ 腹膜透析患者の退院後訪問
- ・ 院内での勉強会実施（各病棟、訪問看護ステーション）

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

- ・シャント造設後の処置を泌尿器科に一部移行→従来は外科外来で処置をして

いたが、泌尿器科外来に移行した。

- ・薬剤科へ取りに行く時間の固定化

→従来は薬剤科へ処方薬を取りに行く時間を決めておらず、その都度電話をかけたり、行き違いあったりしていた。取りに行く時間を固定化することにより、電話の頻度や行き違いが減少した。

- ・レントゲン撮影を午前は南館撮影室で、午後は本館撮影室で行う

→透析センターからの動線や患者の ADL 等に配慮し行っている。午前是要介助者が多いため、南館での対応としている。午後は比較的 ADL 介助を要する患者が少なく、放射線科スタッフも少ないため本館での対応としている。

- ・受付業務の簡素化

→翌日の患者一覧を FAX にて医事課に送信している。従来行っていた医事課スタッフが透析センターに来て、受付業務を行う作業がなくなった。

- ・転院相談票の作成

→かねてからの懸案事項であった相談票を作成することで、当院が把握したい情報を一元化することができた。事前の情報収集漏れがなくなった。

- ・医療秘書課の協力

→ 注射オーダーのほかに定期的な検査、腹膜透析液の業者への薬剤請求など
医師の仕事を補助

5) 部署としてどのように成長しましたか？

当初の想定とは大きく異なった患者の急増により、スタッフ数が十分ではない
中で、患者さんの安心と満足を意識し、業務を行うことができた。業務が雑多と
なる中で、それぞれの業務を見直し、チームとしてどのように行動すればよいの
か考えられるようになり、適宜スタッフカンファレンスを行うことができるよ
うになってきている。これまで以上にチームがまとまってきている。

SP 研修受講者が5名いることで、キュアではなく、ケアに意識を向けることが
できるようになってきており、透析センターの強みとなりつつある。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしました
か？

- ・送迎バスの導入により、射水市を中心（9割）に高岡市、富山市からの患者も
受け入れている。

- ・センター開設後より、のべ35～40名の患者を受け入れた。

- ・透析中に糖尿病療養指導士によるフットケア（爪切り等）を行っている。

- ・透析中の足浴の実施

- ・透析中にエルゴメータを使用してリハビリを行っている。

- ・腎臓病教室の開催（今年度は 3/14）

7）この 1 年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

（どのようなプロセスを部署として大切にしたら実現できましたか？という視点も）

- ・安心と満足 of 医療を提供

→当院を選んでいただいた患者を多く受け入れ、これまでに大きな問題もなく業務の遂行

- ・自利利他の精神

→透析に関わる資格の取得や更新、学会や勉強会への積極的な参加し実践

→スピリチュアルケアの意識付けと実践

→スタッフの苦しみの共有

8）今年度積み残した課題は？

- ・専属看護職員の補充（看護師 2～3 名、ケアメイト 1 名）

- ・透析システムの評価

- ・スピリチュアルケアの実践

- ・患者ケアカンファレンスの充実

- ・透析センター内におけるスピリチュアルケアの啓発（勉強会の実施）

2、今後の展望

(例：来年度のビジョン、それに向けての課題、挑戦したい新しい仕事、伸ばしたい得意分野、次の〇ヶ月で集中すべきこと、他部門に期待したいこと、・・・等)

- ・CKD 看護相談ができる看護師の育成（現在 3 名→4～5 名）
- ・運動推進チーム（リハビリ）との連携強化
- ・糖尿病看護相談との連携強化
- ・在宅腹膜透析の新規装置「かぐや」の普及

真生会富山病院

内科 二村明広

akihirof@shinseikai.or.jp

【糖尿病センター】

1、今年度の活動の振り返り

2018年5月糖尿病センター稼働した。2つの診療室と看護相談室ができ、環境が整った。当初は患者呼び出し番号システムがなく、情報室と相談して患者呼び出しシステムを作ってもらった。診察及び看護相談ともに利用者は増加中である。特に看護相談受診者数は対前年度比約180%で推移している。患者交流の目的で1型糖尿病交流会・糖尿病患者交流会の企画運営を行った。

糖尿病教室の継続的運営を継続して行っている。

1) 年初に立てた部署目標の評価

(1) 達成できた目標と、達成できた理由は？

患者交流会の開催 糖尿病療養委員会のスタッフの協力があり達成できた。

(2) 達成できなかった目標と、未達の理由は？

ポンプ治療1名導入 高額の治療になり患者のニーズがなかった。

2) 年初に立てた部署目標以外の成果は？

リブレ・リブレプロを糖尿病センターで解析することにより患者の2階検査室に行く負担が減った。検査室スタッフの業務も減り業務改善に繋がった。

看護師もリブレ・リブレレーターを確認して患者の血糖変動と生活スタイルについて考えるようになった。

1 型糖尿病診療の質の向上につながり、県外からも紹介患者が来るようになった。1 型糖尿病患者の血糖コントロールが明らかに改善された。(平成 31 年度糖尿病学会年次学術集会発表予定)

3) どのようなことを頑張りましたか？

看護相談枠を増やし、糖尿病センターに通院されるすべての患者さんの話を聴く気持ちで日々の業務を行ってきた。糖尿病学会総会、地方会での発表。

1 型糖尿病サマーキャンプに、患者と共に参加。

4) 他部署との連携を図るのに、どのような工夫をしましたか？

透析センター・各病棟・訪問看護ステーションこちらの看護師から依頼や相談を受けたことには速やかに対応して患者の情報共有を行い連携をはかっている。

医事課スタッフと連携して糖尿病診療の加算に抜けがないか確認している。

5) 部署としてどのように成長しましたか？

医師・看護師・管理栄養士と連携をして糖尿病診療を行っている。

リブレ会合 1 回/月

糖腎会合 1 回/月 糖尿病性腎症の症例検討を行っている。

スタッフのレベル向上を日々行っている。

6) 顧客（患者、職員、他部署、病院、地域等）に、どのような貢献をしましたか？

射水市の糖尿病診療の拠点病院として、医療を行い、外来にて約2100名の診療を行っている。

糖尿病教室は約20年間継続して行っている。

射水市糖尿病 DAY の劇での糖尿病患者さんへの啓蒙活動をした。

病病連携での当院での看護相談の取り組みを紹介した。

対人援助研修での糖尿病センターの取り組みの紹介した。

7) この1年間で病院理念が実現できた瞬間はどんな時だったですか？

治療が進歩し、糖尿病性腎症の改善例を、多数経験できた。

糖尿病療養指導チームで患者に、安心満足の医療を提供できるところ。

8) 今年度積み残した課題は？

糖尿病患者会をつくる。

2、今後の展望

糖尿病患者会をつくり、情報交換やコミュニケーションの場をつくる。

1型糖尿病の拠点医療機関となる。

腎機能の経時的変化グラフを、電子カルテに作成してもらい、本当の意味での「透析予防指導」となる、診療、指導を探求していく。

平成30年度 10大ニュース 投票結果

総合 順位	ニュース
1位	創立30周年記念行事「感謝の集い」開催
2位	南館増築工事竣工
3位	JMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)の認証取得
4位	腎透析センター開設
5位	病棟の入れ替え実施(わかば病棟⇄さくら病棟)
6位	平成30年職員旅行
7位	形成外科新設
8位	外来患者数が、過去最高の1489人を記録
9位	何氏眼科医院との調印(医療交流)
10位	糖尿病センター開設